

2025 年度

1 年次授業概要

塗りつぶされている科目は、1 年次に履修する科目です。

必修は、必ず履修する科目です。

選択は、あなた自身が各科目のなかから選択して履修する科目です。

日本赤十字広島看護大学カリキュラム（2022年度入学生から適用）

区分	授業科目	単位数			保健師課程必修	助産師課程必修	時間数	履修年次およびセメスター、単位数							
		必修	選必	選択				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
基盤科目	赤十字の歩みと活動Ⅰ	1					15	1							
	赤十字の歩みと活動Ⅱ	1					15								1
	生命倫理			2			30	2							
	日本国憲法 ★			2			30	2							
	教育の本質と過程			2			30		2						
	心理学概論			2			30	2							
	発達心理学 ※2			2		○	30		2						
	統計学	2					30					2			
	化学概論 *			2			30	2							
	生物学概論 *			2			30	2							
	社会の構造と機能			2			30	2							
	国際社会と平和			2			30		2						
	文章表現法			2			30		2						
	ヒューマンケアリング論 ◆			1			15					1			
	英語Ⅰ (Reading & Writing)	1					30	1							
	英語Ⅱ (Oral Communication)	1					30		1						
	英語Ⅲ (Basic Nursing English) ★	1					30				1				
	英語Ⅳ (Intermediate Nursing English) ★	1					30				1				
	瀬戸内の文化と歴史			1			15	1							
	環境共生論 (環境と人間の相互関係)			1			15	1							
	科学論 (サイエンスの目的と方法)			1			15		1						
	フランス語			1			30				1				
	中国語			1			30				1				
	異文化コミュニケーション (Intercultural Communication) ◆			1			30				1				
	国際医療問題 (Global Issues in Healthcare)			1			30				1				
	イギリス語学短期留学 (English Study Abroad)			2			60		2						
	言語学習スキル (Language Learning Skills)			1			30	1							
	看護英語 (International Nursing English) ◆			1			30				1				
専門基礎科目	教育人間学	2					30	2							
	医学概論	1					15		1						
	栄養と健康	1					30	1							
	体育 (健康と活動の理論と実践) ★			2			30	2							
	ライフサイクルと学習			2			30					2			
	社会心理学			2			30				2				
	基礎ゼミ	1					30	1							
	生化学	1					30	1							
	人体の構造と機能Ⅰ (生理学基礎、解剖学基礎、呼吸器系、血液系、感覚器系)	2					30	2							
	人体の構造と機能Ⅱ (神経系、骨、筋系、循環器系)	2					30		2						
	人体の構造と機能Ⅲ (消化器系、胆・肝・脾系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖系)	2					30		2						
	病理学	2					30				2				
	病態治療学Ⅰ (呼吸器疾患、循環器疾患、神経・筋疾患、内分泌疾患、代謝性疾患、血液疾患)	2					30				2				
	病態治療学Ⅱ (消化器疾患、腎・泌尿器疾患、がん治療、手術療法、運動器疾患、麻酔法、免疫系疾患、感染系疾患)	2					30				2				
	周産期学 ※2			2		○	30								2
	新生児学 ※2			2		○	30								2
	臨床薬理学	2					30				2				
	感染と免疫	1					30		1						
	疫学	2					30				2				
	保健統計学 ※1			2	○		30					2			
	情報リテラシー ★	2					30	2							
	情報科学Ⅰ (基礎)			1			30		1						
	情報科学Ⅱ (応用)			1			30								1
	保健行動論 ※1 ※2			2	○	○	30				2				
	保健医療福祉行政論 ※1			2	○		30				2				
	家族と社会 ※2			1		○	15		1						
	社会福祉と社会保障	2					30				2				
	人間工学			1			15				1				
	多職種連携論 ※1	1			○		15		1						

* 中等教育から高等教育への橋渡し科目

** 選択であるが、履修推奨科目

※1 保健師教育課程選択者は必修

※2 助産師教育課程選択者は必修

◆ 國際救援・開発協力看護履修プログラムは必須

★ 保健師の資格取得後に養護教諭二種免許を申請する場合、単位取得が必要な科目

基盤科目的選択科目は4単位以上を修得（国際救援コースは5または6単位以上）

日本赤十字広島看護大学カリキュラム（2022年度入学生から適用）

区分	授業科目	単位数			保健師課程必修	時間数	履修年次およびセメスター、単位数									
		必修	選必	選択			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
	看護学概論 I (看護の目的・対象・方法)	1				15	1									
	看護学概論 II (看護実践の基盤)	2				30		2								
	基礎看護技術 I (日常生活援助①)	1				30	1									
	基礎看護技術 II (日常生活援助②)	1				30		1								
	基礎看護技術 III (診療に関わる援助)	1				30		1								
	フィジカルアセスメント	1				30			1							
	看護過程	1				30			1							
	援助的人間関係論	1				15	1									
	医療安全と看護実践	1				15										1
	看護倫理学	1				15										1
	看護の基礎実習 I (地域で生活する人々の健康) (レベル I)	1				45		1								
	看護の基礎実習 II (アセスメントに基づくケアの実践) (レベル II)	3				135			3							
	災害看護学概論	1				15										1
	災害看護活動論			1		30										1
	赤十字救護・援助方法 (救急法)	1				30	1									
	統合看護援助演習	1				15										1
	看護管理学	2				30										2
	看護教育学	1				15										1
	国際救援活動論 I ◆			1		45		1								
	国際救援活動論 II ◆			1		30										1
	国際看護学演習 I (国際赤十字及び異文化看護)	2				60										2
	国際看護学演習 II (フィリピンにおける国際救援活動)	2				60										
	国際看護学演習 III (フィリピン大学短期研修)	1				30										1
	国際看護学演習 IV (ラソース大学短期留学)	3				90	1									3
	総合看護実習 (レベル IV)	2				90										2
	母性看護学概論	1				15			1							
	母性看護援助論	2				30			2							
	母性看護援助演習	1				30										1
	母性看護学実習 (レベル III)	2				90										2
	ウィメンズヘルス ※2			2	○	30										2
	助産学概論 ※2			2	○	30										2
	助産診断技術学 ※2			2	○	30										2
	助産診断技術展開論 ※2			1	○	15										1
	助産診断技術演習 ※2			2	○	30										2
	リプロダクティブヘルス ※2			1	○	15										1
	助産実習 ※2			9	○	405										9
	リプロダクティブヘルス実習 ※2			1	○	45										1
	地域母子保健実習 ※2			2	○	30										2
専門科目	小児看護学概論	1				15			1							
	小児看護援助論	2				30			2							
	小児看護援助演習	1				30										1
	小児看護学実習 (レベル III)	2				90										2
	成人看護学概論	1				15			1							
	成人看護援助論 I (慢性和不可逆的健康課題を有する人への援助)	2				30			2							
	成人看護援助論 II (エンドオブライフにある人と家族への援助)	1				15			1							
	成人看護援助論 III (急激な健康破綻と回復過程にある人への援助)	2				30										2
	成人看護援助論 IV (慢性和不可逆的健康課題を有する人への援助)	1				30			1							
	成人看護援助論 V (急激な健康破綻と回復過程にある人への援助)	1				30			1							
	成人看護学実習 I (健康レベル別) (レベル III)	2				90										2
	成人看護学実習 II (クリエイカルケア) (レベル IV)	3				135										3
	老年看護学概論	1				15			1							
	老年看護援助論 I (症状と看護)	1				15			1							
	老年看護援助論 II (疾患と看護)	1				15										1
	老年看護援助演習	1				30										1
	老年看護学実習 I (生活支援) (レベル III)	2				90										2
	老年看護学実習 II (健康の維持・回復) (レベル IV)	2				90										2
公衆衛生看護概論	精神看護概論	1				15			1							
	精神看護援助論	2				30										2
	精神看護援助演習	1				30										1
	精神看護学実習 (レベル III)	2				90										2
	公衆衛生看護概論	1				15	1									
	在宅看護概論	1				15			1							
	在宅看護援助論	2				30										2
	在宅看護援助演習	1				30										1
	個人・家族・集団・組織の援助演習	1				30			1							
	公衆衛生看護活動方法論 ※1			2	○	30										2
	公衆衛生看護活動方法演習 ※1			1	○	30										1
	公衆衛生看護活動展開論 (個人・家族・集団・組織) ※1※2			2	○	○	30									2
	公衆衛生看護活動展開論 (産業・学校) ※1			1	○	15										1
	公衆衛生看護支援技術 ※1			2	○	30										2
	公衆衛生看護理論 ※1			1	○	15										1
	公衆衛生看護学実習 I (産業) ※1			1	○	45										1
	公衆衛生看護学実習 II (学校・市町村・保健所) ※1			4	○	180										4
地域・在宅看護論実習 (レベル III)	地域・在宅看護論実習 (レベル III)	2				90										2
	代替療法			1		15										1
	研究方法	2				30										2
	卒業研究 I (研究計画書作成)	2				30										2
	卒業研究 II (研究論文作成)			2		30										2
	看護の動向と課題			1		15										1
	卒前スキルアップ演習			1		30										1
	インターン体験実習 (就職予定施設におけるインターンシップ)			1		45										1

卒業要件 卒業するには、本学に4年以上在学し、右表の卒業要件に従って単位を修得することが必要です。

区分	必修	選択	合計	単位数
基盤科目	8単位	16単位以上	52単位以上	
専門基礎科目	28単位	(選択必修科目 4単位以上を含む)	74単位以上	126単位
専門科目	74単位			

必修科目

年度	2025
科目名	赤十字の歩みと活動Ⅰ
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修／選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	L100

担当教員

氏名
◎角田 敦彦

ディプロマポリシーとの関連性	1-1)
授業の概要	国際赤十字・赤新月運動の歴史、活動、理念の学びを通して人間として、また人道を実現する医療人に相応しい人間的資質を養います。
到達目標	1) 国際赤十字・赤新月運動（日本赤十字社を含む）の歴史、理念、活動について理解し、説明できる。 2) 赤十字と国際人道法の基本的な内容や赤十字標章の正しい使い方について自分の言葉で説明できる。 3) 人道と人権の概念の理解を深め、人間尊重の文化について自分なりの意見を持つことができる。 4) 学習した内容を元に他者に赤十字の概要を説明できる。
予習・復習	予習：各授業回の内容に関する資料、国際赤十字関係のHP等を読み課題意識をもって授業に臨む。 復習：講義資料を読み返すとともに、講義や他の学生の意見を振り返り、自己の課題を明確にする。 毎授業、30分の予習、30分の復習を求める。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	特になし。授業の中で適宜資料を提示する。
参考文献	①デュナン, H (1959) .ソルフェリーノの思い出(新装版初版). 大津印刷株式会社. ②ピクテ, J (2006)/井上忠男(訳)(2011).解説 赤十字の基本原則(第2版). 東信堂. ③井上忠男 (2015) .戦争と国際人道法. 東信堂. ④日本赤十字社(2008). 赤十字と国際人道法－普及のためのハンドブック(第3版). 日本赤十字社. ⑤枡居孝・森正尚 (2014) . 新版 世界と日本の赤十字. 東信堂. *その他講義の中で提示します。
評価の方法	授業への参加度（リフレクションペーパー）20%、課題レポート80%で総合的に評価をします。 課題レポート：テーマは講義の中で提示します。 *この授業は、原則として再試験は実施しません。
課題に対するフィードバック	リフレクションペーパーに寄せられたコメント・質問の中で全体に共有すべき内容について、次の授業でコメントをします。
受講生へのメッセージ	授業は、講義のほか質疑、意見交換（ディスカッション）を交えて展開します。科目担当者の実務経験から、人道支援に関する具体的な事例を取り上げ、映像等も交えて紹介します。特に授業参加者は自らの問題意識を高め、積極的な質疑、発言を行うことを期待します。 【重要】 出席回数は、リフレクションペーパーの提出をもってカウントします。また、本科目は1週当たり2コマずつ進みますので、未提出の場合1週当たり2回分欠席扱いとなります。2週以上未提出の場合は出席不足となり課題レポート提出資格を失います。なお、出席回数の管理は自己責任です。救済措置はありませんので慎重に行ってください。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	コースガイダンス 国際赤十字・赤新月運動の起源とアンリーデュナン	本授業の概要を説明する。 赤十字について、どのように理解しているのか確認し、赤十字の活動概要を概説する。	角田 敦彦
第2回	国際赤十字の仕組みと活動	1) アンリーデュナンの活動と国際赤十字の誕生 ・赤十字思想の発祥、その後の発展について理解する。	角田 敦彦
第3回	赤十字標章の意味と適正な使用	1) 赤十字標章の誕生 2) 紛争時にも保護される標章 3) 赤十字標章の適正な使用とは ・赤十字標章がどのように誕生し、どのような意味を持つのか理解する。 ・武力紛争において保護される標章とはどのようなものか、保護された目的の要件とは何かを理解する。 ・赤十字標章を適正に使用するとはどのようなことか、不適正な使用とはどのようなものか具体的な事例から理解する。	角田 敦彦
第4回	赤十字の基本原則	1) 国際赤十字・赤新月運動の基本原則とは ・国際赤十字・赤新月運動の基本原則とその意味について理解する。	角田 敦彦
第5回	戦争の歴史と国際人道法	1) 人類の戦争の歴史と戦争のルール 2) 国際人道法の誕生と発展 ・戦争にもルールがあることを学び、国際人道法の概要について理解する。 。	角田 敦彦
第6回	現代の武力紛争と赤十字および国際人道法	1) 現代国際システムにおける戦争の概念 2) 現在世界で起こっている戦争（紛争）と国際人道法 3) なぜ戦争にルールが存在するのか、違反した場合の罰則とは ・第二次世界大戦後の世界において戦争はどのように位置づけられているのか理解する。 ・現在世界で起こっている戦争（紛争）において、国際人道法はどのように適用され、あるいは適用されていないのか理解する。 ・国際人道法に違反するとはどのようなことか、違反するとどのような処罰があるのか理解する。	角田 敦彦
第7回	日本赤十字社の誕生とその活動	1) 博愛社創設 2) 日本赤十字社の歴史的変遷 3) 日本赤十字社の組織と機構 4) 日本赤十字社の事業活動 ・日本赤十字社の発祥、その後の発展とともに、実際の事業内容について理解する。	角田 敦彦
第8回	国際社会における赤十字の役割	1) 変化する社会と赤十字等人道支援機関 2) 近現代の戦争と人道支援 3) グローバルな社会に生きるとは ・時代とともに戦争の形態が変化し、これに伴い人道支援機関の役割も変化していることを理解する。 ・グローバルな社会において人間尊重のメカニズムがどのように機能するのか理解する。	角田 敦彦

年度	2025
科目名	英語 I (Reading & Writing) A
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時間	2 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	L111

担当教員

氏名
◎ Simon G.Capper

ディプロマポリシーとの関連性	2-1)
授業の概要	This course focuses on improving reading comprehension, vocabulary, and writing skills, reinforcing the grammar and vocabulary acquired in high school and learning to read and write basic English. The skills of self-correction, self-expression and vocabulary development will be emphasized.
到達目標	On completion of the course, learners should be able to 1) communicate opinions and experiences at sentence and paragraph level, and 2) edit their own written texts.
予習・復習	In addition to homework, you should spend at least 40 minutes a week reading graded readers, at least 20 minutes a week familiarizing yourself with the activities of the next class and at least 20 minutes a week revising the vocabulary and expressions used in the previous unit.
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	No text is needed for this course.
参考文献	Supplementary materials will be provided by the teacher.
評価の方法	1. Participation in extensive reading programme (40%) 2. Homework writing portfolio (40%) 3. In-class vocabulary tests (20%)
課題に対するフィードバック	Visual, written and oral feedback on the homework tasks will be provided prior to and at the beginning of each class or in the course of subsequent classroom activities.
受講生へのメッセージ	The course will include Active Learning in the form of extensive reading outside the class. For each book you read you will need to take an online quiz using ICT. All classes will be held face-to-face. Remember, you improve your reading and writing by reading and writing, so practise as much as you can and keep a positive attitude. Don't make the mistake of learning English simply to get a credit. Learn English to make yourself a more rounded and interesting person, and a more effective, empathic nurse. Office hours: I am available any time between 9:00 a.m. and 6:00 p.m. when I don't have classes or meetings.

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	A guide to editing and submission; a guide to extensive graded reading.	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper

第2回	Self-introductions	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第3回	Self-introductions	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第4回	My favourite photo	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第5回	My favourite photo	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第6回	Anecdotes in English	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第7回	Anecdotes in English	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第8回	Writing about process ? Recipes	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第9回	Writing about process, Recipes	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第10回	My daily routine	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第11回	My daily routine	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第12回	An old photo / The big interview	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第13回	An old photo / The big interview	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第14回	My future dreams and goals / My turning point	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading. Preview the following unit's activity.	Simon G.Capper
第15回	Self-evaluation & reflection	After reading a short example text, learners will engage with error analysis, vocabulary development, grammar awareness and writing fluency activities. After the class, review the unit, complete the homework assignment, and engage in extensive graded reading.	Simon G.Capper

年度	2025
科目名	英語 II (Oral Communication) A
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時間	5 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	L112

担当教員

氏名
◎ Simon G.Capper

ディプロマポリシーとの関連性	2-1)
授業の概要	This course focuses on the development of fluency and oral communication. Students will learn to activate the English they learned in high school, while having the opportunity to express themselves through group and pair communication. The four themes of the course are (i) creative thinking puzzles, which give extensive practise in basic 'yes/no' questions, (ii) short 'speed' questions, aimed at developing automaticity in speech, (iii) questions for communication, which focus on fluency and conversational skills, and (iv) 'Wh-' questions.
到達目標	On completion of the course you should be able to 1) initiate and sustain simple, everyday conversations on a wide-range of topics.
予習・復習	You are expected to review the questions that we used in class, and learn from your mistakes (20 minutes). You will also need to prepare for the following week's class by writing and memorising questions, and completing a crossword (approximately 40 minutes per week).
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
必須文献	Capper, S. (2021). Any Questions?. Perceptia Press. Perceptia Online Learning Support (OLS) Access Card. Perceptia Press.
参考文献	Supplementary materials will be provided by the teacher.
評価の方法	1. Participation in class (10%) 2. In-class small test (10%) 3. Homework (class preparation) (40%) 4. End of term speaking test (40%)
課題に対するフィードバック	Visual and oral feedback on the homework tasks will be provided at the beginning of each class or in the course of subsequent classroom activities.
受講生へのメッセージ	The course will include Active Learning in the form of an online learning system called ZenGengo. Each week's unit will require 30-60 minutes active preparation using the ZenGengo platform to prepare for class. All classes will be held face-to-face. Remember, you improve your speaking abilities by speaking, so practise as much as you can and keep a positive attitude. This class gives you a great opportunity to improve your spoken fluency while getting to know your classmates. Don't make the mistake of learning English simply to get a credit. Learn English to make yourself a more rounded, interesting person and a better, more empathic nurse. Office hours: I am available any time between 9:00 a.m. and 6:00 p.m. when I don't have classes or meetings.

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	Example lateral thinking puzzle: The Island Prisoner An introduction to the course	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第2回	The Dead Man in the Field.	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第3回	The Elevator Puzzle.	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第4回	John and Susan.	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第5回	The Hungry Horse.	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第6回	Food for Thought	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第7回	The Friday Puzzle.	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第8回	The Curious Canine	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第9回	Bankrupt!	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. This class will be carried out face to face. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper
第10回	The Taxi Driver's Revenge	Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities. After the class, students will be expected to complete the following homework assignments: Prepare 25 questions for the lateral thinking activity. Complete the general knowledge crossword. Memorise the crossword questions.	Simon G.Capper

第11 回	The Embarrassing Grandmother	<p>Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities.</p> <p>After the class, students will be expected to complete the following homework assignments:</p> <p>Prepare 25 questions for the lateral thinking activity.</p> <p>Complete the general knowledge crossword.</p> <p>Memorise the crossword questions.</p>	Simon G.Capper
第12 回	The Noisy Burglar	<p>Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities.</p> <p>After the class, students will be expected to complete the following homework assignments:</p> <p>Prepare 25 questions for the lateral thinking activity.</p> <p>Complete the general knowledge crossword.</p> <p>Memorise the crossword questions.</p>	Simon G.Capper
第13 回	John! Don't Shoot!	<p>Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities.</p> <p>After the class, students will be expected to complete the following homework assignments:</p> <p>Prepare 25 questions for the lateral thinking activity.</p> <p>Complete the general knowledge crossword.</p> <p>Memorise the crossword questions.</p>	Simon G.Capper
第14 回	The Movie Murder	<p>Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities.</p> <p>After the class, students will be expected to complete the following homework assignments:</p> <p>Prepare 25 questions for the lateral thinking activity.</p> <p>Complete the general knowledge crossword.</p> <p>Memorise the crossword questions.</p>	Simon G.Capper
第15 回	Review & preparation for the test.	<p>Questioning activity in pairs and small groups; pair and group conversation activities.</p> <p>After the class, students will be expected to prepare for the test.</p>	Simon G.Capper

年度	2025
科目名	教育人間学
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S100

担当教員

氏名
◎ 矢野 博史

ディプロマポリシーとの関連性	1-1),3-3)
授業の概要	カントは「人間は教育によってのみ人間になることができる」と述べました。以来、教育学は広く人間の生の全体にその関心を向けてきました。この講義では、そうした教育学的な関心の成果について学習し、看護の対象でもある人間の存在そのものについての洞察を深めていきます。
到達目標	1)教育学的な人間観について理解する。 2)人間としての成長と教育の関係について理解する。
予習・復習	下記の通り必須文献は特に指定していません。テーマごとに事前に資料を配布しますので、毎回の講義の際には、資料を読んだうえで出席してください。 毎回の授業終了後にCosenseというオンラインツールを用いて受講生相互の意見交換を行います。2回目以降の授業では、皆さんが行なった意見交換の内容を踏まえ、講義の冒頭で補足説明や発展的な解説を行います。その際に、発展的な学習のための教材の配布、文献の提示を行いますので、この授業の予習・復習の際にはこれらの資料を活用してください。またCosense上の各回のコメントページは、予習・復習にも有用ですので、隨時参照してください。 予習・復習の所要時間は、それぞれ90分程度です。
アクティブラーニング型授業の有無	有 (ペアワークとその成果発表)
双方向型授業のためのICT活用の有無	有 (Coseneの活用)
必須文献	なし
参考文献	人間学や教育学の問題領域を理解するためには以下の文献を参考にしてください。 1) 菅野盾樹(1999). 人間学とは何か. 産業図書. 2) 小笠原道雄(2003). 教育の哲学. 放送大学教育振興会. 3) 丸山恭司, 山名淳(編) (2019). 教育的関係の解釈学. 東信堂.
評価の方法	期末レポート (70%) 、質問や発言等の講義への参加状況 (30%)
課題に対するフィードバック	毎回の授業後、Cosense上のコメントへのリプライを行います。 提出されたレポートにはコメントをつけて返却します。
受講生へのメッセージ	この科目は対面授業で行います。 この講義では、毎回終了後にCosenseというオンラインツールを用いた意見交換を行います。また、Cosenseは授業中の意見発表にも活用します。使い方の詳細は、初回講義時にお知らせします。 Cosenseへのコメント記入は出欠の確認にも用います。 授業改善のため、最終回終了後には「授業評価アンケート」にご協力お願いします。 この科目が活発な学び合いの場になることを期待しています。 オフィスアワー：授業終了後30分間、講義内容に関する質問等を研究室9で受け付けます。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	教育人間学の対象を知る	人間に対する「考え方」、教育に対する「考え方」を学ぶ理由について考えていきます。思想と理論の関係について考えていきます。	矢野 博史
第2回	「人間／人間性」について考える	動物と人間の違いを視点として、人間にとての教育の意味について考えます。あらためて「人間とは」と問うことの重要性を理解します。	矢野 博史
第3回	教育と人間の関係について考える	人間の存在について文化や理性との関係から考えていきます。	矢野 博史
第4回	人間像の変遷Ⅰ	古代ギリシャを中心に時代の人間像について理解します。	矢野 博史
第5回	人間像の変遷Ⅱ	超越性との関わり方の中心に中世の人間像を理解します。	矢野 博史
第6回	人間像の変遷Ⅲ	近代の人間像としての「個人」の誕生と近代教育の関係を理解します。	矢野 博史
第7回	人間像の変遷Ⅳ	近代の人間にとて世界と私の関係はどう考えられてきたのかを理解します。	矢野 博史
第8回	人間像の変遷Ⅴ	自律と共生をキーワードとして後近代の人間像について考えていきます。	矢野 博史
第9回	「人間」のフィールドⅠ 暴力の人間学	暴力という負の側面から見えてくる人間像について考えていきます。 9回目から14回目の授業では一つのキーワードをもとにして人間の姿をより多角的に理解していくことを試みます。	矢野 博史
第10回	「人間」のフィールドⅡ ケアの人間学	ホモ・クーランス（ケアする存在）としての人間について理解します。	矢野 博史
第11回	「人間」のフィールドⅢ 遊びの人間学	「遊び」をキーワードにして人間について考えていきます。	矢野 博史
第12回	「人間」のフィールドⅣ 病と健康の人間学	「病と健康」をキーワードにして人間について考えていきます。	矢野 博史
第13回	「人間」のフィールドⅤ 子どもの人間学	「子ども」をキーワードにして人間について考えていきます。	矢野 博史
第14回	「人間」のフィールドⅥ メディアの人間学	「メディア」をキーワードにして人間について考えていきます。	矢野 博史
第15回	「人間」に「成る」ことは—教育と人間の関わりを もう一度考える—	これまでの内容を振り返りながら、教育の意義と限界について考えていきます。	矢野 博史

年度	2025
科目名	医学概論
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	月曜日
代表時限	5 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S101

担当教員

氏名
◎ 朝原 秀昭

ディプロマポリシーとの関連性	5-1)
授業の概要	看護師は医師の指示の下、診療の補助や療養上の世話をを行うのが仕事ですが、医療チームの対等な構成員として働いているので、ただ単に医師の指示を待ったり、無批判に医師の指示に従ったりというようではいけません。医学や医療やそこに関与する自分達のなすべきことを考え、主張し、議論する中で患者に対する適切な医療を行うことができる看護師を目指す必要があると思います。まだ現実がわかっていない時期だからこそ考えられることもあるので、よく考え、議論してみましょう。
到達目標	1) 現代の医学や医療に対する問題点を指摘できる。 2) 自分達がどのような方向に進むべきなのか論点を整理できる。 3) 自分の主張に対して、論理的な議論ができる。
予習・復習	毎授業、90分以上の予習、90分以上の復習を求める。
必須文献	なし。
参考文献	適宜示す。
評価の方法	試験 100%
課題に対するフィードバック	その都度コメントする。
受講生へのメッセージ	授業は、各回のテーマについて学生間で議論してもらいます。黙っていては議論になりませんので積極的に発言してください。発言者がいなければ司会者が指名しますが、いつ指名されても発言ができるように準備してきてください。せっかく準備してくるのなら発言してください。 すべての講義を対面授業で実施します。 原則、授業資料は電子媒体での配信となるため、受講生は自身のパソコン/タブレットで資料を受信の上で、授業に臨むこと。 オフィスアワー：月曜の8時30分から9時30分

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	人工妊娠中絶	人工妊娠中絶は現在でも意見が対立している問題です。宗教観や精神論で解決できる問題ではありません。何が問題でどうすれば解決の方向に進んでいけるのか現実的な問題として検討してください。	朝原 秀昭
第2回	臓器移植	臓器移植はいろいろな問題を抱えています。何が問題でどうすれば解決の方向に進んでいけるのか現実的な問題として検討してください。	朝原 秀昭
第3回	トリアージ	トリアージは機能することもあれば患者に不利に働くこともある。これは本当に必要なのか、代替策はないのか、本来、どうするべきなのだろうか等について検討してください。	朝原 秀昭

第4回	救急は断らない	救急は断らないという病院が素晴らしい病院であるというように感じる人が多いようですが、救急は断らないと言わざるを得なかった背景にはどんなことがあって、何が問題なのか、どう対応すべきなのかについて検討してください。	朝原 秀昭
第5回	公平な医療	医療において公平とは何だろうか。公平でなければいけないのだろうか。公平な医療の問題点は何だろうか等について検討してください。	朝原 秀昭
第6回	地域医療が抱える問題	地域医療は多くの問題を抱えていると言われています。何が問題でどうすれば解決の方向に進んでいかれるのか現実的な問題として検討してください。	朝原 秀昭
第7回	看護は患者のために何ができるのか	看護は患者のためになっているのだろうか。看護はその結果が見えにくいだけに本当に患者のためになっているのかを確認しながら行動を修正していく必要があると思います。患者や家族の「ありがとう」を聞くだけでは心もとない感じがします。何ができるどのように確認し、どのように修正していくのかについて検討してください。	朝原 秀昭
第8回	プロとして医療に加わるものとして、学生の時期に何をしておくべきか	学生時代は普通の大学生をしていても、4月に就職したらすぐに看護のプロですと言わなければなりません。そんなことができる人は少ないでしょう。学生時代にはその時にしかできないこともたくさんあると思います。よく検討し、実践してください。	朝原 秀昭

年度	2025
科目名	栄養と健康
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S102

担当教員

氏名
◎ 山内 有信

ディプロマポリシーとの関連性	3-1), 3-2), 4-1)
授業の概要	栄養状態の良否は、健常者の健康の維持・増進だけでなく傷病者の治療や予後にも影響します。栄養の専門職は「管理栄養士・栄養士」であるが、看護師は、最も傷病者と密接にかかわる職域の一つであり、院内におけるチーム医療の一環である栄養サポートチーム（NST）の一員として、多くの情報提供者となります。そこで、栄養素の基礎知識はもちろんのこと、栄養ケア・マネジメントの基礎知識やすべての栄養管理の基礎となる「日本人の食事摂取基準」などについて学習します。
到達目標	1) 栄養素の役割について理解し、栄養素のバランスを考えた食事を意識するようになる。 2) 健康の維持・推進や疾病の治療と栄養素摂取の関係について理解し、現場において対象者のケアに役立てるようにする。 3) 看護師として栄養管理における多職種連携の重要性を感じ、連携を意識した行動をとるよう心がける。 4) 臨床における支援に活用するために、自らが望ましい食生活の実践を心掛ける。
予習・復習	予習 必ずテキストの関連範囲に目を通し、分かりにくい（授業でしっかり説明を聞く必要があると感じた）箇所に線を引いたうえでノートに書き足したり、分からない・知らない単語については、ノートに書き出して事前に調べておいたりしておくこと 復習 もう一度テキストや資料、ノートを見返したうえで提示された課題小テストに取り組むこと。 準備学習に必要な時間 毎授業、90分の予習・復習が必要である。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	山内有信(2017). 栄養・食生活と健康. 三恵社.
参考文献	山内有信(2021). 基礎栄養学－栄養生理化学－. 三恵社. 柏下淳, 上西一弘 編(2014). 栄養科学イラストレイティッド 応用栄養学. 羊土社.
評価の方法	2/3以上の出席者を評価対象として、次の方法で評価します。 期末試験の正解率（100%）を基準として、「期末試験の得点誤差×一律係数」や「課題の正解率×一律係数」を加算し、授業への取り組み姿勢（課題提出率など）での係数加減を行ったうえで、成績評価ランクの度数分布を考慮して最終的な一定の係数調整を施して最終評価とします。
課題に対するフィードバック	・課題については、可能な限り解答解説を用意し、提出後に評点とともに閲覧できるようにします。 ・課題という位置づけではありませんが、課題の最後に質問欄を設けます。質問等が記載されていた場合は、可能な範囲で次の授業に資料として掲示したり、ストリーム掲載あるいは内容（個人情報保護が必要と思われる場合）によっては個別に回答したりします。
	・原則としてすべて対面で実施します。ただし、第1回目のみGoogle Classroomを利用した遠隔オーディオ型で実施します。 ・受講の際には、毎回Googleフォームを利用した出席申告登録を行います。登録のタイミングはその都度指示を出します。なお、「評価の方法」に記載した通り、2/3以上の出席がない場合は評価対象外（単位不認定）となります。

受講生へのメッセージ
<p>・毎回の授業ごとにGoogleフォームを利用した小テスト形式の課題提出が必要です。課題は、原則として授業終了のタイミングに公開し、提出まで数日の猶予を設けますが、締め切りを過ぎても提出は可能ですが、締め切りの数日後に行う小テスト点数結果の取り込み処理後に提出された課題の点数は受け付けません（未提出として処理します）。</p> <p>・専門外と思うと大間違い。チーム医療の現在、チームの一員として活躍するためには、多領域の知識も必要です。また、患者様とのコミュニケーション（話題づくり）にもなりますし、何といっても自分自身の健康にも役立ちます。</p>

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	栄養とは	授業形態：遠隔（Google Classroom）オンデマンド型 栄養の概念（栄養素とはなにか、栄養とは何か）を通じて導入を図る。	山内 有信
第2回	糖質の栄養	授業形態：対面 糖質とは何か、その消化吸收、代謝と役割および健康との関係について学ぶ。	山内 有信
第3回	脂質の栄養	授業形態：対面 脂質の化学構成、消化吸收、代謝と役割および健康との関係について学ぶ。	山内 有信
第4回	たんぱく質の栄養	授業形態：対面 脂質の化学構成、消化吸收、代謝と役割および健康との関係について学ぶ。	山内 有信
第5回	ビタミンの栄養	授業形態：対面 ビタミンの種類と役割および健康との関係について学ぶ。	山内 有信
第6回	ミネラルの栄養	授業形態：対面 ミネラルの種類と役割および健康との関係について学ぶ。	山内 有信
第7回	体水分および食物繊維	授業形態：対面 体内における水の分布、役割および健康との関係について学ぶ。 食物繊維の種類、役割および健康の関係について学ぶ。	山内 有信
第8回	エネルギー代謝	授業形態：対面 エネルギーの产生、代謝について学ぶとともに、健康づくりのための運動について学ぶ。	山内 有信
第9回	食生活と健康	授業形態：対面 食生活と健康の関係として、生活習慣病予防と栄養について学ぶ。	山内 有信
第10回	栄養ケア・マネジメントの概念	授業形態：対面 院内において栄養サポートチーム（NST）活動に看護師も関わることを考慮し、栄養ケア・マネジメントの概略について理解する。	山内 有信
第11回	栄養アセスメント	授業形態：対面 栄養状態は、治療効果だけでなく予後の状態や再発に関与することを考慮し、栄養状態の判定（アセスメント）の方法について学ぶ。	山内 有信
第12回	食事療法と栄養補給法	授業形態：対面 疾病治療に食事療法が必要な場合が多い。そこで、代表的な食事療法と栄養補給法の概略について学ぶ。	山内 有信
第13回	食事摂取基準	授業形態：対面 国民の健康維持・増進、生活習慣病予防を目的とし、栄養素をどのように摂取すべきかの指針となる「食事摂取基準」の目的や意義、指標について理解する。	山内 有信
第14回	母性栄養	授業形態：対面 ライフステージ別栄養摂取のあり方とし、とくに注意が必要である母性（妊娠婦）の栄養について理解する。	山内 有信
第15回	高齢者栄養	授業形態：対面 高齢社会を迎えた今日、在宅介護と在宅医療は連動しなくてはならない。そこで、高齢者の栄養特性と注意点について理解する。	山内 有信

年度	2025
科目名	基礎ゼミF
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	通年
配当年次	1
配当セメスター	01、02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S104

担当教員

氏名
◎ 矢野 博史
田村 由美

ディプロマポリシーとの関連性	3-2),5-1)
授業の概要	この講義では「考える→表現する」を通じて学問的な姿勢を身につけます。そのために身の回りにある出来事を取り上げ、それに対する自分の意見を、ゼミナール形式で全体的な議論のなかに位置づけていきます。
到達目標	1)学習した内容に関して、様式にそった論理的なレポートを作成することができる。 2)目的に沿った情報、あるいは適切な文献を探すことができる。 3)自分の考えを分かりやすくプレゼンテーションすることができる。 4)討議に参加することができる。
予習・復習	下記の必須文献を通読して授業に臨むようにしてください。 毎時間、次回講義の資料を配布するので、事前に目を通して講義に臨んでください。 各回の課題の成果物は必ず次の時間までに見なおしておいてください。 予習・復習の所要時間はそれぞれ45分程度です。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	刈谷剛彦(1996). 知的複眼思考法. 講談社.
参考文献	①APA(2019)/前田樹海,江藤裕之(2023). APA論文作成マニュアル 第3版. 医学書院. ②佐藤望/湯川武, 横山千晶, 近藤明彦(2012). アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門(第2版). 慶應義塾大学出版会.
評価の方法	課題作成時の提出物 (20%) 個人発表時の提出物 (50%) 討議における発言の積極性 (30%)
課題に対するフィードバック	各回における課題に関する質問は、随時授業中に受け付けます。 提出されたレポートにはコメントをつけて返却します。
受講生へのメッセージ	この科目はすべて対面で行います。 Learning by doing. 授業への積極的な参加を期待しています。資料は事前に配布しますので所定の講義時には目を通しておいてください。 出欠は講義の際に確認します。 授業改善のため、最終回終了後には「授業評価アンケート」にご協力お願いします。 オフィスアワー：授業終了後30分間、講義内容に関する質問等を研究室9で受け付けます。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	大学で学ぶということ	本学のディプロマポリシーとカリキュラム、実践学としての看護学を学すことの意義	田村 由美
第2回	文献検索の作法 図書館から<社会>を見る 【文献検索のステップアップ講座（本学図書館主催）】	配布資料：『文献検索の作法』（本学図書館作成）	矢野 博史
第3回	「考える」練習① 多角的に、あるいは複眼的に眺めてみる。	活動内容：複数の視点から資料を読み込んでいく。 提示資料：だまし絵、『しろいうさぎとくろいうさぎ』（ウイリアムズ）	矢野 博史
第4回	「考える」練習② 歴史の中の「連続」と「断絶」について資料を読みながら考える。	活動内容：社会的背景と物語の結びつきについて考察する。 配布資料：『赤ずきん』（ペローほか）、『監獄の誕生』（フーコー）、『子供の誕生』（アリエス）	矢野 博史
第5回	プレゼンテーション演習 テーマを持って歩いて出会った出来事（フィールド・ワーク）を資料として提示しながら発表する。	活動内容：「考える＝準備する」→「見る・撮る」→「調べる」→「まとめる＝資料作成」→「伝える」	矢野 博史
第6回	課題リストの作成 身近な「はてな？」から「問い合わせ」を立てる。	活動内容：図書館内の資料から発表のテーマを探す 配布資料：課題リスト用紙 提出課題：作成した課題リスト	矢野 博史
第7回	課題メモの作成① 「問い合わせ」の背景・内容・展望をまとめる。	活動内容：図書館内の資料を使って課題メモを作成する。 配布資料：課題メモ用紙 提出課題：作成した課題メモ	矢野 博史
第8回	課題メモの作成② 「問い合わせ」の背景・内容・展望をまとめる。	活動内容：図書館内の資料を使って課題メモを作成する。 配布資料：課題メモ用紙 提出課題：作成した課題メモ	矢野 博史
第9回	課題メモの発表 他者の目を通して世の中を知る。	配付資料：各自の課題メモのコピー	矢野 博史
第10回	文献検索の練習	活動内容：Webcat Plus等のデータベースを用いて課題メモから関連文献の所在を確認する。	矢野 博史
第11回	論文の作法① レジュメの作り方を知る。	配布資料：学会の投稿規定など	矢野 博史
第12回	論文の作法② 論文作成の基本事項を確認する。	配布資料：「論文を書くための準備」など	矢野 博史
第13回	最終レポートのテーマに関連する事項について文献検討を行う。	最終レポートのテーマに関して「問い合わせ」のフィールド図を作成する。	矢野 博史
第14回	主題文の作成 最終レポートで行う論証の基本形を作成する。	活動内容：配布資料にしたがって課題文を作成し、添削を受ける。 配布資料：「主題文の作成」・「決定版主題文の作成」	矢野 博史
第15回	個人発表 最終プレゼンテーション	活動内容：個人発表を行う。 提出課題：発表原稿およびレジュメ	矢野 博史

年度	2025
科目名	基礎ゼミF
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	通年
配当年次	1
配当セメスター	01、02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S104

担当教員

氏名
◎ 朝原 秀昭
田村 由美

ディプロマポリシーとの関連性	3-2), 5-1)
授業の概要	グループワークの中で、他人との連携や疑問点の解決方法、プレゼンテーションの方法を学びます。その成果として自分たちの名前の入った1編の論文を仕上げます。
到達目標	1)他人と連携して業務を実施する。 2)文献などの検索を実施する。 3)自分の言葉でプレゼンテーションを実施する。 4)他人のプレゼンテーションに対して質問を行う。
予習・復習	毎授業、45分以上の予習、45分以上の復習を求める。 英語で書かれた論文を読むことが特別なことではなく、日常の一部になることを求めます。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
必須文献	指定しない
参考文献	指定しない
評価の方法	レポート (100%) レポートの提出期限、提出方法については授業の中で指示します。 再試験はありません。
課題に対するフィードバック	レポートはコメントをつけて返却します。
受講生へのメッセージ	一つのことを半年かけて調べ、他人の前で発表するという経験は非常に重要です。はじめてのことでのことで、スムーズには進まないかもしれません、ゆっくり、時間をかけて考えてください。 オフィスアワー：月曜の8時30分から9時30分

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	大学で学ぶということ	本学のディプロマポリシーとカリキュラム実践学としての看護学を学ぶことの意義	田村 由美
第2回	文献検索のステップアップ講座（本学図書館主催）	文献検索のステップアップ講座（本学図書館主催）	朝原 秀昭

第3回	論文作成への準備	<p>興味のあるテーマをグループごとに選び、発表、討論する形式で行い、最終的に1編の論文を仕上げます。</p> <p>4グループ程度に分け、グループ発表の仕方や最終レポートなどについて説明します。</p> <p>予習：看護に直接関わらない内容で、論文のテーマをあらかじめ3題程度考えてください。</p> <p>復習：論文が出来上がるまでの予定作成と、役割分担をメンバーで話し合って決めて下さい。</p>	朝原 秀昭
第4回	論文検索の実際	<p>論文の検索方法を学びます。</p> <p>与えられた条件に最も合う論文を検索し、それを引用文献の書式に書き、本文に引用してみます。</p> <p>予習：各自で本学図書館のホームページにある論文検索プログラムを利用して検索練習をしてきて下さい。</p> <p>復習：何度も検索練習をして、自分の求める論文が多く手に入るようにして下さい。</p>	朝原 秀昭
第5回	論文の構成と文章の特徴	<p>論文特有の構成と文章の書き方の特徴を学びます。</p> <p>剽窃という行為の意味を理解します。</p> <p>予習：科学論文の書き方というような言葉で検索し、なるべく多くの人達の意見を読んで来て下さい。</p> <p>復習：実際に論文を書くことで、自分では疑問に思わないような書き方でも剽窃に該当するということを実感して下さい。</p>	朝原 秀昭
第6回	各グループの進行状況報告とグループでの作業	<p>書いている論文を書き直すとともに、自らの論文を補強し、根拠を提示するための論文を追加収集します。</p> <p>予習：自分の論文を修正ってきて、修正点を報告して下さい。</p> <p>復習：収集した論文を読み、理解して下さい。</p>	朝原 秀昭
第7回	各グループの進行状況報告とグループでの作業	<p>書いている論文を書き直すとともに、自らの論文を補強し、根拠を提示するための論文を追加収集します。</p> <p>予習：自分の論文を修正ってきて、修正点を報告して下さい。</p> <p>復習：収集した論文を読み、理解して下さい。</p>	朝原 秀昭
第8回	各グループの進行状況報告とグループでの作業	<p>書いている論文を書き直すとともに、自らの論文を補強し、根拠を提示するための論文を追加収集します。</p> <p>予習：自分の論文を修正ってきて、修正点を報告して下さい。</p> <p>復習：収集した論文を読み、理解して下さい。</p>	朝原 秀昭
第9回	各グループによる発表と質疑応答（発表10分、質疑応答10分）	<p>論文の内容と進行状況、今後の方針について、パワーポイントを使用し、原稿を見ずに、自分の言葉で発表します。</p> <p>他のグループのメンバーは、全員、必ず質問、コメントなどを行って下さい。</p> <p>決められた日時までに、質疑応答内容も考慮して、論文の初稿を完成させます。</p> <p>予習：パワーポイントをしっかり作って、10分間をきちんと使って発表ができるように発表練習をして下さい。</p> <p>復習：論文内容の修正をして下さい。</p>	朝原 秀昭
第10回	各グループの進行状況報告とグループでの作業	<p>論文の論理的でない部分や説明不足な部分などを修正します。</p> <p>必要な文献の検索とその精読を行います。</p> <p>予習：あらかじめ修正して来て下さい。</p> <p>復習：論文の修正と文献の精読を行って下さい。</p>	朝原 秀昭
第11回	各グループの進行状況報告とグループでの作業	<p>論文の論理的でない部分や説明不足な部分などを修正します。</p> <p>必要な文献の検索とその精読を行います。</p> <p>予習：あらかじめ修正して来て下さい。</p> <p>復習：論文の修正と文献の精読を行って下さい。</p>	朝原 秀昭
第12回	各グループによる発表と質疑応答（発表10分、質疑応答10分）	<p>論文の内容と進行状況、今後の方針について、パワーポイントを使用し、原稿を見ずに、自分の言葉で発表します。</p> <p>他のグループのメンバーは、全員、必ず質問、コメントなどを行って下さい。</p> <p>予習：パワーポイントをしっかり作って、10分間をきちんと使って発表ができるように発表練習をして下さい。</p> <p>復習：論文内容の修正をして下さい。</p>	朝原 秀昭
第13回	各グループの進行状況報告とグループでの作業	<p>論文の論理的でない部分や説明不足な部分などを修正します。</p> <p>必要な文献の検索とその精読を行います。</p> <p>予習：あらかじめ修正して来て下さい。</p> <p>復習：論文の修正と文献の精読を行って下さい。</p>	朝原 秀昭

第14 回	各グループの進行状況報告とグループでの作業	論文の論理的でない部分や説明不足な部分などを修正します。 必要な文献の検索とその精読を行います。 予習：あらかじめ修正して来て下さい。 復習：論文の修正と文献の精読を行って下さい。	朝原 秀 昭
第15 回	各グループの最終発表と質疑応答（発表10分、質 疑応答10分）	論文の内容について、パワーポイントを使用し、原稿を見ずに、自分の言葉で発表します。 他のグループのメンバーは、全員、必ず質問、コメントなどを行って下さい。 予習：パワーポイントをしっかり作って、10分間をきちんと使って発表ができるように発表練習 をして下さい。 復習：論文の最終チェックをして決められた日時までに論文を提出して下さい。	朝原 秀 昭

年度	2025
科目名	基礎ゼミF
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時間	4 時限
講義開講時期	通年
配当年次	1
配当セメスター	01、02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S104

担当教員

氏名
田村 由美
◎ 丸山 愛子

ディプロマポリシーとの関連性	3-2), 5-1)
授業の概要	大学での主体的な学習や研究の仕方について考えます。効果的な情報収集の方法や様々な研究手法に関する基礎的な知識を学びます。 心理学や看護学の先行研究を読み、知識の習得だけでなく、論文を書く基本的ルールを学びます。看護実習や緊急時に役立つ対応も紹介します。 丸山ゼミでは、「個人研究」と「グループ研究」のどちらにも取り組みます。 個人研究とグループ研究それぞれでレポートを作成し、口頭発表してもらいます。
到達目標	1) 大学での学習の仕方を習得し、課題に対してグループでも個人でも主体的に取り組める。 2) 研究の基礎的な方法を知り、簡単なものに関しては活用できる。 3) 図書館やコンピュータを利用して、短時間に的確な情報を入手できる。 4) 適切な資料収集後、資料を整理し、論理的なレポートを作成することができる。 5) 研究発表会では時間内で調べたことを簡潔に発表し、適切な質疑応答ができる。
予習・復習	毎回の授業のために、予習と復習（合計90分以上）を求めます。 各回の予習（課題）については、Google classroomを参照して取り組んでください。 また、授業内容に対応する教科書を事前に読み、疑問等予め調べるなどして参加してください。 疑問に関して解決していない場合は、授業内で質問してください。
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	田中共子 編著 (2020). よくわかる学びの技法 第3版. ミネルヴァ書房.
参考文献	授業の中で紹介、提示します。
評価の方法	個人発表+提出物（50%）、グループ発表+提出物（30%）、討議やグループ・ワークへの参加や態度（20%） 評価：丸山の担当するゼミ生については、丸山が評価します。 次回の授業において、前回のコメントカードや課題に関する評価に関して可能な範囲でコメントします。
課題に対するフィードバック	授業内で適宜質疑応答を受けつけ、すぐに回答します。グループ研究発表と個人研究発表後に、評価をすぐに全体に講評します。 課題、発表、授業へのコメントカード（学生が授業後に毎回提出するもの）に関しては、対応が必要な内容と質問には、内容に応じて以下2つの方法でフィードバックを行います。 ①個人に直接返答・コメント（Google Classroomあるいはgmailを使用） ②課題やコメントカードの動向や重要な質問内容に関しては、次の講義で全体に紹介・解説、情報共有して学びにつなげます。
	授業形態 : 15コマは対面、必要時にはオンデマンド授業を実施（必要時、遠隔授業変更は迅速にGoogleClassroomから連絡） 授業の出欠確認：①Google classroomに準備したフォルダに各授業内容の感想・要望・疑問・調べたくなった内容(復習時間としてカウント可能)への期限内の記載

受講生へのメッセージ	<p>②授業内でいろいろな方法で出欠確認を実施</p> <p>授業内容 : アクティブラーニング型授業（課題発表、ペア・ワーク、グループ・ワーク、KJ法ジグソー学習法等）、双方向型授業のためのICT活用（意見交換等）を実施</p> <p>丸山ゼミの活動 : 「グループ研究発表」と「個人研究発表」の両方に取り組みます。</p> <p>興味・関心事をより深く調べ、レポートとしてまとめて提出、最終的には発表</p> <p>情報検索・図書館利用 : 図書館の有効な活用の学習後は、定期的に情報収集して技術を定着させる。</p> <p>オフィスアワー : 授業直後の10分間、授業実施日あるいは次の日の12:20~12:50、その他</p> <p>場所は研究室12にて対応 (am11116@jrchn.ac.jpから時間を予約できます)</p> <p>注意点 : 課題の提出は、必ず期日を厳守しましょう。期日を過ぎると、減点対象です。</p> <p>諸問題を社会・自分自身・日常生活とのつながりから検討できるように意識しましょう。</p> <p>興味を持ったことをより深く調べ、仲間に紹介できるようにまとめて発表してください。</p> <p>仲間や教員との議論を通して、自分と仲間の新たな側面を発見し、成長につなげましょう。</p> <p>15コマの授業終了後は、「授業評価アンケート」にご回答ください。</p> <p>皆さんのご意見が授業改善につながりますので、ご協力をお願いいたします。</p>

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	大学で学ぶということ 本学のディプロマポリシー	<p>授業形態 : 対面 (1年生全員で受講する授業、教室は後日連絡)</p> <p>本学のディプロマポリシーとカリキュラム</p> <p>実践学としての看護学を学ぶことの意義</p>	田村由美
第2回	情報検索・図書館利用の仕方を学ぶ コンピュータを使い情報収集しよう 文献検索の具体的な方法を知ろう	<p>授業形態 : 対面 (詳細については後日連絡)</p> <p>図書館研修 (図書館か情報処理室で実施)、情報収集方法の学習</p> <p>予習 : 図書館探索 & 発見しよう (本学の図書館の特徴を発見する)</p> <p>復習 : 習得した知識を実践にうつす</p> <p>2週間の間に図書館に行き復習 (ひとりで取り組もう)</p>	丸山愛子
第3回	基礎ゼミの概要 自己紹介 アカデミック・スキルズ アサーティブなコミュニケーション	<p>授業形態 : 対面 (第3回以降は201講義室 = 丸山担当の基礎ゼミ)</p> <p>大学で学ぶことの意義</p> <p>基礎ゼミの概要</p> <p>アカデミック・スキルズとは グループ討議</p> <p>アサーティブなコミュニケーションの方法 グループ討議</p> <p>予習 : 大学で学ぶ意義を熟考、本学のディプロマポリシーを必読</p> <p>復習 : 4年間のカリキュラムを分析する</p>	丸山愛子
第4回	①情報収集の重要性とその方法 課題解決のための情報収集と分析の方法 ②問題と課題の違い 研究の流れを知る	<p>授業形態 : 対面</p> <p>①情報収集と正確な伝達の重要性</p> <p>②研究の流れを知る (課題発見 → 情報収集 → 観察・調査 → 分析 → 課題解決 → 発表 → 論文化)</p> <p>テーマに関する情報収集と整理、レジュメ作りと添削</p> <p>図書館を利用して関連情報を集めよう</p> <p>グループワーク、ペア・ワーク</p> <p>予習 : これまでと大学入学後の情報収集の違いを考える</p> <p>復習 : 先行研究の収集、効率的な情報収集を実践する</p>	丸山愛子
第5回	①自分の意見をまとめること・伝達すること ②プレゼンテーションの基本スキル ③アサーション・トレーニング	<p>授業形態 : 対面</p> <p>①自分の考えを整理して伝えるために必要なこと</p> <p>②研究発表の仕方</p> <p>議論 : なぜ人前発表すると緊張するのか?</p> <p>プレゼンテーションのスキル、質疑応答のルール</p> <p>③社会スキル アサーションとは?</p> <p>グループワーク、ペア・ワーク</p> <p>予習 : 自分の考えを整理して伝達するポイントを考える</p> <p>調べたい課題を選択してくる + 関連論文を2つ持参</p> <p>復習 : 先行研究の収集、収集した論文を読む</p>	丸山愛子
第6回	論文の読み方 論文を書く上でのルールを学ぼう 本学紀要の投稿ルール APAの規定を紹介	<p>授業形態 : 対面</p> <p>①興味のある学術論文を持参 → 論文から法則を発見する</p> <p>②論文の読み方</p> <p>③本学の紀要の投稿規程、APAのルール</p> <p>グループワーク、ペア・ワーク</p> <p>予習 : 本学紀要の投稿ルールを読んでくる</p> <p>復習 : 収集した論文を読んでまとめる</p>	丸山愛子

第7回	グループ・ワーク グループワークに関する注意事項 興味のあるテーマを相互に発表、班分け 各班に分かれて図書館で情報収集	授業形態：対面 ①課題設定とグループ研究発表の方向性を話し合う：グループ・ワーク ②文献収集：テーマに関する的確な文献を入手、文献を読んで整理 グループワーク 予習：興味のあるテーマを考える(グループ・ワーク用のテーマとなる) 復習：グループで資料収集、発表の構成を考える、パワーポイントの作成	丸山 愛子
第8回	論文の読み方・書き方 引用文献の探し方 引用文献の書き方 図表の書き方 論文の結果の読み取り方	授業形態：対面 ①学術論文と学会発表の原稿を読み比べてみよう 議論 ②引用文献の探し方と書き方のルール ③学術論文の図表の記載のルール グループワーク、ペア・ワーク 予習：興味のある学術論文と学会発表の原稿をできれば印刷して持参しよう 復習：自分が集めた資料の引用文献のリストを作成してみよう グループで資料収集、発表の構成を考える、パワーポイントの作成	丸山 愛子
第9回	グループ・ワーク最終打ち合わせ グループ研究の発表会	授業形態：対面（後期の授業） ①研究発表の準備：グループ・ワーク ②後期の授業でグループ研究発表会(プレゼンテーション) グループワーク 予習：グループ発表の準備 復習：グループ発表の反省	丸山 愛子
第10回	患者とのコミュニケーション－実習に備えて－（DVD視聴） 適切な患者への対応とは	－患者とのコミュニケーションのポイント－ 予習：好ましいコミュニケーションとそうでないコミュニケーションを考えてくる 復習：学習した好ましいコミュニケーションを日常生活において実践する 授業形態：対面、DVD視聴、グループワーク、ペア・ワーク DVD視聴：看護教育シリーズ 目で見る精神看護第2版 Vol.2 精神看護実習 ①看護実習とは、看護実習で求められること ②看護師として必要なこと ③患者とのコミュニケーション	丸山 愛子
第11回	レポートと論文の違い レポート・論文を書く際のルール	授業形態：対面、グループワーク、ペア・ワーク ①テーマと内容の中間発表 ②議論：レポートと論文の相違点・類似点 ③レポート作成の基本 ④論文作成の基本とルール 予習：中間テーマの発表レジュメの作成 復習：アドバイスに基づきさらに研究テーマに関連する資料を収集して読む	丸山 愛子
第12回	看護師としての接し方 不適応行動とは？ DVD視聴から学ぶ	授業形態：対面、DVD視聴、グループワーク、ペア・ワーク 不適応行動 対策と予防 DVD視聴：DVDで学ぶ精神科看護講座 精神科の看護の基本 Vol.3 患者さんの強みを見つけ出すためのコミュニケーションスキル 個人研究発表に関する注意事項 予習：不適応行動の症状・対策・予防について考える、個人発表の練習 復習：看護における不適応行動とは？	丸山 愛子
第13回	個人研究の発表会 前半 (卒業研究に準じた形式で発表)	授業形態：対面 個人研究発表会 各発表の後質疑応答（質疑応答練習）、理解を深める 発表者の良かった点を相互に評価・伝達し合う 提出物：発表レジュメ（A4,1枚,両面印刷可、レジュメは全員に配布）を提出 ②レポートは締切日までの提出でいい（必ずしも発表日に提出する必要はない） 予習：個人発表の練習 復習：個人発表の反省と提出課題の作成	丸山 愛子
第14回	個人研究の発表会 後半 (卒業研究に準じた形式で発表)	授業形態：対面 個人研究発表会 各発表の後質疑応答（質疑応答練習）、理解を深める 発表者の良かった点を相互に評価・伝達し合う 提出物：発表レジュメ（A4,1枚,両面印刷可、レジュメは全員に配布）を提出 ②レポートは締切日までの提出でいい（必ずしも発表日に提出する必要はない） 予習：個人発表の練習 復習：個人発表の反省と提出課題の作成	丸山 愛子

第15 回	基礎ゼミでの学びの総括と今後の展望 個人研究発表会を振り返る グループ研究と個人研究	授業形態：対面 学習成果の共有と課題、解決策の検討 グループワーク、ペア・ワーク 予習：グループ発表と個人発表での学習成果と今後の課題についてまとめる 復習：15回の学びを振り返る	丸山 愛 子
----------	--	--	-----------

年度	2025
科目名	基礎ゼミF
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	通年
配当年次	1
配当セメスター	01、02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S104

担当教員

氏名
田村 由美
○ 宗内 桂

ディプロマポリシーとの関連性	3-2),5-1)
授業の概要	探究したいテーマに対する自己の主張をレポートにまとめ、その成果をプレゼンテーションすることを通して、大学で学ぶための基礎的技法である「自ら問い合わせを立て、その答えに対する根拠を示し論証する」ことについて理解を深めます。
到達目標	1) 目的に応じて適切な情報や文献を検索し入手することができる。 2) 自己の考えを論理的かつ双方向的に他者に伝えることができる。 3) 自ら立てた問い合わせに対する主張を論証することができる。
予習・復習	毎回の授業毎に、45分間以上の予習・復習を求めます。 予習：シラバスに提示している文献や配布資料を用いて授業内容を事前学習し、自己の考えを持って授業に参加しましょう。 復習：授業内容を踏まえ、レポート作成、プレゼンテーションに向けて準備を進めましょう。また、残された疑問点を調べ、解決に向けて取り組みましょう。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	①井下千以子(2019). 思考を鍛えるレポート・論文作成法[第3版].慶應義塾大学出版会.
参考文献	①佐藤望[編著], 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦(2020). アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門(第3版). 慶應義塾大学出版会. ②戸田山和久(2022). 最新版 論文の教室: レポートから卒論まで. NHK BOOKS.
評価の方法	レポート60%、プレゼンテーション20% 課題20% 科目責任者が評価を行う。
課題に対するフィードバック	課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。 提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。
受講生へのメッセージ	授業は全て対面で行います。オフィスアワーは、担当教員の研究室にて各回授業終了後に30分間設けます。 毎回の授業は、学生主導のディスカッションやプレゼンテーションを中心に進めます。自ら問い合わせを立てて答えを探求し、論証する力を身につけましょう。看護職は、個人の責任として継続学習による能力開発が求められていることから、積極的にディスカッションに参加し、自律して学ぶ姿勢を培うことを期待します。 電子媒体で配信する授業資料があるため、自身のパソコン/タブレットを持参し授業に臨んでください。 授業内容は進捗に合わせて前後することがあります。授業改善のため、最終回終了後は「授業評価アンケート」にご協力をお願いします。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	大学で学ぶということ	本学のディプロマポリシーとカリキュラム、実践学としての看護学を学すことの意義	田村 由美

第2回	情報収集の基礎	文献検索の方法（図書館主催）	宗内 桂
第3回	大学での学びを活かす力	大学での学びとアカデミックスキルズ 社会人基礎力、自己評価、共有 メールの書き方、マナー	宗内 桂
第4回	レポート作成の基礎①	レポート・論文の区別、レポート・論文の基本構成 テーマ、論点の絞り込み（文献検索、文献検討、ブレーンストーミング） 主題文の作成、共有	宗内 桂
第5回	レポート作成の基礎②	アウトライン作成の基礎知識 アウトライン作成 仮テーマ設定、共有	宗内 桂
第6回	レポート作成の基礎③	論証の技法 パラグラフの書き方の基本、パラグラフの構造	宗内 桂
第7回	レポート作成の基礎④	レポート・論文作成における作法（引用の示し方、文献リストの書き方） わかりやすい文章にするための留意点 レポートループリックの活用法	宗内 桂
第8回	レポート作成①	アウトラインに基づくレポートの執筆 論証に必要な文献検索、文献入手 レポートループリックを用いた自己点検評価、他者評価	宗内 桂
第9回	レポート作成②	アウトラインに基づくレポートの執筆 論証に必要な文献検索、文献入手 レポートループリックを用いた自己点検評価、他者評価	宗内 桂
第10回	レポート作成③	アウトラインに基づくレポートの執筆 論証に必要な文献検索、文献入手 レポートループリックを用いた自己点検評価、他者評価	宗内 桂
第11回	レポート作成④	アウトラインに基づくレポートの執筆 レポートループリックを用いた自己点検評価、他者評価	宗内 桂
第12回	プレゼンテーションの基礎①	プレゼンテーションの目的 プレゼンテーションの留意点 わかりやすい資料作りのコツ	宗内 桂
第13回	プレゼンテーションの基礎②	プレゼンテーション資料作成	宗内 桂
第14回	プレゼンテーション①	レポートの成果発表、ディスカッション プレゼンテーション自己評価	宗内 桂
第15回	プレゼンテーション②	レポートの成果発表、ディスカッション プレゼンテーション自己評価	宗内 桂

年度	2025
科目名	基礎ゼミF
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	通年
配当年次	1
配当セメスター	01、02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S104

担当教員

氏名
田村 由美
○ 益岡 都萌

ディプロマポリシーとの関連性	3-2)、5-1)
授業の概要	有意義な学生生活を送るために大学での学びとは何かについて考えます。また、自分の興味があるテーマに対して、調査、論述、プレゼンテーション、質疑応答などの体験を通して、研究レポートを仕上げます。
到達目標	1) 大学で学ぶ目的を述べることができる。 2) 情報、あるいは適切な文献を探すことができる。 3) 自分の考えをプレゼンテーションできる。 4) 学習したことをレポートとしてまとめる。
予習・復習	第2回からは下記の文献の指定したページを全員が事前に読んでおくこと。全員で内容を確認しながら進めます。 個人研究レポート作成のために、関心のあるテーマを第7回までに考えておいてください。 毎授業、15分の予習、30分の復習を求めます。 ただし特に復習が必要と思われる学習内容については、レポート課題を指示します。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	戸田山和久(2022). 最新版 論文の教室: レポートから卒論まで. NHK BOOKS.
参考文献	湯川武, 横山千晶, 近藤明彦(2012). アカデミック・スキルズ-大学生のための知的技法入門(第2版). 慶應義塾大学出版会.
評価の方法	参加意欲 (コメントシート・授業の演習問題) (20%)、発表 (20%)、レポート作成 (60%) 科目責任者が評価を行う。
課題に対するフィードバック	小レポートの解答例は必要に応じて配布・説明します。最終レポートについては総評を配信します。
受講生へのメッセージ	「大学での学び」について考えることは、有意義な学生生活を送るうえで大切なことです。じっくりと考えてみましょう。第3回から第11回まではグループワークを予定しています。 授業評価アンケートへのご協力をお願いします。 オフィスアワー：金曜日12:20～13:20 (研究室)

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	大学で学ぶということ	本学のディプロマポリシーとカリキュラム、実践学としての看護学を学ぶことの意義	田村 由美
第2回	情報収集の基礎	文献検索の方法(図書館主催)	益岡 都萌
第3回	論文の基本構成	論文、報告書、感想文の違いについて 論文・レポートなどの基本構成について	益岡 都萌

第4回	アウトライン1	論文の種であるアウトラインの作り方について	益岡 都萌
第5回	アウトライン2	アウトラインの作成	益岡 都萌
第6回	論証	さまざまな論証形式について	益岡 都萌
第7回	引用の仕方と図・表の挿入	引用の仕方と文献リストの書き方について、図・表の参照の仕方について	益岡 都萌
第8回	パラグラフライティング	パラグラフと段落の違い・パラグラフの分割について	益岡 都萌
第9回	グループ研究レポートのアウトラインの発表	パワーポイントによるグループ研究レポートのアウトラインの発表・質疑応答	益岡 都萌
第10回	わかりやすい文章	わかりやすい文章するために留意する点について	益岡 都萌
第11回	グループ研究レポートの批評	作成したグループ研究レポートの批評	益岡 都萌
第12回	グループ研究レポートの発表	グループ研究レポートの最終発表・質疑応答	益岡 都萌
第13回	個人研究レポートのアウトラインの発表	パワーポイントによる個人研究レポートのアウトラインの発表・質疑応答	益岡 都萌
第14回	個人研究レポートの批評	作成した個人研究レポートの批評	益岡 都萌
第15回	個人研究レポートの発表	個人研究レポートの最終発表・質疑応答	益岡 都萌

年度	2025
科目名	生化学
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	火曜日
代表時間	5 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S105

担当教員

氏名
◎ 岡田 玄也

ディプロマポリシーとの関連性	3-1)
授業の概要	化学や生物学の学問領域を基礎として、「ヒトの体」が何でできているのか、健康な体内で何が起こっているのかを明らかにし、ヒトに備わった巧妙な生命のしくみを理解します。
到達目標	1) 私たちの体を形作る物質や生体内で起きている化学反応を理解することで、「健康」あるいは「病気」といわれる体内的変化を細胞レベルや分子レベルで説明することができる。 2) 1) で示した内容に関する科学的知識を習得することにより、病気の治療や予防にまでも考えを深めることができる。
予習・復習	講義前の予習は、教科書の章はじめの【学習のねらい】を読んで、全体の流れをつかんでおく。 講義の内容欄にある【復習】を学習して講義に臨む。 講義後は、講義内容が理解できているか確認するために、課題や章末の演習問題を解く。 章末の重要用語は自分の言葉で説明できるようにする。 上記内容として、授業ごとに10分の予習と60分の復習を求める。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	津田道雄(2012). よくわかる 専門基礎講座 生化学(第2版). 金原出版.
参考文献	①畠山鎮次(2019). 人体の構造と機能[2]生化学(第14版). 医学書院. ②宮澤恵二(編)(2017). 人体の構造と機能(2)臨床生化学(第5版). メディカ出版. ③森誠(2013). カラー図解 生化学ノート. 講談社. ④相原英孝他(2022). イラスト生化学入門 -栄養素の旅- (第4版). 東京数学社.
評価の方法	筆記試験：60%、課題とミニテスト：40%
課題に対するフィードバック	章末の演習問題、課題やミニテストの模範解答および解説はオンライン上での配信を行う。
受講生へのメッセージ	講義15コマのすべてを対面で行う予定です。ただし遠隔授業で行う際には遠隔授業を実施する前の週の講義で周知を行います。授業ごとのミニレポート提出はオンラインツール（Google Forms）を用いて行います。そのため、スマートフォンやタブレット、PC等の端末を持参してください。 化学や生物学を苦手とする受講者にも理解しやすいように、図解を多く用いて説明します。 生化学は理解していく学問ですので、毎回復習し理解を深めることが生化学攻略の近道です。 重要用語欄の生化学用語は、しっかり覚えて身につけてください。ミクロの世界の話で難しいと思っていたことが、理解することで楽しくなり、ヒトの体は素晴らしいと言えるような授業を目指します。 アクティブラーニング型授業：本講義ではアクティブラーニング型授業を実施しない予定です。 双方向型授業のためのICT活用：授業ごとのミニレポートや課題の提出及び提出物へのコメントにおいて、双方型授業のためにICTを活用します。 その他、授業の全日程が終了した際には、授業評価アンケートへの回答協力をお願いします。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	第1章 生命の保持と生化学の基本①	生命維持や生体維持に必須な物質は何かを考えます。ヒトにおけるエネルギー代謝の意味を概説します。ホメオスタシス（恒常性）という機構が備わっているので、健康が維持できることを理解します。	岡田 玄也
第2回	第1章 生命の保持と生化学の基本② (第9章 ホルモン)	生命現象を担う最小単位が細胞であることやヒトの体の階層性について概説します。生化学の基本事項（膜輸送、膜受容体、シグナル伝達、細胞内物質の分解合成など）を、ホルモンの作用機能を具体例にあげて理解していきます。	岡田 玄也
第3回	第1章 生命の保持と生化学の基本③	生体（細胞）を構成する物質を化学の視点で概説します。タンパク質、脂質、糖質は細胞固有の構成成分となるとともに、細胞に必要なエネルギー源にもなります。それらの基本的な構造と性質について概説します。	岡田 玄也
第4回	第2章 酵素 第1章、2章のまとめ	<復習：第1章 アミノ酸・タンパク質の基本構造> 生体の化学反応は体温で起こることから、触媒として酵素が欠かせないことを学びます。血清中の酵素の検査が、疾病の診断・治療経過の観察に重要な情報となっていることを理解します。付録(p181)① 血液の生化学検査を参照。 第1回から4回までのまとめと課題等の解説を行います。	岡田 玄也
第5回	第3章 糖質代謝①～④	<復習：第1章 糖質の基本構造と役割> 糖質の消化吸収の意義や、細胞内での糖質代謝経路（解糖系、TCAサイクル、電子伝達系と酸化的リン酸化）を概説します。酸素の供給が十分な場合と十分でない場合のエネルギー獲得経路を理解します。脳や腎臓、心臓でATP消費量が大きい理由を、第11章 ④ 脳・神経組織の働きを参考にして解説します。	岡田 玄也
第6回	第3章 糖質代謝⑤～⑧	<復習：第3章 糖質代謝①～④> 糖新生、ペントースリン酸サイクル、グリコーゲンの合成と分解のそれぞれの役割と生理的意義について理解します。血糖値の維持とホルモンの関係を概説します。	岡田 玄也
第7回	第1～3章まとめ	ここまで学習内容を振り返って、ミニテストを行います。	岡田 玄也
第8回	第4章 脂質代謝①～⑦	<復習：第1章 脂質の基本構造と役割、細胞膜> 水に溶けない脂質を、消化吸収する方法や体内運搬する方法について概説します。脂肪の分解（β酸化）によるエネルギー産生について学びます。脂質は細胞膜の構成成分であり、体に不可欠な物質である一方、動脈硬化の原因物質であることを概説します。第12章 脂質異常症、動脈硬化症を参考。	岡田 玄也
第9回	第5章 アミノ酸・タンパク質代謝	<復習：第1章 アミノ酸・タンパク質の基本構造と役割> タンパク質の形の違いが、多くの種類や多機能性を生みだしていることを理解します。飢餓状態において、タンパク質が代謝されてエネルギー源となることを概説します。アンモニア解毒機構として尿素サイクル（肝臓）の重要性を理解します。	岡田 玄也
第10回	第6章 ヌクレオチド代謝	<復習：第1章 ヌクレオチドの基本構造> プリンヌクレオチドの最終代謝産物は尿酸であり、血中尿酸濃度の上昇は痛風と関連があることを概説します。第12章高尿酸血症を参考。	岡田 玄也
第11回	第7章 遺伝情報とその発現①	<復習：第1章 核酸の基本構造と細胞小器官の役割> 生体内の核酸（DNA, RNA, ATP, GTPなど）の構造と機能について学びます。遺伝子・染色体・ゲノム、DNAの複製について、DVDを視聴しながら概説します。	岡田 玄也
第12回	第7章 遺伝情報とその発現②	タンパク質を合成する過程をDVDを視聴しながら概説します。	岡田 玄也
第13回	第7章 遺伝情報とその発現③	遺伝子の変異が、がん化を引き起こす要因であることを理解します。第12章 ①悪性腫瘍、④先天性代謝異常症を参考にして概説します。バイオテクノロジーの発展が医療に貢献していることを理解します。	岡田 玄也
第14回	第8章 ビタミン	<復習：第2章 酵素（補酵素）> 水溶性ビタミンの補酵素作用、脂溶性ビタミンの生理作用について概説します。脂溶性ビタミンは排出されにくうことから、過剰症を起こしうることを理解します。	岡田 玄也
第15回	第10章 水と無機物 第11章 臓器の生化学 第12章 疾患の生化学	水の性質と役割、細胞内外のイオン組成、酸塩基平衡について学びます。重要な働きをするミネラルの役割について理解します。今まで学んできたことを復習しながら、肝臓、腎臓、筋肉や血液の働きについて、整理しなおし系統的に理解します。また、免疫担当細胞やその働きについて概説します。	岡田 玄也

年度	2025
科目名	人体の構造と機能Ⅰ(生理学基礎、解剖学基礎、呼吸器系、血液系、感覚器系)
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時間	5 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S106

担当教員

氏名
◎ 朝原 秀昭

ディプロマポリシーとの関連性	3-1), 5-1)
授業の概要	医学、医療は人間を対象としており、人間を理解するためには、人体の構造や、それによってもたらされる巧妙な機能に対する知識が重要であるということに疑いの余地はありません。人体の構造や機能を深く知るということは、そのすばらしさに感動できるということであり、それらが障害された人の苦しみを理解する重要な手段を得たということになります。看護の対象になる人たちの持つ苦しみを多元的に理解するためにも人体の構造と機能に対する理解が重要となります。
到達目標	1)人体を構成する各器官の基本的構造を理解する。 2)人体を構成する各器官の基本的機能を理解する。 3)適切に解剖学用語を使用する。 4)適切に生理学用語を使用する。
予習・復習	毎授業、45分以上の予習、45分以上の復習を求める。
必須文献	Patton, K. T. & Thibodeau, G. A.(2016)/コメディカルサポート研究会(訳)(2017). カラーで学ぶ解剖生理学(第2版). メディカル・サイエンス・インターナショナル.
参考文献	適宜示す
評価の方法	試験 (100%)
課題に対するフィードバック	課題はありません。
受講生へのメッセージ	解剖学や生理学は何度も繰り返すことが最も重要です。短時間（5分でも10分でも）でもいいので、必ず、毎日、教科書を開くようにしましょう。何度も訪れた場所の風景はその場所に行かなくても手に取るようにわかるはずです。人間の体のいろいろな部分を何度も訪れていると、きっと、そのすばらしさに感動できるでしょう。 すべての講義を対面授業で実施します。 原則、授業資料は電子媒体での配信となるため、受講生は自身のパソコン/タブレットで資料を受信の上で、授業に臨むこと。 オフィスアワー：月曜の8時30分から9時30分

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	生理学基礎知識 (1)	細胞および細胞内小器官の構造と機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。 高校までのレベルの生物や化学に不安のある人は、高校時代に履修したかどうかに関らず、しっかり勉強して来て下さい。	朝原 秀昭

第2回	生理学基礎知識 (2)	細胞膜の生理学（膜電位、イオンチャネル、受容体など）が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。 対数計算が必要になりますが、実際に計算してみたい人は計算機を持参してください。具体的な数値計算を望まない人には計算機は必要ありません。 微分、積分、対数がわからない人は、高校時代に履修したかどうかに問らず、しっかり勉強して来て下さい。	朝原 秀昭
第3回	解剖学基礎知識	解剖用語および組織学が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第4回	呼吸器 (1)	呼吸器の構造（血管系も含む）が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第5回	呼吸器 (2)	呼吸の機構が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第6回	呼吸器 (3)	呼吸生理（ガス交換）が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第7回	呼吸器 (4)	呼吸運動の調節が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第8回	呼吸器 (5)	呼吸気量と病態生理が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第9回	血液 (1)	血液の組成および赤血球が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第10回	血液 (2)	白血球、血小板、血漿が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第11回	血液 (3)	凝固・線溶系が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第12回	血液 (4)	血液型が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第13回	感覚器 (1)	眼の構造と視覚が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第14回	感覚器 (2)	耳の構造と聴覚・平衡覚が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第15回	感覚器 (3)	味覚・皮膚（体温を含む）が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭

年度	2025
科目名	人体の構造と機能 II (神経系、骨、筋系、循環器系)
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期前半
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S107

担当教員

氏名
◎ 朝原 秀昭

ディプロマポリシーとの関連性	3-1), 5-1)
授業の概要	医学、医療は人間を対象としており、人間を理解するためには、人体の構造や、それによってもたらされる巧妙な機能に対する知識が重要であるということに疑いの余地はありません。人体の構造や機能を深く知るということは、そのすばらしさに感動できるということであり、それらが障害された人の苦しみを理解する重要な手段を得たということになります。看護の対象になる人たちの持つ苦しみを多元的に理解するためにも人体の構造と機能に対する理解が重要となります。
到達目標	1)人体を構成する各器官の基本的構造を理解する。 2)人体を構成する各器官の基本的機能を理解する。 3)適切に解剖学用語を使用する。 4)適切に生理学用語を使用する。
予習・復習	毎授業、45分以上の予習、45分以上の復習を求める。
必須文献	Patton, K. T. & Thibodeau, G. A.(2016)/コメディカルサポート研究会(訳)(2017). カラーで学ぶ解剖生理学(第2版). メディカル・サイエンス・インターナショナル.
参考文献	適宜示す
評価の方法	試験 (100%)
課題に対するフィードバック	課題はありません。
受講生へのメッセージ	解剖学や生理学は何度も繰り返すことが最も重要です。短時間（5分でも10分でも）でもいいので、必ず、毎日、教科書を開くようにしましょう。何度も訪れた場所の風景はその場所に行かなくても手に取るようにわかるはずです。人間の体のいろいろな部分を何度も訪れていると、きっと、そのすばらしさに感動できるでしょう。 すべての講義を対面授業で実施します。 原則、授業資料は電子媒体での配信となるため、受講生は自身のパソコン/タブレットで資料を受信の上で、授業に臨むこと。 オフィスアワー：月曜の8時30分から9時30分

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	神経 (1)	神経細胞の構造と神経生理が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第2回	神経 (2)	脳・脊髄の構造が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭

第3回	神経（3）	神経伝導路が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第4回	神経（4）	脳神経が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第5回	神経（5）	脊髄神経が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第6回	神経（6）	自律神経が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第7回	骨・筋（1）	上肢の骨・筋が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第8回	骨・筋（2）	下肢、体幹の骨・筋が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第9回	骨・筋（3）	筋生理・骨生理が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第10回	循環器（1）	心臓の構造が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第11回	循環器（2）	心臓の拍出機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第12回	循環器（3）	血管・リンパ管の構造と機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第13回	循環器（4）	血液の循環調節が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第14回	循環器（5）	心電図が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第15回	循環器（6）	心臓弁と心音が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭

年度	2025
科目名	人体の構造と機能III（消化器系、胆・肝・脾系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖系）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	後期後半
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S108

担当教員

氏名
◎ 朝原 秀昭

ディプロマポリシーとの関連性	3-1), 5-1)
授業の概要	医学、医療は人間を対象としており、人間を理解するためには、人体の構造や、それによってもたらされる巧妙な機能に対する知識が重要であるということに疑いの余地はありません。人体の構造や機能を深く知るということは、そのすばらしさに感動できるということであり、それらが障害された人の苦しみを理解する重要な手段を得たということになります。看護の対象になる人たちの持つ苦しみを多元的に理解するためにも人体の構造と機能に対する理解が重要となります。
到達目標	1)人体を構成する各器官の基本的構造を理解する。 2)人体を構成する各器官の基本的機能を理解する。 3)適切に解剖学用語を使用する。 4)適切に生理学用語を使用する。
予習・復習	毎授業、45分以上の予習、45分以上の復習を求める。
必須文献	Patton, K. T. & Thibodeau, G. A.(2016)/コメディカルサポート研究会(訳)(2017). カラーで学ぶ解剖生理学(第2版). メディカル・サイエンス・インターナショナル.
参考文献	適宜示す
評価の方法	試験 (100%)
課題に対するフィードバック	課題はありません。
受講生へのメッセージ	解剖学や生理学は何度も繰り返すことが最も重要です。短時間（5分でも10分でも）でもいいので、必ず、毎日、教科書を開くようにしましょう。何度も訪れた場所の風景はその場所に行かなくても手に取るようにわかるはずです。人間の体のいろいろな部分を何度も訪れていると、きっと、そのすばらしさに感動できるでしょう。 すべての講義を対面授業で実施します。 原則、授業資料は電子媒体での配信となるため、受講生は自身のパソコン/タブレットで資料を受信の上で、授業に臨むこと。 オフィスアワー：月曜の8時30分から9時30分

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	消化器（1）	口から胃までの構造と機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第2回	消化器（2）	小腸と大腸の構造と機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭

第3回	消化器（3）	肝臓・胆嚢・脾臓の構造と機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第4回	消化器（4）	炭水化物の消化・吸収が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第5回	消化器（5）	脂肪の消化・吸収が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第6回	消化器（6）	蛋白質の消化・吸収が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第7回	腎・泌尿器（1）	腎臓の構造が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第8回	腎・泌尿器（2）	腎生理、尿細管機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第9回	腎・泌尿器（3）	尿生成が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第10回	腎・泌尿器（4）	排尿・蓄尿機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第11回	腎・泌尿器（5）	水・電解質・酸塩基平衡が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第12回	内分泌（1）	ホルモンの構造と機能が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第13回	内分泌（2）	視床下部・下垂体系が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第14回	内分泌（3）	内分泌臓器が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭
第15回	生殖	生殖細胞の形成が中心になります。 教科書および他の成書の該当部分を読み、理解してきて下さい。 他人に説明できるようになるまで復習してください。	朝原 秀昭

年度	2025
科目名	感染と免疫
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	水曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S109

担当教員

氏名
◎ 菅野 雅元

ディプロマポリシーとの関連性	3-1)
授業の概要	生物にとって一番身近な脅威は「感染症」で、古来多くの人が感染症の流行で亡くなってきました。多様な病原体・微生物が生体に及ぼす影響と、感染症における身体の免疫反応について学習します。特に感染症の成立過程と、ヒト免疫系の関与の理解を目指します。また、多様な病原体・微生物の生物学的理解、ワクチン開発、感染症関連法令、医療関連感染症（院内感染症）の感染予防対策などについて解説します。
到達目標	1) 様々な病原微生物の種類と生物学的違いを理解する。 2) 微生物に起因する感染症の成立過程について理解する。 3) 我々の身体に備わっている免疫系、自然免疫と獲得免疫について理解する。 4) 医療現場での、微生物・免疫系の関与・問題点、最新情報などについて理解する。 5) 感染予防の基本と、感染症の予防対策および関係法令について理解する。
予習・復習	予習 必須文献の該当箇所を一読し、授業に臨みましょう。 復習 必須文献と自身のノートおよび配布資料を参考にし、その日のうちに講義内容の整理を行いましょう。 毎授業、30分の予習、60分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	藤本秀士(編)(2017). わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂3版. 南山堂. 2017年発行の教科書ですが、一応これをを使います。ただし、感染症、免疫学、などの進歩は日進月歩ですので、適宜、授業内で、情報をアップデートしていきます。
参考文献	①小熊恵二他(編)(2018). シンプル微生物学 改訂第6版. 南江堂. ②医療情報科学研究所編(2018). 病気がみえるVol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版. メディックメディア. ③増澤俊幸(著)(2020). 感染制御の基本がわかる。微生物学・免疫学. 洋土社. ④J.Playfair, G.Bancroft(著)入村達郎(訳)(2017). 感染と免疫 第4版. 東京化学同人.
評価の方法	期末試験：100%（再試験は1回のみ、またはレポート提出）
課題に対するフィードバック	毎回、Web上でコメントシートに記入してください。 コメントシートに記述された疑問点や意見について、次回授業で回答します。
受講生へのメッセージ	15回のすべての講義を対面で行います。受け身の講義だけではなく、受講者の積極的参加形式を取り入れる場合があります。 オフィスアワー：基本的に、授業終了後に講義室で受け付けます。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	はじめに、感染症の歴史	はじめに (Introduction) 、感染症の歴史	菅野 雅元
第2回	免疫系 (概論)	免疫とは何か？ 血球系細胞群(造血幹細胞を含む)	菅野 雅元
第3回	免疫系－1	自然免疫系、表面バリア、補体、TLRなどのPRR、炎症、自然免疫系細胞群、新型リンパ球	菅野 雅元
第4回	免疫系－2	獲得免疫系－1、免疫グロブリン（抗体）、B細胞、B細胞分化と白血病、V(D)J遺伝子再構成、多様性獲得機構	菅野 雅元
第5回	免疫系－3	獲得免疫系－2、T細胞、T細胞分化と白血病、細胞性免疫と液性免疫、T細胞レバトア、正・負の選択、制御性T細胞	菅野 雅元
第6回	免疫系－4	細胞性免疫と液性免疫、MHC/HLA拘束性、免疫制御機構	菅野 雅元
第7回	免疫系と疾患－1	感染症と免疫系の関与と相互作用、およびその長所・短所、ワクチン開発	菅野 雅元
第8回	免疫系と疾患－2	免疫関連疾患－1：アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症	菅野 雅元
第9回	免疫系と疾患－3	免疫関連疾患－2：移植免疫（輸血を含む）、腫瘍に対する免疫反応、腫瘍免疫療法、	菅野 雅元
第10回	微生物と感染症－1	主な細菌感染症の種類と各論	菅野 雅元
第11回	微生物と感染症－2	主なウィルス感染症の種類と各論、（プリオンを含む）	菅野 雅元
第12回	微生物と感染症－3	主な真菌感染症、寄生虫感染症の種類と各論	菅野 雅元
第13回	微生物と感染症－4	多様な食中毒、関係法令、人獣共通感染症、衛生動物	菅野 雅元
第14回	感染症予防と感染制御対策 1	感染症に関連した法令、予防接種、感染症の疫学と監視体制	菅野 雅元
第15回	感染症予防と感染制御対策 2	医療関連感染症（院内感染症）、標準予防策（スタンダード・プリコーション）、院内感染防止対策委員会（サーベイランス委員会: ICC）	菅野 雅元

年度	2025
科目名	情報リテラシーA
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S110

担当教員

氏名
◎ 益岡 都萌

ディプロマポリシーとの関連性	2-1), 5-1)
授業の概要	コンピュータとネットワークを活用した情報処理は、情報収集、レポートや論文の作成・提出、発表、就職活動など大学生活を送る上で必要不可欠です。本講義では大学生活の4年間の学習や研究活動を行うために必要な、基礎的な情報処理の知識とスキルを学びます。
到達目標	1) レポートや論文を書くための基本的な文書作成・編集機能が使える。 2) データの分析やグラフ化のための表計算ソフトの基本操作ができる。 3) 基本的なプレゼンテーション資料が作成できる。 4) 情報倫理観を身につけ、インターネット上における脅威から安全を確保することの重要性について説明できる。 5) インターネット活用技術（メール、情報収集など）を理解し、基本的な操作ができる。
予習・復習	・予習（2回目以降）のために、授業の中で事前に、関連する教科書の範囲や参考文献等について指示しますので読んでおいてください。 ・授業で作成したファイルや小レポートのファイルは指定した日時に提出してもらいます。 ・毎回の演習で理解が不十分なところは次回までに復習しておいてください。 毎授業、30分の予習、150分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	富士通エフ・オー・エム株式会社(2022). 情報リテラシー Windows 11・Office 2021対応. FOM出版.
参考文献	その他：適宜、補足資料を配布します（ファイルのダウンロード含む）.
評価の方法	参加意欲（授業で指示したファイル）15%、レポート15%、期末試験70% 科目責任者が評価を行う。
課題に対するフィードバック	レポート等の解答例は必要に応じて配布・解説します。 試験については総評を配信します。
受講生へのメッセージ	・授業時間以外でも積極的に時間を作つて操作することがコンピュータスキルを習得する近道です。 ・適宜、補足資料を配布します（ファイルを配信する場合もあります）。 ・授業評価アンケートへのご協力をお願いします。 ・オフィスアワー：金曜日の12:20～13:20（研究室）

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	インターネットコミュニケーション（1）	コンピュータの基本構成と基本操作、ファイルとフォルダ、ファイルの複写・移動、検索エンジン・電子メールの活用、情報モラル、情報セキュリティー	益岡 都萌

第2回	文書処理（1）	基本的な文書の作成、図・表の挿入、印刷	益岡 都萌
第3回	文書処理（2）	表現力向上のための機能、長文レポートの編集、校閲	益岡 都萌
第4回	文書処理（3）	ビジネス文書の書き方	益岡 都萌
第5回	表計算（1）	表の作成とグラフの作成	益岡 都萌
第6回	表計算（2）	計算式の入力と関数の利用、参照の仕方（絶対参照、相対参照、複合参照）	益岡 都萌
第7回	表計算（3）	いろいろな関数	益岡 都萌
第8回	表計算（4）	統計処理：データのカウントとグラフの作成	益岡 都萌
第9回	表計算（5）	クロス集計（ピボットテーブル利用）、データベースの活用 レポート課題配布（提出期限：講義第14回）	益岡 都萌
第10回	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションソフトによるスライドの作成、アニメーションの設定、資料の印刷	益岡 都萌
第11回	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションソフトの便利な機能、プレゼンテーションの流れ、練習問題	益岡 都萌
第12回	アプリケーションソフトの連携	異なるアプリケーションのデータの埋め込み、差し込み印刷	益岡 都萌
第13回	インターネットコミュニケーション（2）	情報モラル、情報セキュリティー	益岡 都萌
第14回	インターネットコミュニケーション（3）	情報通信技術の利活用（オープンデータの活用）	益岡 都萌
第15回	データサイエンスとAI（人口知能）	テーマに関連したトピック	益岡 都萌

年度	2025
科目名	多職種連携論
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	水曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	S113

担当教員

氏名
◎ 田村 由美
篠原 謙太
野村 悠美子

ディプロマポリシーとの関連性	2-1),2-2),3-1),3-2),3-3),3-4),4-1)
授業の概要	保健医療福祉における多職種の役割と連携する看護の役割を理解し、人々の健康を支援するために必要な多職種と連携・協働する基礎的能力を習得します。
到達目標	1) 学生は保健医療福祉に関わる職種との連携・協働に必要な基礎的知識及び方法論を理解する。 2) 学生は人々の健康生活にかかわる課題解決のための多職種の役割を理解し、事例を通して連携・協働のあり方を考察し、表現する。
予習・復習	予習：提示される事前・事後課題について自己学習をしましょう。指定された参考図書や文献は読んでおきましょう。 復習：毎回、学んだ内容の復習をしましょう。 予習・復習各60分
アクティブラーニング型授業の有無	有
必須文献	適時、提示します。
参考文献	田村由美(2018). 改訂版 新しいチーム医療 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門. 看護の科学社.
評価の方法	小テスト50% グループプレゼンテーション（資料、チームワーク自己評価を含む）50% 再試験はしない
課題に対するフィードバック	グループプレゼンテーションについて、その場で直接フィードバックします。
受講生へのメッセージ	この授業は、複数の教員によるチームティーチングの手法を用いて、すべて対面にて展開します。看護職と多職種の役割の相互理解を深め、患者を中心にそれぞれがどのように役割を発揮して、協働しているのかを学修します。アクティブラーニング型の授業です。原則毎回 対面授業です。 オフィスアワー：木曜日 12：30～13：00

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	多職種連携の基礎知識①	ワールドカフェ：多職種連携とは何か	田村 由美
第2回	多職種連携の基礎知識②	地域包括ケアと多職種連携・協働（ゲストスピーカー）	田村 由美
第3回	多職種連携の基礎知識③	多職種連携の必要性と歴史的概観：チーム医療と用語Interprofessional Work (IPW) の本質的意味	田村 由美

第4回	多職種連携の基礎知識④	多職種連携協働実践のアプローチ：職種の専門性・役割と責任 チームワークと多職種連携によるチームカンファレンス 事例検討（Health Care Team Challenge : HCTC）ガイドンス	田村 由美
第5回	事例検討（HCTCの実際）①	グループワーク 事例を通しての学びをプレゼンテーションし共有する	田村 由美
第6回	事例検討（HCTCの実際）②	グループワーク 事例を通しての学びをプレゼンテーションし共有する	田村 由美
第7回	事例検討（HCTCの実際）③	グループワーク 事例を通しての学びをプレゼンテーションし共有する	田村 由美
第8回	事例検討（HCTCの実際）④	多職種連携・協働における「患者中心」の考え方と看護職の役割 まとめとフィードバック	田村 由美

年度	2025
科目名	看護学概論Ⅰ（看護の目的・対象・方法）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修／選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N100

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐

ディプロマポリシーとの関連性	2-2),3-1),3-2),4-1)
授業の概要	看護の本質と専門性を探求するために、看護の目的論・対象論・方法論の視点で、看護の対象となる人と健康の捉え方を理解し、社会情勢の変化に伴う保健医療福祉の動向と看護の歴史的変遷を理解したうえで、地域包括ケア時代における看護の機能を考察します。また、根拠に基づき看護を実践するために必要な批判的思考、科学的根拠の活用、理論の活用について理解し、看護を提供する際の基盤を養います。
到達目標	1)看護の対象となる人間や健康を包括的に捉える意義と視点について理解する。 2)社会情勢の変化に伴う保健医療福祉の動向と看護の歴史的変遷を理解したうえで、地域包括ケア時代における看護の機能について考察する。 3)根拠に基づき看護を実践するために必要な、批判的思考、科学的根拠の活用、理論の活用について考察する。
予習・復習	毎授業、90分の予習、90分の復習を求めます。 予習として、授業計画に示した必須文献の予習箇所を読むと共に、計画的に課題に取り組みましょう。 復習として、必須文献の復習箇所を読むと共に、授業で学習した内容をふり返りましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	有 主体的学習方法であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、事例にもとづくチームでのワークを行います。
双方向型授業のためのICT活用の有無	有 ICTのWeb投票機能を活用しながら双方向型の授業をします。
必須文献	①茂野香おる(2020). 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論(第17版). 医学書院. ②Nightingale, F. (1860)/湯楨ます(訳)(2011). 看護覚え書(改訳第7版). 現代社. ③Henderson, V. (1960)/湯楨ます(訳)(2016). 看護の基本となるもの(再新装版). 日本看護協会出版会. ④Mayeroff, M. (1971)/田村真(訳)(1987). ケアの本質. ゆみる出版.
参考文献	適宜示します。
評価の方法	①授業に関する課題：40% ②中間テスト：60% ①②の合計が60点ない場合は追再試期間に再試験を行います。 評価は科目責任者が行います。
課題に対するフィードバック	①提出課題については、採点結果を個別返却すると共に、授業の中で全体の傾向の説明と助言をフィードバックします。 ②中間テストについては全体の傾向について授業で説明します。
受講生へのメッセージ	この科目は、学生の皆さんのが看護学を学ぶ初めの第一歩になります。何を学ぶかと共に、どのように学ぶかも看護の力を育てるうえで大切になります。主体的学習方法であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、事例にもとづくチームでのワークを行います。また、ICTのWeb投票機能を活用しながら双方向型の授業をします。アクティブラーニングとICT活用により、学び合いを深めていきましょう。「情報収集（聴く・読む・調べる）、分析（整理する）、要約（まとめる・書く）」のサイクルで学習を進めますので、「学び方を学ぶ」ことも意識して学習しましょう。 オフィスアワーは、毎週金曜日11:00-13:00の間、研究室18で受け付けます。 授業最終回に授業評価アンケートへの協力をお願いします。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	【目的論】社会における看護と看護の歴史的変遷	ナイチンゲールの時代から現代までの社会における看護の歴史的変遷について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.52-83、②③	川西 美佐
第2回	【対象論】看護における人間と健康の捉え方	看護における人間と健康の包括的な捉え方について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.20-29、86-113 提出課題1：人間と健康の捉え方の歴史的変遷（予習）	川西 美佐
第3回	【方法論】看護の展開の基礎	看護過程、クリティカルシンキング、EBNについて理解します。 予習・復習：必須文献①pp.149-166、233-239 提出課題2：実践へのエビデンスの活用（予習）	川西 美佐
第4回	【方法論】保健医療福祉における看護	地域包括ケア時代の保健医療福祉システムにおける看護の機能について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.116-143 提出課題3：地域包括ケア（予習）	川西 美佐
第5回	【方法論】看護における法と経済と政策	看護に関わる法と経済と政策について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.29-31、182-185 提出課題4：社会の動向（予習） 中間テスト①	川西 美佐
第6回	【方法論】ナイチンゲール看護論	ナイチンゲール看護論の現代的意義について考察します。 予習・復習：必須文献①pp.29-50、② 提出課題5：ナイチンゲール看護論（予習）	川西 美佐
第7回	【方法論】ヘンダーソン看護論	ヘンダーソン看護論の現代的意義について考察します。 予習・復習：必須文献①pp.29-50、③ 提出課題6：ヘンダーソン看護論（予習）	川西 美佐
第8回	【方法論】看護実践と看護理論	事例とともに看護実践への理論の活用について考察します。 予習・復習：必須文献①pp.14-49、④ 中間テスト②	川西 美佐

年度	2025
科目名	看護学概論Ⅱ（看護実践の基盤）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	火曜日
代表時間	2 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N101

担当教員

氏名
◎ 川西 美佐
門田 清孝
梅原 佳絵

ディプロマポリシーとの関連性	1-1), 3-1), 3-2), 3-4), 5-1)
授業の概要	看護の対象となる人々に質の高い看護を提供するために必要な看護倫理と医療安全について理解し、自らの看護実践において看護専門職としていかに行動するかについて考察します。また、病いの語りビブリオバトルや事例学習をもとに、看護における対象理解の重要性について考察します。さらに、看護理論の現代的意義について学び、ヒューマンケアリングに基づく看護を実践するための対象理解について考察します。授業での学修の応用として、事例に基づく看護倫理カンファレンスと医療事故医療事故の発生要因分析と改善策案にチームで取り組み、課題解決志向と根拠にもとづく実践をする重要性について考察を深めます。
到達目標	1)看護実践における倫理について、倫理原則・看護職の倫理綱領・倫理に関する諸概念ならびにナラティヴを活用して、倫理的課題・葛藤を調整するための分析方法を修得する。 2)Patient Safety の概念にもとづく医療安全と看護の役割について理解する。 3)看護理論の現代的意義について理解し、実践への活用について考察する。 4)病いの語りビブリオバトルや事例学習を通して、看護における対象理解の重要性について考察する。
予習・復習	毎授業、135分の予習、135分の復習を求めます。 予習として、授業計画に示した必須文献の予習箇所を読むと共に、計画的に課題に取り組みましょう。 復習として、必須文献の復習箇所を読むと共に、授業で学習した内容をふり返りましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	有 主体的学習方法であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、事例にもとづくチームでのワークを行います。
双方向型授業のためのICT活用の有無	有 ICTのWeb投票機能を活用しながら双方向型の授業をします。
必須文献	①茂野香おる(2020). 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論(第17版). 医学書院. ②Nightingale, F. (1860)/湯楨ます, 薄井担子, 小玉香津子, 田村真, 小南吉彦(訳)(2011). 看護覚え書(第7版). 現代社. ③Henderson, V. (1960)/湯楨ます, 小玉香津子(訳)(2016). 看護の基本となるもの(再新装版). 日本看護協会出版会. ④Mayeroff, M. (1971)/田村真, 向野宣之(訳)(1987). ケアの本質. ゆみる出版.
参考文献	適宜示します。
評価の方法	①授業に関する課題：40%、②中間テスト（筆記）：60% ①②の合計が60点ない場合は、追再試期間に再試験を行います。 科目責任者が評価を行います。
課題に対するフィードバック	①授業に関する課題についてはコメントを付けた採点結果を授業で個人へ返却します。 ②中間テストについては全体の傾向について授業で説明します。
	この科目では、前期の看護学概論Ⅰと援助的人間関係論を発展させた学修をします。既習内容を復習し、コアコンピテンシーと卒業時到達目標の積み上げを意識しながら学修していきましょう。また、主体的学習方法であるアクティブラーニングの手

受講生へのメッセージ	法を取り入れたワークを行うと共に、双方向の授業になるようICTのWeb投票機能を活用しながら、個人の予習をもとにチームで共有を行い、学び合いを深めていきます。自ら主体的に学ぶ姿勢を大事にして授業に臨みましょう。さらに、個人でプロジェクト学習に取り組むことで、対象者の課題解決に向けた実践を体験し、チームで共有します。ケアリングマインドをもって、自己を開示し他者を尊重しながら、相互成長につながる学びをしましょう。 オフィスアワーは、毎週金曜日11:00-13:00の間、研究室18で受け付けます。 授業最終回に授業評価アンケートへの協力をお願いします。
科目の内容に関連した実務経験	川西美佐：看護師10年

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	看護実践における倫理① 倫理原則と倫理的問題を解決するための分析方法【事例A】	倫理原則と倫理的問題を解決するための4ステップモデルの活用方法について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.186-219	川西 美佐
第2回	看護実践における倫理② 倫理に関する諸概念	倫理に関する諸概念と現在の医療現場において生じている倫理的課題・葛藤について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.186-219	川西 美佐
第3回	看護実践における倫理③ 看護職の倫理綱領	看護職の倫理綱領について成り立ちと看護実践への活用の意義について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.186-219	川西 美佐
第4回	看護実践における倫理④ 倫理カンファレンス【事例B】	アクティブ・ラーニングとして、カード方式事例検討法と4ステップモデルを用いた倫理カンファレンスをチームで行います。 予習・復習：必須文献①pp.186-219 課題提出1：看護倫理【事例B】予習	川西 美佐
第5回	看護実践における倫理⑤ 事例分析【事例C】	4ステップモデルを用いた事例分析をクラスで行います。 予習・復習：必須文献①pp.186-219 課題提出2：看護倫理【事例C】予習	川西 美佐
第6回	ケアリング理論① メイヤロフのケアリング理論	メイヤロフの著書をもとに、ヒューマンケアリングの概念を理解し看護実践への活用について考察します。 予習・復習：必須文献①pp.39-45、④ 課題提出3：看護倫理復習	川西 美佐
第7回	ケアリング理論② ワトソン看護論	ワトソン看護論をもとに、ヒューマンケアリングの概念を理解し看護実践への活用について考察します。 予習・復習：①pp.39-45、④ 課題提出4：理論予習	川西 美佐
第8回	看護実践における対象理解① 病いの語りビブリオバトル	アクティブ・ラーニングとして、病いの語りビブリオバトルにより、双方向コミュニケーションと病いの体験の理解について考察します。 予習・復習：必須文献①pp.78-107	川西 美佐
第9回	看護と医療安全① Patient Safety の概念にもとづく医療安全	Patient Safety の概念にもとづく医療安全について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.292-305	川西 美佐
第10回	看護と医療安全② 医療事故発生要因の分析	人間の行動モデルにもとづく医療事故発生要因の分析手法について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.292-305	川西 美佐
第11回	看護と医療安全③ 医療事故の未然防止と発生時対応	医療事故の未然防止、発生時対応について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.292-305	川西 美佐
第12回	看護と医療安全④ 医療事故の発生要因分析と改善策考案	アクティブ・ラーニングとして、QuickSAFERの手法を用いた医療事故発生要因の分析と、P-mSHELLモデルを用いた改善策の考案をチームで行います。 予習・復習：必須文献①pp.292-305 課題提出5：医療安全予習	川西 美佐
第13回	看護実践における対象理解② 事例にもとづく対象理解	事例を通して、看護の対象となる人を理解するための方法を考察します。 課題提出6：対象理解の予習 中間テスト（筆記）	川西 美佐
第14回	看護と医療安全⑤ 医療安全における看護師の役割	病院における医療事故の実際をもとに、医療安全における看護師の役割を考察します。 医療安全に係る改善策提案書の発表と投票により最優秀改善策提案書を決定します。 予習・復習：必須文献①pp.292-305	川西 美佐
第15回	看護実践における理論の活用	看護実践の状況に応じて理論を活用する方法について理解します。 予習・復習：必須文献①pp.39-45、②③④	川西 美佐

年度	2025
科目名	基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助①）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N102

担当教員

氏名
川西 美佐
○ 三輪 晃子
高田 洋介
松本 あつき
川畑 貴寛
篠原 謙太
野村 悠美子
山内 万裕美
佐々木 かよこ
伊藤 渚未
門田 清孝
梅原 佳絵

ディプロマポリシーとの関連性	3-2), 3-4)
授業の概要	人間の生活行動を理解したうえで、援助を必要とする対象者に適した生活環境の調整ならびに生活行動援助を行うための基礎的知識と科学的根拠に基づく基本的な看護技術を修得します。また、この過程を通して、対象者の思いを慮り、対象者を個別の人として尊重する態度を養います。
到達目標	1) 対象者の日常生活におけるニーズを満たすための看護技術について安全・安楽・自立の原則が説明できる。 2) 対象者の日常生活におけるニーズを満たすための看護技術において具体的方法が説明できる。 3) 対象者の日常生活におけるニーズを満たすための看護技術の基本的手技を説明または実施できる。 4) 看護技術演習を通して日常生活援助を必要とする対象者に必要な配慮を考え実施できる。
予習・復習	毎授業、30分の予習、15分の復習を求めます。 予習：授業前は必ずテキストの該当部分を読んでおいてください。看護技術は演習形式の学習となります。看護技術の動画教材を視聴しStep UP Noteに手順をまとめ、事前練習を行ったうえで演習に臨みましょう。 復習：演習後は、技術が「できる」ようになるため、看護実習室や看護シミュレーションセンターを利用して繰り返し練習しましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	①茂野香おる(2023). 統合看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(第19版). 医学書院. ②任和子(2025). 統合看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(第19版). 医学書院.

参考文献	任和子(2021). 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(第3版). 医学書院.
評価の方法	①筆記試験：70%、②実技試験：10%、③提出物評価：20% ①②③の合計が60点無い場合は再試験を行います。 評価は、科目責任者が行います。
課題に対するフィードバック	②実技試験、③提出物評価について、採点結果を個人へ返却し解説します。
受講生へのメッセージ	講義・演習は対面で行います。 グループワークを取り入れ、チームでディスカッションするアクティブラーニング型で行うとともに、Google Forms等のICTを活用した双方向型授業にします。 本科目は、ヒューマンケアリングに基づいた看護の実践に必要な「技」を修得するため、「わかる」だけでなく「できる」ことを目指します。講義で基本技術の知識を学習した後に、技術演習においては、看護の対象者を設定したうえで看護技術を提供する臨床実践に近い形での技術修得を目指します。安全・安楽・自立の原則を遵守し根拠のある看護技術が実施できるようになります。各種教材ならびに看護実習室や看護シミュレーションセンター等の設備を十分に活用し、自己の技術力を高めましょう。 15回の授業終了後、授業評価アンケートへの協力をお願いします。 オフィスアワー：授業終了後60分

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	【講義】看護技術の概念、感染予防の看護技術	看護技術とは、看護技術の原則（安全・安楽・自立） 予習・復習：必須文献①pp.2-15,②pp.2-8 衛生学的手洗い、擦式消毒剤による手洗い、手袋・エプロン・マスクの着脱法 予習・復習：必須文献①pp.64-81	三輪 晃子
第2回	【講義】環境調整の看護技術 【演習】感染防止の技術	衛生学的手洗い、擦式消毒剤による手洗い、手袋・エプロン・マスクの着脱法 予習・復習：必須文献①pp.64-81 療養生活の環境、生活環境の条件、環境整備、病床を整える方法 予習・復習：必須文献②pp.10-26	三輪 晃子
第3回	【講義】活動の看護技術	姿勢の保持、体位変換、移動、褥瘡予防 予習・復習：必須文献②pp.100-136,152-156,303-312	松本 あつき
第4回	【演習】ベッドメーキング	療養環境の調整、ベッドメーキング 予習・復習：必須文献②pp.10-26	三輪 晃子
第5回	【演習】体位変換とポジショニング	体位変換、安楽な体位の調整 予習・復習：必須文献②pp.100-120,152-156,303-312	松本 あつき
第6回	【講義】安楽と休息を提供する技術（罨法）	罨法の効果と注意点、手浴・足浴、睡眠・休息 予習・復習：必須文献②pp.137-148,156-160,197-202	三輪 晃子
第7回	【演習】車椅子とストレッチャーへの移乗と移送	車椅子、ストレッチャー 予習・復習：必須文献②pp.123-136	松本 あつき
第8回	【演習】安楽を提供する技術（罨法）	手浴・足浴 予習・復習：必須文献②pp.197-202	三輪 晃子
第9回	【講義】健康状態の観察技術①（観察の意義）	看護における健康状態の観察の意義 予習・復習：必須文献①pp.145-168	三輪 晃子
第10回	【講義】健康状態の観察技術②（バイタルサインの測定）	バイタルサインとは、バイタルサインの測定方法と測定結果の判断 予習復習：必須文献①pp.145-168	三輪 晃子
第11回	【演習】臥床患者のシーツ交換：シミュレーション演習	臥床患者のシーツ交換（シミュレーション演習） 予習・復習：必須文献②pp.26-29	三輪 晃子
第12回	【演習】バイタルサインの測定	体温、脈拍、呼吸、血圧の測定 予習・復習：必須文献①pp.145-168	三輪 晃子
第13回	【講義】食事援助の技術（食事援助の意義、食事介助、口腔ケア）	栄養の基礎知識、食事援助の意義と看護の役割、食事介助の方法、口腔ケア 予習・復習：必須文献②pp.32-46,213-219	三輪 晃子
第14回	【演習】食事援助の技術	食事介助、口腔ケア 予習・復習：必須文献②pp.32-46,213-219	三輪 晃子

第15 回	〔講義〕看護技術の応用 『実技試験(看護の基盤実習Ⅰ前OSCE)』	複数の看護技術を応用した看護援助 予習・復習：既習内容の復習 実技試験 予習・復習：既習内容の復習、技術練習	三輪 晃子
----------	--------------------------------------	---	-------

年度	2025
科目名	基礎看護技術Ⅱ（日常生活援助②）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N103

担当教員

氏名
宗内 桂
三輪 晃子
高田 洋介
亀石 知美
◎ 川畠 貴寛
篠原 謙太
野村 悠美子
山内 万裕美
伊藤 渚未
門田 清孝
梅原 佳絵

ディプロマポリシーとの関連性	3-2), 3-4)
授業の概要	対象者のニーズに応じた日常生活援助を安全・安楽・自立の観点にもとづき行うために、複数の基本的な看護援助技術を統合する能力を養います。また、この過程を通して、対象者の個別性にあわせた看護技術活用の必要性を理解し、看護者としての責任と誠実な態度を養います。
到達目標	1)対象者の個別性に応じた看護技術の必要性が説明できる。 2)日常生活援助において対象者に応じた複数の看護援助技術を統合し計画することができる。 3)複数の基本的な看護技術を統合したうえで援助の際のリスクを考え安全・安楽を確保した看護実践が実施または説明できる。 4)チームメンバーと協働して取り組み看護者としての責任と誠実な態度を習得できる。
予習・復習	毎授業、30分の予習、15分の復習を求めます。 授業前は必ずテキストの該当部分の予習をしてください。看護技術は看護実習室での演習形式の学習となります。該当技術のテキストの予習と技術の動画教材を視聴し、演習日までに具体的な手順書を作成し、手順をイメージして演習に臨んでください。 演習後は知識と技術の両方についての復習を行いましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	出席管理はGoogle Formsにて行います。授業に対する質問やコメント等は、Google Formsに記載をして下さい。その都度回答していきます。
必須文献	①任和子(2025). 統合看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅱ(第19版). 医学書院. ②茂野香おる(2023). 統合看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護技術Ⅰ(第19版). 医学書院.
参考文献	①任和子(2021). 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(第3版). 医学書院. ②Patton, K. T. & Thibodeau, G. A. (2016)/コメディカルサポート研究会(訳)(2017). カラーで学ぶ解剖生理学(第2版). メディカル・サイエンス・インターナショナル.

評価の方法	①筆記試験：70%、②実技試験：10%、③提出物評価：20%①②③の合計が60点無い場合は再試験を行います。評価は、科目責任者が行います。
課題に対するフィードバック	②実技試験、③提出物評価について、採点結果を個人へ返却し解説します。
受講生へのメッセージ	<p>講義は全て対面で行います。</p> <p>講義で基本技術の知識を学習した後に、演習において看護技術の修得を目指します。基礎看護学Ⅰ(日常生活援助①)における既習看護技術を統合させ、対象者の個別性に合わせた看護技術が実施できるようになります。</p> <p>授業時間以外での予習・復習に取り組み、知識・技術の習得を目指して下さい。看護技術の自己学習については、看護実習室や看護シミュレーションセンターを活用し、技術の向上を図って下さい。</p> <p>授業最終日に授業評価アンケートへの回答を依頼しますので、ご協力ください。</p> <p>オフィスアワーは、授業終了後60分です。なお、オフィスアワー以外の時間に講義や課題に関する質問がある場合は、事前にアポイントを取って下さい。</p>

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	〔講義〕 感染予防の技術 〔演習〕 無菌操作、滅菌手袋の装着	感染の基礎知識、感染予防の原則、感染経路別対策 無菌操作、滅菌手袋の装着 予習：必須文献②pp.64-101	川畠 貴寛
第2回	〔講義〕 衣生活と清潔の看護技術	清潔とは、衣生活、入浴、シャワー浴、部分浴、整容 予習・復習：必須文献①pp.170-212,221-232	川畠 貴寛
第3回	〔講義〕 清潔の看護技術	清拭、寝衣交換、洗髪 予習・復習：必須文献②pp.183-196,225-231	川畠 貴寛
第4回	〔演習〕 健康観察のシミュレーション演習	事例患者への健康観察 予習・復習：既習の内容の復習	川畠 貴寛
第5回	〔演習〕 清潔の看護技術①寝衣交換	寝衣交換 予習・復習：必須文献①pp.224-231	川畠 貴寛
第6回	〔演習〕 清潔の看護技術②清拭	臥床患者の清拭 予習・復習：必須文献①pp.183-188,224-231	川畠 貴寛
第7回	〔講義〕 排泄援助の技術①（排泄援助の意義と看護の役割）	排泄の基礎知識、排泄援助の意義・看護の役割 予習・復習：必須文献①pp.58-71,202-205	川畠 貴寛
第8回	〔講義〕 排泄援助の技術②（排泄行動が困難な対象者の援助）	床上排泄（便器・尿器）の援助、おむつ交換、陰部洗浄、一時の導尿 予習・復習：必須文献①pp.58-70,202-205	川畠 貴寛
第9回	〔演習〕 清潔の看護技術③洗髪	洗髪 予習・復習：必須文献①pp.188-196	川畠 貴寛
第10回	〔演習〕 排泄援助の技術①（おむつ交換、陰部洗浄）	おむつ交換、陰部洗浄 予習・復習：必須文献①pp.58-71,202-205	川畠 貴寛
第11回	〔演習〕 排泄援助の技術②（一時の導尿）	一時の導尿 予習・復習：必須文献①pp.73-80	川畠 貴寛
第12回	〔講義〕点滴静脈内注射中の管理と寝衣交換 〔演習〕点滴静脈内注射中の寝衣交換	点滴静脈内注射の管理 点滴静脈内注射を行っている臥床患者の寝衣交換 予習・復習：必須文献①pp.225-233,361、必須文献②pp.111-114	川畠 貴寛
第13回	〔講義〕 排泄援助の技術③（自然排泄を促すための援助） 〔演習〕 排泄援助の技術③（浣腸）	自然排泄を促すための援助 浣腸 予習・復習：必須文献①pp.81-86	川畠 貴寛
第14回	〔演習〕 看護技術を統合したシミュレーション演習 実技試験	複数の看護技術を統合した看護援助 実技試験 予習・復習：既習内容の復習	川畠 貴寛
第15回	〔講義〕 看護実践における看護技術の統合と応用	看護実践における看護技術の統合と応用 予習・復習：既習の内容の復習	川畠 貴寛

年度	2025
科目名	基礎看護技術III（診療に関わる援助）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N104

担当教員

氏名
川西 美佐
○ 三輪 晃子
川畑 貴寛
篠原 謙太
野村 悠美子
山内 万裕美
門田 清孝

ディプロマポリシーとの関連性	3-2), 3-4)
授業の概要	診察の補助行為に伴う看護者の法的立場を踏まえ、診断・治療過程にある対象のニーズを理解し、健康回復を促すために必要な安全かつ安楽で根拠のある基本的な看護技術を修得します。また、この過程を通して、自らの行動に責任を持ち、看護者として対象者の尊厳および権利を尊重する態度を養います。
到達目標	1) 診断・治療を受けている対象者に必要な診療に伴う看護技術の原理・原則を説明できる。 2) 診療に伴う看護技術の提供において対象者のニーズに応じた具体的方法を説明または実施できる。 3) 診療に伴う看護技術演習において対象者に関わる医療チームの一員としての責任を意識して行動できる。 4) 診断・治療を受けている対象者への看護援助を通して看護の役割を考察することができる。
予習・復習	毎授業、30分の予習、15分の復習を求めます。 予習：授業前は必ずテキストの該当部分を読んでおいてください。看護技術は演習形式の学習となります。看護技術の動画教材を視聴しStep UP Noteに手順をまとめ、事前練習を行ったうえで演習に臨みましょう。 復習：演習後は、技術が「できる」ようになるため、看護実習室や看護シミュレーションセンターを利用して繰り返し練習しましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	①茂野香おる(2023). 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(第19版). 医学書院. ②任和子(2025). 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(第19版). 医学書院.
参考文献	①任和子(2021). 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(第3版). 医学書院. ②Patton, K. T. & Thibodeau, G. A. (2016)/コメディカルサポート研究会(訳)(2017). カラーで学ぶ解剖生理学(第2版). メディカル・サイエンス・インターナショナル.
評価の方法	①筆記試験：70%、②実技試験：10%、③提出物評価：20% ①②③の合計が60点無い場合は再試験を行います。 評価は、科目責任者が行います。

課題に対するフィードバック	②実技試験、③提出物評価について、採点結果を個人へ返却し解説します。
受講生へのメッセージ	<p>講義・演習は対面で行います。</p> <p>既習科目的「基礎看護技術Ⅰ（日常生活援助①）」、「基礎看護技術Ⅱ（日常生活援助②）」、「援助的人間関係論」、「人体の構造と機能Ⅰ」、「人体の構造と機能Ⅱ」の知識・技術を踏まえた講義・演習を行います。</p> <p>講義で基本技術の知識を学習した後に、技術演習においては、看護の対象者を設定したうえで看護技術を提供する臨床実践に近い形での技術修得を目指します。</p> <p>診療に伴う看護技術の中には、卒業後まで実施機会のない技術が含まれます。貴重な演習機会ですから事前準備を十分行ったうえで授業・演習に臨んでください。</p> <p>講義・演習は、グループワークを取り入れ、チームでディスカッションするアクティブラーニング型で行うとともに、Google Forms等のICTを活用した双方向型授業にします。</p> <p>15回の授業終了後、授業評価アンケートへの協力をお願いします。</p> <p>オフィスアワー：授業終了後60分</p>

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	〔講義〕診療に伴う基礎技術	診療とは、診療における看護の役割、診療時の看護と医療事故、観察・記録・報告 予習・復習：必須文献①pp.104-118,322-327、②pp.438-439	三輪 晃子
第2回	〔講義〕創傷管理の技術	創処置の方法、包帯法 予習・復習：必須文献②pp.284-302	三輪 晃子
第3回	〔講義〕与薬に伴う基本技術①（与薬の意義と看護の役割）	与薬の意義と看護の役割、与薬と医療事故 予習・復習：必須文献①pp.92-98,104-111、②pp.314-351	三輪 晃子
第4回	〔講義〕与薬に伴う基本技術②（各種与薬法）	投与経路別の与薬の方法 予習・復習：必須文献②pp.314-351	三輪 晃子
第5回	〔講義〕与薬に伴う基本技術③（注射）	皮下注射、筋肉内注射 予習・復習：必須文献②pp.331-351	三輪 晃子
第6回	【演習】与薬に伴う看護技術	皮下注射・筋肉内注射 予習・復習：必須文献①pp.92-98,114-115、②pp.331-351	三輪 晃子
第7回	〔講義〕検査に伴う基本技術①（各種検査方法）	臨床検査の意義、看護の役割、各種検査方法 予習・復習：必須文献②pp.410-425,438-458	川畠 貴寛
第8回	〔講義〕検査に伴う基本技術②（静脈血採血）	静脈血採血 予習・復習：必須文献①pp.92-98,114-115、②pp.410-425	川畠 貴寛
第9回	【演習】検査に伴う基本技術	静脈血採血 予習・復習：必須文献①pp.92-98,114-115、②pp.410-425	川畠 貴寛
第10回	〔講義〕与薬に伴う基本技術④（内服）	内服等 予習・復習：必須文献②pp.314-331	三輪 晃子
第11回	〔講義〕呼吸を整える技術①（吸入、酸素吸入）	呼吸に関する基礎知識、呼吸を整える援助の方法、酸素吸入 予習・復習：必須文献②pp.236-257,261-267	門田 清孝
第12回	〔講義〕呼吸を整える技術②（吸引）	呼吸に関する基礎知識、呼吸を整える援助の方法、口腔内吸引 予習・復習：必須文献②pp.236-257,261-267	門田 清孝
第13回	【演習】呼吸を整える技術①（酸素吸入）	酸素吸入・超音波ネプライザー 予習・復習：必須文献②pp.248-254,261-267	門田 清孝
第14回	【演習】呼吸を整える技術②（口腔内吸引）	口腔内吸引 予習・復習：必須文献②pp.254-257	門田 清孝
第15回	〔講義〕診断・治療を受けている対象者への看護技術の応用 『実技試験』	看護実践における看護技術の活用と応用 予習・復習：既習内容の復習 実技試験 予習・復習：既習内容の復習、技術練習	三輪 晃子

年度	2025
科目名	援助の人間関係論
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N105

担当教員

氏名
◎ 川畠 貴寛
門田 清孝

ディプロマポリシーとの関連性	1-1),2-1),3-2),3-3)
授業の概要	看護理論をもとに、看護実践における援助的人間関係の意義、形成過程、方法について理解し、援助的人間関係にもとづくコミュニケーションスキルについて修得します。また、チーム医療におけるチームコミュニケーションの意義と方法について理解し、看護実践の基盤となる援助的人間関係を築く能力を養います。
到達目標	1)看護理論をもとに、看護実践における援助的人間関係の意義、形成過程、方法について理解する。 2)援助的人間関係にもとづくコミュニケーションスキルを修得する。 3)チーム医療におけるチームコミュニケーションの意義と方法について理解する。
予習・復習	毎授業、90分の予習、90分の復習を求めます。 予習として、授業計画に示した必須文献の予習箇所を読むと共に、計画的に課題に取り組みましょう。 復習として、必須文献の復習箇所を読むと共に、授業で学習した内容をふり返りましょう。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	出席管理はGoogle Formsにて行います。授業に対する質問やコメント等は、Google Formsに記載をして下さい。その都度回答していきます。
必須文献	①茂野香おる(2020). 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論(第17版). 医学書院. ②茂野香おる(2023). 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ(第19版). 医学書院.
参考文献	適宜示す。
評価の方法	①授業に関する課題：20%、②定期試験（筆記）：80% ※①②の合計が60点ない場合は再試験を行います。 評価は、科目責任者が行います。
課題に対するフィードバック	課題については、授業の中でフィードバックを行います。
受講生へのメッセージ	原則、全ての講義を対面授業で実施します。ただし、体調不良など、やむを得ない事情による欠席者は、事前にご相談ください。援助的人間関係は看護実践の基盤となる重要な看護実践能力です。この科目では、一般社会における人間関係と看護実践における援助的人間関係の類似性と相違性を意識しながら、看護の対象となる人々と援助的人間関係を築く能力を修得します。なお、オフィスアワー以外の時間に講義や課題に関する質問がある場合は、事前にアポイントをとって下さい。オフィスアワーは、授業終了後30分間、研究室で受け付けます。 授業最終日に授業評価アンケートへの回答を依頼しますので、ご協力ください。
科目の内容に関連した実務経験	川畠貴寛：看護師10年 門田清隆：看護師5年

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	〔講義:対面〕援助的人間関係の基礎知識	看護実践における援助的人間関係の意義、形成過程、方法について理解します。	川畠 貴寛
第2回	〔講義:対面〕ペプロウ看護論	ペプロウ看護論から、看護において援助的人間関係を築く意義と方法について理解します。	川畠 貴寛
第3回	〔講義:対面〕トラベルビー看護論	トラベルビー看護論から、看護において援助的人間関係を築く意義と方法について理解します。	川畠 貴寛
第4回	〔講義:対面〕看護実践におけるコミュニケーションの意義	看護実践におけるコミュニケーションの意義について理解します。	川畠 貴寛
第5回	〔講義:対面〕看護実践におけるコミュニケーションスキル①	基本的なコミュニケーションスキルについて理解します。	川畠 貴寛
第6回	〔講義:対面〕看護実践におけるコミュニケーションスキル②	ベッドサイドにおけるコミュニケーションについて事例をもとに考察します。	川畠 貴寛
第7回	〔講義:対面〕チーム医療におけるチームコミュニケーション	チーム医療の重要性について理解するとともに、Team STEPPSの手法とアサーティブネスをもとにチームコミュニケーションの意義と方法について理解します。	門田 清孝
第8回	〔講義:対面〕看護実践におけるコミュニケーションスキル③	コミュニケーションに障害がある人と関わる上でのスキルについて理解します。	川畠 貴寛

年度	2025
科目名	看護の基盤実習Ⅰ（地域で生活する人々の健康）（レベルⅠ）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	実習
基準単位数	1.0
総開講時間数	45.0
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修／選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N105

担当教員

氏名
川西 美佐
村田 由香
百田 武司
奥村 ゆかり
水馬 朋子
渡邊 聰美
中村 敦子
宗内 桂
◎ 三輪 晃子
高田 洋介
川畑 貴寛
山内 万裕美
門田 清孝
梅原 佳絵

ディプロマポリシーとの関連性	1-1),2-1),3-1),3-3)
授業の概要	地域で生活する人々と、生活の場や活動の場で接し、コミュニケーションを図り、対話を通じて、対象者の生活や役割に対する思いを理解します。また、地域で生活する人々の生活習慣、価値観、信条、生き方や健康に関する考え方・思いについて、身体的・精神的・社会的・文化的に幅広くとらえ、理解を深めます。地域で生活する人々との関わりにおける自己の発言を振り返り、コミュニケーションのあり方や工夫について、グループディスカッションを通して考察します。
到達目標	1)地域で生活する人々とのコミュニケーション（対話）を通して、その人々について理解したことを述べることができる。 2)看護を学ぶ者として倫理的に行動できる。 3)地域で生活する人々の成長発達過程と発達段階に応じて、生活環境・状況（役割を含む）が健康に及ぼす影響について述べることができる。 4)地区踏査を通して、その地区の健康課題について述べることができる。 5)施設の健康に関する役割・機能について人的・物理的環境を踏まえて述べることができる。 6)学生としての学ぶ姿勢を養うことができる。
予習・復習	予習として、公衆衛生看護学概論で学修した地区踏査、地区マップの作成について復習しましょう。また、基礎看護学で学修したコミュニケーション技法について復習しておきましょう。 復習として、実習評価と自己の実習記録を照らし合わせて、自己の課題を明確にしましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	有
必須文献	①任和子(2025). 統合看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ(第19版). 医学書院. ②茂野香おる(2023). 統合看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ(第19版). 医学書院.
参考文献	適宜示す。
評価の方法	①実習目標到達度評価72%、②カンファレンス評価8%、③プレゼンテーション評価10%、④実習レポート評価10% 以上の実習評価において、提出物の不備がある場合は、減点の対象となります。 評価は、各実習グループの担当教員が行い、科目責任者が最終的に判定します。
課題に対するフィードバック	上記実習評価①②③④について、採点結果と担当教員からのコメントを返却します。
受講生へのメッセージ	皆さんにとって、初めての実習です。まずは、地域で生活する人々の生活と健康に関する考え方を、自分のコミュニケーション技術を駆使して、対象の理解に努めましょう。看護の視点をもって取り組んで、講義で学んだことが「腑に落ちる」体験をしましょう。 オフィスアワーは、実習期間（事前・事後を含む）に双方の都合のよい時間帯（担当教員の研究室にて）あるいはメールでの予約に対応して必要時には即時に対応します。 実習最終日に授業評価アンケートへの回答を依頼しますので、ご協力ください。
科目の内容に関連した実務経験	以下の実務経験をもつ教員が授業を担当します。 川西美佐:看護師10年、村田由香:看護師13年、百田武司:看護師10年、水馬朋子:看護師2年、保健師22年、奥村ゆかり:助産師8年、看護師10年、中村敦子:助産師14年6ヶ月、看護師1年、渡邊聰美:助産師25年、三輪晃子:看護師13年、宗内桂:看護師11年、高田洋介:看護師9年、川畑貴寛:看護師10年、山内万裕美:看護師25年、門田清孝:看護師5年、梅原佳絵:看護師18年

授業計画

<実習施設>

廿日市市立小学校、病院・診療所、地域サロン（社会福祉協議会運営：廿日市市社会福祉協議会登録サロン）

<実習方法>

基本的に1グループあたり4名編成の実習グループです。それぞれの実習の場で学んだことを統合して、地域で生活を送っている人々と健康、生活環境についての理解する実習です。実習早期の段階で地区踏査を行い、地域で生活する人々の生活と健康に関する考えについて理解を深めます。看護に関する考察を深めるためのカンファレンスを、実習グループで行い、最終日に学生全体でプレゼンテーションを行い、学びの共有をします。実習最終日の教員との面接と実習レポートの作成により、考察をさらに深め、自己の課題を明確にします。そして、実習での学習成果をポートフォリオにまとめます。

<実習期間>

10月～11月

年度	2025
科目名	赤十字救護・援助方法（救急法）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N106

担当教員

氏名
川西 美佐
中信 利恵子
村田 由香
山本 浩子
◎ 中村 もとゑ
鈴木 香苗
中村 敦子
宗内 桂
竹倉 晶子
三輪 晃子
高田 洋介
木下 真吾
篠原 謙太
野村 悠美子
山内 万裕美
水兼 香与
伊藤 渚未

ディプロマポリシーとの関連性	1-1), 3-2),
授業の概要	赤十字の理念と使命を具現化し実践するために、自分自身を守り（自助）、傷病者を救い（共助）、救護活動に参加（共助・公助）できるよう救命手当および応急手当に関する知識と技術を習得するとともに赤十字を理解し、ボランティアの心を育むことをねらいとしています。
到達目標	1) 赤十字救急法は赤十字の原則の「人道」の具現的行動であることを関係付けて述べることができる。 2) 手当の基本の観察と適切な体位の選択、保温の実技ができる。 3) 一次救命処置(心肺蘇生とAED)、気道内異物除去の救命手当ができる。 4) 急病の症状と応急手当が理解できる。 5) けが、きず、骨折の応急手当ができ、傷病者に合わせた適切な搬送ができる。 6) 習得した基本的な実技を総合的に活用し、災害時などに適切な手当を考えることができる。
予習・復習	毎回の授業毎に、45分間ずつの予習、復習を求めます。 予習：事前に心肺蘇生とAEDなどのデモンストレーションの動画をお知らせします。当日までに視聴しておきましょう。また、ケーススタディに取り組みましょう。 復習：実技（BLS、止血法、包帯法など）を繰り返し練習しましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	有

必須文献	必須文献：①日本赤十字社. 赤十字救急法基礎講習教本. 日赤サービス ②日本赤十字社. 赤十字救急法講習教本. 日赤サービス 必須教材：救急法教材セット（三角巾2枚、保護ガーゼ1枚、フェイスマスク、ビニール袋等）
参考文献	適宜紹介します。
評価の方法	日本赤十字社が定める学科検定80%。科目責任者が評価します。日本赤十字社が定める実技検定20%。担当教員が評価し、科目責任者が最終評価を行います。
課題に対するフィードバック	ケーススタディに対して、講義の中で模範解答を示しフィードバックします。
受講生へのメッセージ	すべての授業を対面で行います。 オフィスアワーは、授業終了後30分間、担当教員の研究室で受け付けます。 救急法を学び、自信を持って目の前の苦しむ人に手を差し伸べることができるようになります。 日本赤十字社の定める実技検定および学科試験合格者には「赤十字救急法基礎講習認定証」および「赤十字救急法救急員養成講習認定証」が交付されます。赤十字救急員の認定には、全日程無遅刻、無欠席、筆記試験80点以上が必須条件となります。 すべての授業終了後、授業改善に向けてGoogle Formsで「授業評価アンケート」を行いますので、入力をお願いします。 その他、出席確認もGoogle Formsを活用します。入力送信できる端末（スマートフォンなど）を持参してください。
授業計画	受講人数や日程に合わせ、担当教員数および授業内容の順番を入れ替えることがあります。 事前に教材と授業内容予定表を配布します。各自、日程の進行に合わせて予習・復習をしてきてください。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	赤十字救急法基礎講習 〔講義〕第1章 赤十字救急法について 第2章 手当の基本 〔グループワーク〕ケーススタディ	第1章 赤十字の救急法とは、救急法の実践する際の心得、救命の連鎖 第2章 観察の基本、体位の基本、傷病者への接し方、現場での留意点 ケーススタディ 小グループでのディスカッション	中村 もとゑ
第2回	赤十字救急法基礎講習 〔講義〕第3章 一次救命処置（以下BLS：Basic Life Support） 〔演習〕手当の基本、BLS	第3章 BLSの手順、心停止の判断、胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸 AEDを用いた除細動、気道異物除去 事後学習：観察方法、体位、保温の実技を復習する	中村 もとゑ
第3回	赤十字救急法基礎講習 〔演習〕BLS	BLS（AEDの使用も含む）の実技	中村 もとゑ
第4回	赤十字救急法基礎講習 〔演習〕BLS、気道内異物除去 〔検定〕実技検定、学科検定まとめ	BLS（AEDの使用も含む）気道内異物除去の実技 日本赤十字社の定める基礎講習学科検定、AEDを使用したBLSの実技検定を実施 ケーススタディフィードバック	中村 もとゑ
第5回	赤十字救急法救急員養成講習 〔講義〕第1章 赤十字救急法救急員について 第2章 急病	第1章 赤十字救急法救急員とは、赤十字救急法救急員に求められる能力 手当の手順 第2章 急病の症状と手当	中村 もとゑ
第6回	赤十字救急法救急員養成講習 〔講義〕第3章 けが 第4章 止血法 第5章 きずの手当	第3章 けが・骨折・特殊なけがの手当 第4章 止血法に関する解剖生理、止血法の種類と止血の理論 第5章 きずの手当、包帯	中村 もとゑ
第7回	赤十字救急法救急員養成講習 〔講義〕第6章 骨折の手当 第7章 搬送 第8章 救護	第6章 骨折の手当の基本、固定 第7章 搬送の必要性、搬送方法 第8章 災害時の心得、災害への備え、赤十字救急法救急員としての救護活動	中村 もとゑ
第8回	赤十字救急法救急員養成講習 〔演習〕止血法、きずの手当	三角巾の取扱い、三角巾を使用した包帯法の実技 事後学習：既習の実技を復習をする	中村 もとゑ
第9回	赤十字救急法救急員養成講習 〔演習〕骨折の手当（固定）①	三角巾、副子などを使用した骨折などの固定法の実技 事後学習：既習の実技を復習をする	中村 もとゑ
第10回	赤十字救急法救急員養成講習 〔演習〕骨折の手当（固定）②	三角巾、副子などを使用した骨折などの固定法の実技 事後学習：既習の実技を復習をする	中村 もとゑ
第11回	赤十字救急法救急員養成講習 〔演習〕搬送①	毛布や担架を使用しない搬送の実技 毛布や担架などの資機材を使用した搬送の実技 事後学習：既習の実技を復習をする	中村 もとゑ
第12回	赤十字救急法救急員養成講習 〔演習〕搬送②	毛布や担架などの資機材を使用した搬送の実技 事後学習：既習の実技を復習をする	中村 もとゑ

第13回	赤十字救急法救急員養成講習 〔演習〕救護	総合実技と振り返り 災害場面の事例をもとにグループで救護活動を行う。実施後グループでディスカッションを行い、対応の振り返りを行う。	中村 もとゑ
第14回	赤十字救急法救急員養成講習 〔検定〕包帯法、止血法、固定法	三角巾を使用した包帯法、骨折等の固定と止血法の実技検定を実施	中村 もとゑ
第15回	赤十字救急法救急員養成講習 〔検定〕学科検定	日本赤十字社の定める養成講習学科検定の実施	中村 もとゑ

年度	2025
科目名	公衆衛生看護学概論
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	必修
カリキュラムナンバリングコード	N108

担当教員

氏名
◎ 水馬 朋子
松原 みゆき
金藤 亜希子
安田 千香
今田 菜摘

ディプロマポリシーとの関連性	3-1),4-1),5-2)
授業の概要	公衆衛生看護活動及び公衆衛生看護の歴史的背景と社会の動向を概観し、保健師等地域で働く看護職の役割と機能について学習します。具体には、地域における看護（公衆衛生看護）の基本理念と目標、地域における看護活動の基本的知識及び考え方を学びます。また、地域の健康課題について検討し、解決策を考え、多様な地域を基盤とした予防の考え方と対応方法について学びます。
到達目標	1)公衆衛生看護並びに地域看護の基本理念や目的等の基本的知識について理解できる。 2)公衆衛生看護の歴史的背景と社会の動向を理解できる。 3)公衆衛生看護活動の基本的活動方法について理解できる。 4)公衆衛生看護活動の多様な場や社会資源を理解できる。
予習・復習	毎授業、90分の予習、90分の復習を求めます。 (予習) ・各回、授業内容を確認し、関連するテキストを読んで、授業に参加しましょう。 (復習) ・テキストや授業資料をもとに、学びを振り返りましょう。
アクティブラーニング型授業の有無	有
必須文献	①鶴野洋子, 神庭純子(編)(2024). 公衆衛生看護学.jp(第6版). インターメディカル. ②眞崎直子(編)(2021). 公衆衛生看護学演習・実習(増補版). クオリティケア. ③(財)厚生労働統計協会(2025). 国民衛生の動向2025/2026. 厚生労働統計協会. ④勝又浜子, 加藤典子他(編)(2025). 看護法令要覧令和7年版. 日本看護協会出版会.
参考文献	①医療情報科学研究所(2025). 公衆衛生がみえる2025-2026. メディックメディア.
評価の方法	期末試験80%、課題20% 科目責任者が評価を行います。
課題に対するフィードバック	・課題は、演習中にフィードバックする他、コメントを返します。 ・毎回、出席カードを提出していただきます。授業での学びや疑問点などを書いて、教員と双方向で進めましょう。質問等を書いていれば、次回の授業でコメントします。
	・すべての講義を対面授業で実施します。ただし、感染症等の状況により遠隔で行う場合もあります。 ・看護の基盤実習Ⅰで実践する「地区踏査」について、授業で学修します。そのために、インターネットなどから、廿日市市の統計情報等を入手し、事前に地域の特徴を把握します。

受講生へのメッセージ

- ・さらに、地域で生活する人々について理解を深めるために、自分の住んでいる地域では、健康づくりの場としてどのようなものがあるのか関心をもって見てみましょう。
- ・また、自分の日常生活と健康課題との関連を普段から考えてみましょう。
- ・オフィスアワー：授業日の18:00～18:30 教員研究室で行います。
- ・授業評価アンケートにご協力ください。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	公衆衛生看護学とは 地域の生活状況と健康課題	公衆衛生看護の定義 公衆衛生看護の場と対象（地域に生活する人々の特徴） 健康のとらえ方 地域の健康課題	水馬 朋子
第2回	演習：地域の健康課題と地区踏査（グループワーク）	地域の健康に関する情報収集：既存データの利用、直接的情報収集の方法 地区踏査の方法と内容 後半は、グループワークにより、既存のデータや各種保健計画等から地域の健康情報の収集を行い、地域の健康状況を理解します。その情報を基に、地区踏査において観察する情報や項目を検討します。	水馬 朋子
第3回	公衆衛生看護の概念、歴史と動向 公衆衛生看護活動の展開と対象	予防の概念、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション 欧米での公衆衛生看護の始まり、わが国の公衆衛生看護活動 保健師教育の歴史、地域における保健師活動	水馬 朋子
第4回	公衆衛生看護活動の方法：保健計画策定	公衆衛生看護活動過程 地域保健計画策定と保健師の役割	水馬 朋子
第5回	公衆衛生看護活動の方法：ツール	家庭訪問、健康相談、健康診査、健康教育、グループ支援・地域組織活動	水馬 朋子
第6回	産業保健活動の実際と産業保健師の役割	産業保健の概念 産業保健制度とシステム 労働安全衛生管理と保健師活動	水馬 朋子
第7回	公衆衛生看護における健康危機管理	健康危機管理の定義と現状 災害保健活動	水馬 朋子
第8回	公衆衛生看護活動の展望、国際保健	国際保健の現状と課題 今後の国際協力のあり方 これまでの学修を振り返り、これから公衆衛生看護活動の展望について考えます。	水馬 朋子

選 択 科 目

年度	2025
科目名	生命倫理
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L101

担当教員

氏名
◎ 田中 健

ディプロマポリシーとの関連性	1-1)
授業の概要	人間の生のあり方は技術や制度に制約されると同時に、人と人との関係のあり方によっても影響されます。この状況は医療分野においても基本的には変わりません。 この講義では、「技術」、「制度」、「人と人との関係のあり方」の観点から、医療分野における倫理問題（善悪に関わる問題）について解説していきます。それらの背景には、人間が人間である以上避けられない、解決困難で普遍的な問題が横たわっていることが明らかになるでしょう。
到達目標	1) 医療分野における倫理問題の概要と、それに関してこれまでに蓄積されてきた議論を理解すること。 2) 上記1)を活かし、最終的には、医療者として適切な倫理的判断（善悪に関わる判断）を下せるようになること。
予習・復習	予習 「次の授業までに～について自分の考えをまとめてきて下さい」という形で「問い合わせ」を提示します。常識の範囲でかまわないので、示された「問い合わせ」についての答えを考えてきてください。 復習 授業で説明された論点の再確認と、それについての自分の見解の整理を行なって下さい。予習よりも復習に重点を置いて下さい。 毎授業、45分の予習と、45分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	なし。 参考文献に挙げる3冊をはじめ、講義のなかで紹介する文献をできるだけ多く読んでください。
参考文献	①今井道夫(2018). 生命倫理学入門(第4版). 産業図書 ②児玉聰ほか(2013). マンガで学ぶ生命倫理. 化学同人 ③香川知晶(2009). 命は誰のものか. ディスクヴァー・トゥエンティワン
評価の方法	定期試験70%、コメントペーパー30%で評価します。 本試験で不合格だった受講者に対して再試験は行いませんので、注意して下さい。
課題に対するフィードバック	コメントペーパーの内容から、すぐれた考察、有益な質問、陥りがちな誤り等を取り上げ、紹介・解説していきます。
受講生へのメッセージ	開講最低人数：5人 すべての講義を対面授業で実施します。 講義で扱われるテーマを「将来、自分が関わることになるかもしれない問題」としてとらえ、粘り強く議論に付いて来てください。 医療分野において問題になっている事がらを理解することによって、医療専門職として適切な判断ができるようになるための一助として下さい。 毎回、授業内容についての確認テストを配布します。これは自習のためのものであり、提出は求めません。確認テストの答え合

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	倫理／生命倫理とは	法と倫理の違いと、生命倫理という分野が成立した背景について解説していきます。	田中 健
第2回	生殖技術の問題（1）	生殖技術の概要を紹介し、その問題点を解説していきます。	田中 健
第3回	生殖技術の問題（2）	生殖技術のもつ問題点にそくして、その規制に関する議論を解説していきます。	田中 健
第4回	人工妊娠中絶の問題（1）	母体保護法にいたるまでの、中絶をめぐる制度の変遷を紹介し、その歴史的背景について解説していきます。	田中 健
第5回	人工妊娠中絶の問題（2）	日本では単なる「きれいごと」とみなされることが多い「プロライフ」（中絶に反対する立場）の主張を紹介し、その妥当性を検討していきます。	田中 健
第6回	人工妊娠中絶の問題（3）	「プロチョイス」（中絶を是認する立場）の主張を紹介し、その妥当性を検討していきます。	田中 健
第7回	義務論と功利主義	カントから始まる義務論とベンサムを創始者とする功利主義が、「善／悪」をどのようにとらえるかを解説していきます。	田中 健
第8回	プライバシーと守秘義務	「プライバシー」概念の歴史的背景を解説し、守秘義務の適用範囲について検討していきます。	田中 健
第9回	脳死・臓器移植の問題（1）	脳死とはどういう状態であるかについて、脳死問題の歴史をふまえて解説していきます。	田中 健
第10回	脳死・臓器移植の問題（2）	脳死判定基準の内容とその意味について解説していきます。	田中 健
第11回	安楽死・尊厳死の問題（1）	方法、理由、本人の意思の3つの観点から、安楽死を分類し、それがどのような行いなのか解説していきます。	田中 健
第12回	安楽死・尊厳死の問題（2）	日本の裁判例を取り上げながら、安楽死という行いの問題点を解説していきます。	田中 健
第13回	安楽死・尊厳死の問題（3）	「PAD（医師の支援による死）」を中心に安楽死・尊厳死をめぐる欧米の動向を紹介し、「死の自己決定」について検討していきます。	田中 健
第14回	インフォームド・コンセント（1）	「インフォームド・コンセント」という概念が成立した歴史的背景を解説します。その上で、「インフォームド・コンセント」の実現に関する様々な見解を解説していきます。	田中 健
第15回	インフォームド・コンセント（2）	「インフォームド・コンセント」の土台となる「医療者と患者の関係」について様々な見解を解説し、その妥当性を検討していきます。	田中 健

年度	2025
科目名	日本国憲法
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	火曜日
代表時間	3 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L102

担当教員

氏名
◎ 横藤田 誠

ディプロマポリシーとの関連性	1-1)
授業の概要	憲法の存在意義、統治の仕組みを確認したうえで、主に基本的人権の保障に関する基本的知識、そして不利な立場におかれいる人びとの人権状況を学びます。
到達目標	1) 日本国憲法が保障する人権に関する問題状況を把握する。 2) 社会の一員として、看護師として不可欠な人権感覚を身につける。 3) リーガル・マインド（法的なものの考え方）の基本を身につける。
予習・復習	予習 各回の講義のテーマに該当する教科書の章を目次で確認し、予め読んでおいてください。 復習 講義終了後は、その日学習した教科書の該当箇所を読んで理解が不十分な点がないか確認をしてください。理解の不十分な点があれば、次回の講義の際に質問に来てください。 毎授業、30分の予習、30分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	横藤田誠, 中坂恵美子(2021). 人権入門 憲法/人権/マイノリティ(第4版). 法律文化社.
参考文献	なし
評価の方法	期末試験（80%）および随時提出を求めるコメントペーパー（20%）によって評価します。
課題に対するフィードバック	提出されたコメントペーパーのうち受講者で共有したほうがよいと判断したコメントを、次回冒頭に紹介し、問題意識を深めます。
受講生へのメッセージ	開講最低人数：5人 講義 15 コマのうち 5 コマを遠隔授業とし、その他は対面で行います。 「また憲法の条文を覚えさせられるのか」と思っているあなた！ それは間違いです。これまで学んできた政治・歴史・思想等に関する知識を土台にして、日々の新聞・テレビ等のニュースにもアンテナを広げて、自分の頭と心でよりよき社会のあり方を考えていきましょう。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	憲法の基礎知識（1）	授業形態：対面 憲法を学ぶための最小限の法学入門	横藤田 誠

第2回	憲法の基礎知識（2）	授業形態：対面 憲法の存在理由、統治の仕組みについて考える	横藤田 誠
第3回	日本国憲法誕生の秘密	授業形態：遠隔 憲法はどうやって生まれたのか？ アメリカに押しつけられたのか？	横藤田 誠
第4回	人権が制約されるとき	授業形態：対面 人権は無制限か？ アイドルの恋愛禁止は憲法違反？	横藤田 誠
第5回	個人の尊厳	授業形態：対面 奴隸制度・らい予防法から個人の尊厳の意味をかみしめる	横藤田 誠
第6回	法の下の平等	授業形態：遠隔 医療職の欠格条項・男性助産師問題から法の下の平等を考える	横藤田 誠
第7回	プライバシーの権利	授業形態：対面 医療におけるプライバシー問題を考える	横藤田 誠
第8回	自己決定権(1)	授業形態：対面 旧優生保護法の不妊措置・生殖補助医療から自己決定権を考える	横藤田 誠
第9回	自己決定権(2)	授業形態：遠隔 人工妊娠中絶・尊厳死等から自己決定権を考える	横藤田 誠
第10回	思想・良心の自由+信教の自由	授業形態：対面 国家斉唱の強制と心の自由 輸血拒否・人工妊娠中絶を素材に信教の自由を考える	横藤田 誠
第11回	表現の自由	授業形態：対面 児童ポルノ、犯罪報道、ヘイトスピーチ等を素材に表現の自由を考える	横藤田 誠
第12回	生存権	授業形態：遠隔 見えない貧困、教育格差、医療格差を素材に生存権を考える	横藤田 誠
第13回	刑事手続きにおける権利	授業形態：対面 相次ぐ冤罪事件、犯罪捜査・刑事裁判はどうなっているのか？	横藤田 誠
第14回	平和と安全保障	授業形態：遠隔 現代日本の安全保障の選択肢は何か？	横藤田 誠
第15回	憲法改正+まとめ	憲授業形態：対面 憲法改正すべきだろうか+まとめ	横藤田 誠

年度	2025
科目名	教育の本質と過程
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L103

担当教員

氏名
◎ 矢野 博史

ディプロマポリシーとの関連性	1-1)
授業の概要	「教育とは何か」と問い合わせながら、「教育の本質」について多面的に考察していきます。また「教育の過程」については、現在の教育の歴史的な生成過程と「教える一学ぶ」の進行過程の2側面において把握し、「教育」全体の活動を明らかにしていきます。
到達目標	1)教育の基本的な定義を理解する。 2)現在の教育の歴史的生成過程を把握する。 3)「教える」と「学ぶ」を関係づけながら、「教育」について説明することができる。
予習・復習	この授業は、主として配布資料に沿って進めていきます。毎時間、それぞれ90分程度の予習・復習が必要です。予習の際には配布資料を読み、その上で教科書等を用いて講義の準備をしてください。また、教科書は発展的な課題の学習にも活用できる内容となっています。復習の際には、単に授業の振り返りにとどまらず、自ら参考となる書籍や資料を探して活用してください。毎回の授業終了後にConsenseというオンラインツールを用いて受講生相互の意見交換を行います。2回目以降の授業では、皆さんのが行なった意見交換の内容を踏まえ、講義の冒頭で補足説明や発展的な解説を行います。その際に、発展的な学習のための教材の配布、文献の提示を行いますので、この授業の予習・復習の際にはこれらの資料を活用してください。またConsense上の各回のコメントページは、予習・復習にも有用ですので、随時参照してください。
アクティブラーニング型授業の有無	有(ペアワークとその成果発表)
双方向型授業のためのICT活用の有無	有(Consenseの活用)
必須文献	小笠原道雄, 森川直, 坂越正樹編(2008). 教育的思考の作法2 教育学概論. 福村出版.
参考文献	刈谷剛彦, 西研(2005). 考えあう技術. 筑摩書房.
評価の方法	授業への参加状況(講義時の積極的な発言、講義終了時にConsense上に提出する講義内容及び他の受講生のコメントへのコメント付け)により評価します(30%) 期末レポート(70%)
課題に対するフィードバック	毎回の授業では、受講生からのコメントへのリプライを行います。 提出されたレポートにはコメントをつけて返却します。
受講生へのメッセージ	この科目的開講最低人数は3名です。 この科目は対面授業で行います。 講義では、毎回終了後にConsenseというオンラインツールを用いた意見交換を行います。また、Consenseは授業中の意見発表にも活用します。使い方の詳細は、初回講義時にお知らせします。 Consenseへのコメント記入は出欠の確認にも用います。 授業改善のため、最終回終了後には「授業評価アンケート」にご協力お願いします。 この科目が活発な学び合いの場になることを期待しています。 オフィスアワー: 授業終了後30分間、講義内容に関する質問等を研究室9で受け付けます。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	コースオリエンテーション 教育の思想と理論の関係	授業形態：対面 この講義では、教科書に加えて、随時プリントを配布します。 教育思想が教育理論に先行することを知り、教育に関する考え方を学ぶ意義を理解します。	矢野 博史
第2回	教育の定義	授業形態：対面 日常会話の中から教育の定義を探っていきます。	矢野 博史
第3回	教育的行為の構造	授業形態：対面 「教える-学ぶ」の関係性について理解します。	矢野 博史
第4回	人間の成長と教育の意義	授業形態：対面 動物と人間の違いを考え、文化と人間形成の関係を理解します。	矢野 博史
第5回	学校の起源と特質	授業形態：対面 古代・中世の教育観について理解し、学校成立を促した要因について考えます。	矢野 博史
第6回	宗教改革から近代公教育へ	授業形態：対面 近代の教育観とその成立プロセスについて理解します	矢野 博史
第7回	近代教育制度の成立とその性格	授業形態：対面 ヨーロッパ近代の歴史的背景から近代教育の特徴を捉えていきます	矢野 博史
第8回	子ども中心主義の思想	授業形態：対面 「子どもの発見／発明」という考え方を軸にしてここまでの中を振り返ります。	矢野 博史
第9回	近代教育批判の視座Ⅰ	授業形態：対面 近代の教育思想に内在する問題から現代の教育問題について考えます。	矢野 博史
第10回	近代教育批判の視座Ⅱ	教育の「制度化」が抱えた問題について理解します。	矢野 博史
第11回	現代社会と教育の課題	授業形態：対面 生涯学習社会における学校の役割について検討します。	矢野 博史
第12回	教育的関係の捉え方	授業形態：対面 教える立場、学ぶ立場、両者の関係性について検討します。	矢野 博史
第13回	「教授-学習」プロセスⅠ	授業形態：対面 教えることを計画するために必要な考え方を学びます。	矢野 博史
第14回	「教授-学習」プロセスⅡ	授業形態：対面 教えるための技法の基礎を理解します。	矢野 博史
第15回	「教授-学習」プロセスⅢ	授業形態：対面 教えるための技法の基礎を理解します。	矢野 博史

年度	2025
科目名	心理学概論
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	月曜日
代表時限	3 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L104

担当教員

氏名
◎ 丸山 愛子

ディプロマポリシーとの関連性	2-1), 3-1), 3-3), 5-1), 5-2)
授業の概要	心理学の主要なテーマに関する基礎的知識を概説します。 看護で使用されることの多い心理学の研究方法も紹介します。 心理テストも実施しますので、たのしみながら自分を知ることができます。 医療の領域で応用させることができ内容の理解を目指します。
到達目標	1) 心理学の基礎的知識と研究手法を知る。 2) 諸問題について、自分自身や社会との関係からとらえて考える。 3) 自分の意見を簡潔にわかりやすく主張する。
予習・復習	毎回の授業のために、予習と復習（合計180分以上）を求めます。学習した内容は定期的に復習しましょう。 各回の予習については、Google classroomを参照して取り組んでください。 授業内容に対応する教科書を事前に読み、疑問など予め調べて参加しましょう。 疑問について予習などで解決できなかった場合などは、授業内で質問してください。 中間課題は、評価の対象となりますので、提出期日を厳守してください。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	山崎晃・浜崎隆司編著 (2006).新・はじめて学ぶこころの世界 . 北大路書房.
参考文献	授業の中で随時、紹介します。
評価の方法	定期試験（70%）、中間課題（20%）、ペアワークやグループワークへの積極的な参加（10%）により総合的に評価します。 中間課題は、Google Classroomに準備した所定フォルダに提出してもらいます。提出方法の詳細は、授業で説明します。 グループワークへの参加や態度については、机間巡回と議論カード（グループワークでの学習成果や疑問を記入するカード）、 授業内で実施した完成物（授業で実施するグループでのKJ法の成果物など）によって、総合的に評価します。 次回の授業において、前回のコメントカードや課題における特徴的な見解や誤解について可能な限りコメントします。
課題に対するフィードバック	授業内で適宜質疑応答を受けつけ、すぐに回答します。 課題、発表、授業へのコメントカード（学生が授業後に毎回提出するもの）に関しては、対応が必要な内容と質問には、内容に応じて以下2つの方法でフィードバックを行います。 ①個人に直接返答・コメント（Google Classroomあるいはgmailを使用） ②課題やコメントカードの動向や重要な質問内容に関しては、次の講義で全体に紹介・解説、情報共有して学びにつなげます。 注意点：課題の提出は、必ず期日を厳守しましょう。期日を過ぎると、減点対象です。
	開講最低人数：4名 授業形態：14コマは対面、1コマはオンラインデマンド ※必要時、オンラインデマンド授業に変更する場合、迅速にGoogle Classroomから連絡 授業の出欠確認：①Google classroomに準備したフォルダに各授業内容の感想・要望・疑問・ 調べたくなかった内容(復習時間としてカウント可能)への期限内の記載 ②授業内でいろいろな方法で出欠確認を実施

受講生へのメッセージ	<p>授業内容 : アクティブラーニング型授業（課題発表、ペア・ワーク、グループ・ワーク、KJ法、ジグソー学習法等）、双方向型授業のためのICT活用（意見交換等）を実施</p> <p>オフィスアワー：授業直後の10分間、授業実施日あるいは次の日の12:20～12:50、その他 場所は研究室12にて対応（am11116@jrchcn.ac.jpから時間を予約してください）</p> <p>注意点：課題の提出は、必ず期日を厳守しましょう。期日を過ぎると、減点対象です。</p> <p>心理学と看護は、密接に関係しています。多くの皆さんにとってはじめての心理学の授業、たのしみながら知識を深めましょう。</p> <p>心理学で使用される標準的なテストや実験も実施しますので、自己を客観的に観察、分析するいい機会にしてください。 「自分を知るための主体的な学習」を通して新たな自分と出会ってみましょう。</p> <p>自分のもののみかたや考え方の特性を把握することで、今後、問題解決の際に有効な糸口を発見しやすくなるでしょう。</p> <p>15コマすべての授業が終了したら、「授業評価アンケート」にご回答ください。 皆さんのご意見が授業改善につながりますので、ご協力をお願いいたします。</p>
科目の内容に関連した実務経験	<p>日本の大学での教員歴（心理学に関する講義の実施）：30年以上 心理学に関する研究（学会発表、論文発表、教科書などの出版物の執筆など）</p>

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	第1章 心理学とは？ 科学としての心理学	授業形態：対面 考えてくること（①と②について議論します） ①「こころ」をあなたはこれまでどのように捉えてきたか？ ②「こころ」はどこにあると思いますか？ 予習：自身の発達過程における課題（時期と内容）を列挙してくる 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる	丸山 愛子
第2回	第2章 「こころ」の働き、「もののみかた」の不思議	授業形態：対面 心理学の歴史と研究の変遷 錯視図形（心理テスト含む） もののみかたによって誤解は生じるか 事実と解釈の違い ペア・ワーク 予習：【中間課題1 GoogleClassroomに提出】もののみかたによって生じた誤解の体験談 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる	丸山 愛子
第3回	第3章 こころとからだの発達（DVD視聴含む） 発達の原理 ライフサイクル理論（各時期における発達課題）	授業形態：対面 胎児期から思春期までの発達 遺伝か環境か？ ペア・ワーク、グループ・ワーク 予習：胎児期に関する社会問題の記事を最低2つ持参する 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる	丸山 愛子
第4回	第5章 人を行動にかりたてるもの 情動とは何か？	授業形態：遠隔（オンデマンド授業 ※視聴期間は1週間） 感情・情緒・情操・気分の違い、情動の形成と分化 情動表出とコミュニケーション、動機づけ 課題についてのペア・ワーク 予習：【中間課題2 GoogleClassroomに提出】やる気が出たとき・失せたときとその理由 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる	丸山 愛子
第5回	第4章 第1,2章 自分らしさとは？ 性格検査 性格検査を実施して自己分析しよう	授業形態：対面 性格に関する諸類型論 性格診断テスト（新版TEGで自分の性格を分析） ペア・ワーク 予習：【中間課題3 GoogleClassroomに提出】自分の性格を分析し、記述しよう 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる	丸山 愛子
第6回	第6章 学ぶことのしくみ、記憶、学習	授業形態：対面 記憶のメカニズム（心理テストをやってみよう） 「学習」とは？ ペア・ワーク、グループ・ワーク 動物実験から「学ぶ」こと 予習：よりよい記憶の方法を調べてこよう 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる	丸山 愛子

第7回	第7章 新しいものを作り出すとは?、創造的思考力	<p>授業形態：対面 知能、創造性、問題解決能力 あなたの創造力は？（心理テストをやってみよう） ペア・ワーク 予習：創造的思考」は日常生活でどのように生かされているか 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子
第8回	第8章 わかることと考えること 効果的なグループワーク	<p>授業形態：対面 わかるとは、思考、KJ法、ひとはなぜ嘘をつく？ ペア・ワーク、グループ・ワーク 提出：「自分」についての小課題 予習：「わかる」と「できる」の違いを身近な人へインタビューし、発見を記載していく 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子
第9回	第9章 社会に適応すること 人間関係の形成（友情、恋愛など） なぜ愛し合った人と別れるの？	<p>授業形態：対面 自己の発達と人間関係の発達 親密な関係の形成（出会いと別れ） 予習：「親密な関係」の形成課題について身近な人へインタビュー・発見を記載する 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子
第10回	第10章 私たちとコンピュータ、情報化社会	<p>授業形態：対面 コンピュータやインターネットの歴史と特徴 情報化社会の危険性と課題 ネット依存・ゲーム依存 予習についてのペア・ワーク、グループ・ワーク 予習：情報化社会の危険性に関する記事を持参する 【中間課題4 GoogleClassroomに提出】なぜ、ネットやゲームをやめられないのか？ 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子
第11回	第11章 社会への適応・不適応 対人葛藤 子どもへの虐待	<p>授業形態：対面 適応とは、葛藤、ストレスの種類、防衛機制 虐待 あなたはタイプA？（心理テストをやってみよう） 予習についてのペア・ワーク、グループ・ワーク 予習：適応と不適応の事例について考えてくる 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子
第12回	第12章 こころのトラブル、症状と心理療法	<p>授業形態：対面 心身症・神経症・精神障害 いろいろな心理療法の紹介 DVD視聴、ペア・ワーク 予習：【中間課題5 GoogleClassroomに提出】私のストレッサーとストレス・コーピング 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べ</p>	丸山 愛子
第13回	認知発達 カウンセリングとは カウンセリングのポイント	<p>授業形態：対面 カウンセリングの基礎 社会的認知 DVD視聴後のペア・ワーク 予習：青年期から老年期までの社会問題の記事を最低2つ選んで持参する 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子
第14回	第4章、第3章 こころとからだの発達（DVD視聴含む） ひとの発達について	<p>授業形態：対面 青年期から老年期までの発達 モラトリアムとは、自分さがし（心理テスト） 予習についてのペア・ワーク 予習：自分らしさとは何か？、自分らしさを探る 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子
第15回	第11章 ストレス社会のなかで生きるために 社会・環境・文化と私たち	<p>授業形態：対面 ストレス・コーピング（心理テスト）、ペア・ワーク 発達心理学と看護 予習：発達心理学の知識は看護師にどのように役立つか考え記載していく 復習：授業内容に対応する資料（教科書・配布物）を読み・疑問点を調べる</p>	丸山 愛子

年度	2025
科目名	発達心理学
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L105

担当教員

氏名
◎ 丸山 愛子

ディプロマポリシーとの関連性	2-1), 3-1), 3-3), 5-1), 5-2)
授業の概要	<p>発達心理学の基礎的な知識の獲得を目指します。</p> <p>また、諸問題を社会状勢や自分の問題と絡めて考え、理解する力を養成します。</p> <p>人の一生涯の発達に関する主な理論や研究を紹介し、各発達時期の特徴や発達課題について概説します。</p> <p>発達に関する諸問題を歴史や文化などと関連づけて考え、問題解決の方法を探りましょう。</p>
到達目標	<p>1) 発達心理学の基礎的知識と研究手法を知る。研究手法については、部分的に活用できる。</p> <p>2) 諸問題を社会や自分との関係からとらえて考える。</p> <p>3) グループ議論において相手の意見を尊重し、自分の意見を簡潔に主張する。</p>
予習・復習	<p>毎回の授業のために、予習と復習（合計180分以上）を求めます。授業で学習した内容は定期的に復習しましょう。</p> <p>各回の予習（課題）については、Google classroomを参照して取り組んでください。</p> <p>また、授業内容に対応する教科書を事前に読み、疑問等予め調べるなどして参加してください。</p> <p>疑問に関して解決していない場合は、授業内で質問してください。</p> <p>中間課題は、評価の対象となります。提出期日を厳守してください。</p>
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	下山晴彦, 佐藤隆夫, 本郷一夫(監修), 林創(編著) (2019).公認心理師 スタンダード テキストシリーズ12 発達心理学. ミネルヴァ書房.
参考文献	授業の中で紹介、提示します。
評価の方法	定期試験（70%）、中間課題・グループワーク・授業の中で実施する課題等の提出（30%）によって総合的に評価します。
	中間課題は、Google Classroomに期日内に提出してもらいます（詳細は、授業内で連絡）。
課題に対するフィードバック	<p>授業内で適宜質疑応答を受けつけ、すぐに回答します。</p> <p>課題、発表、授業へのコメントカード（学生が授業後に毎回提出するもの）に関しては、対応が必要な内容と質問には、内容に応じて以下2つの方法でフィードバックを行います。</p> <p>①個人に直接返答・コメント（Google Classroomを使用）</p> <p>②課題やコメントカードの動向や重要な質問内容に関しては、次の講義で全体に紹介・解説、情報共有して学びにつなげます。</p> <p>注意点：課題の提出は、必ず期日を厳守しましょう。期日を過ぎると、減点対象です。</p>
	<p>開講最低人数：4名</p> <p>授業形態：12コマは対面、3コマはオンラインデマンド ※必要時、オンラインデマンド授業に変更する際は迅速にGoogle Classroomから連絡</p> <p>授業の出欠確認：①Google classroomに準備したフォルダに各授業内容の感想・要望・疑問・調べたくなった内容（復習時間としてカウント可能）への期限内の記載</p> <p>②授業内でいろいろな方法で出欠確認を実施</p> <p>授業内容：アクティブラーニング型授業（課題発表、ペア・ワーク、グループ・ワーク、KJ法、ジグソー学習法等）、双方向型授業のためのICT活用（意見交換等）を実施</p>

受講生へのメッセージ	<p>オフィスアワー：授業直後の10分間、授業実施日あるいは次の日の12:20～12:50、その他 場所は研究室12にて対応 (am11116@jrchn.ac.jpから時間を予約できます)</p> <p>発達心理学の知識は、将来、医療に携わる際に役立つだけでなく、自立した社会人になるうえで有益な情報をもたらしてくれます。 授業で扱う課題に取り組むなかで資料を積極的に収集し、それらの資料を読みこなすだけでなく、その問題に潜んだ今後の課題についても自分なりに考えることを習慣づけましょう。</p> <p>15コマすべての授業が終了したら、「授業評価アンケート」にご回答ください。 皆さんのご意見が授業改善につながりますので、ご協力をお願いいたします。</p>
科目の内容に関連した実務経験	<p>日本の大学での教員歴（心理学に関する講義の実施）：30年以上 心理学に関する研究（学会発表、論文発表、教科書などの出版物の執筆など）</p>

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	オリエンテーション 発達心理学とは？ 発達とは？ 各発達時期の発達課題	<p>授業形態：対面 発達とは、ライフサイクルとは何か、各発達段階の課題、ペア・ワーク</p> <p>予習 年齢に応じた発達課題にはどのようなものがあるか？考えてくる 資料を参考にせず自分で考えましょう（ペア・ワーク）</p> <p>復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第Ⅰ部など）を熟読</p>	丸山 愛子
第2回	胎児期・新生児期の発達	<p>授業形態：対面 生命の誕生、胎児の発達 新生児の知覚・運動能力の発達、夜泣き対策 DVD視聴：NHKスペシャル驚異の小宇宙 人体 I.生命誕生 、 DVD視聴後にペア・ワーク</p> <p>予習：自分の出生時の身長・体重を調べる、自分の母子健康手帳を熟読し発見する 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第Ⅱ部 第3章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第3回	発達の原理 乳児期の発達	<p>授業形態：オンデマンド（視聴期間は1週間） 発達の原理、乳児の知覚・情緒・運動・認知能力の発達 分離不安、親子関係、人みしり対策 DVD視聴：健康・保健シリーズ子どもの発達と支援Vol.1運動機能の発達、DVD視聴後にペア・ワーク</p> <p>予習：自分の人見知りや言語発達について調べる（ペア・ワーク） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第Ⅱ部 第3,9章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第4回	幼児期の発達 (幼児期前期の発達)	<p>授業形態：対面 親子関係から仲間関係への人間関係の拡大、幼児の知覚・運動能力の発達 自己意識の発達、自律性の芽生え、「イヤイヤ」への対策 DVD視聴：健康・保健シリーズ子どもの発達と支援Vol.2情動の発達、DVD視聴後にペア・ワーク</p> <p>予習：自分の反抗期について周囲の人にインタビューして調べる、第一反抗期と第二反抗期の違い 将来我が子が反抗期の時期にあなたならどうするかを考える（ペア・ワーク） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第Ⅱ部 第4,7章）を熟読</p>	丸山 愛子
第5回	幼児期の発達 (幼児期後期の発達)	<p>授業形態：対面 対人関係の拡大と対人葛藤、社会性の発達、規範意識の芽生え DVD視聴：健康・保健シリーズ子どもの発達と支援Vol.3社会性の発達、 DVD視聴後にペア・ワーク</p> <p>予習：自分の対人関係の発達を図示してこよう（ペア・ワーク） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第Ⅱ部 第6章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第6回	幼児期前期・幼児期後期の発達	<p>授業形態：対面 言葉の発達、社会性の発達と自己調整能力 DVD視聴：健康・保健シリーズ子どもの発達と支援Vol.4ことばの発達、 DVD視聴後にペア・ワーク</p> <p>予習：自分の自己主張と自己抑制の変遷を分析（GC=Google Classroomに記載） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第Ⅱ部 第9章など）を熟読 ●【中間課題1】「乳幼児期の私」について調べて記載 ※GCに提出</p>	丸山 愛子
第7回	乳幼児期から児童期の対人関係の拡大、自己意識の確立と対人葛藤 絵本・メディアの影響	<p>授業形態：対面 対人関係の拡大と社会性の発達、絵本・メディア、子どもの遊び</p> <p>予習：幼少期に好きだった・嫌いだったテレビ番組、テレビ番組からどのような影響を受けたか？（ペア・ワーク） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第Ⅱ部 第8章など）を熟読</p>	丸山 愛子

第8回	ひとの認知の発達	<p>授業形態：オンデマンド（視聴期間は1週間） 認知能力の発達、心の理論、社会的情報処理の発達</p> <p>予習：授業に対応する教科書の範囲を読む 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第II部 第5章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第9回	児童期の発達、思春期の発達	<p>授業形態：対面 児童期、自尊心、仲間関係 DVD視聴：健康・保健シリーズ子どもの発達と支援Vol.5認知の発達、ペア・ワーク</p> <p>予習：児童期における仲間の存在について（ペア・ワークの材料） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第III部 第10章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第10回	青年期の発達	<p>授業形態：対面 思春期の変化、性への目覚め、第二次性徴、不登校 自分らしさ、社会への責任感、ペア・ワーク</p> <p>予習：授業に対応する教科書の範囲を読む（ペア・ワーク） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第III部 第10章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第11回	成人期初期・中期の発達	<p>授業形態：対面 アイデンティティの確立、就職 結婚、育児、仕事・育児の両立 ペア・ワーク</p> <p>予習：授業に対応する教科書の範囲を読む、アイデンティティの確立に関する楽曲を紹介（GCに記載） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第III部 第11章など）を熟読 ●【中間課題2】「アイデンティティの確立と○○」（○○言にはあなたが自由に考え記載しましょう。進学、就職、結婚、育児など）」※GCに提出</p>	丸山 愛子
第12回	中年期の発達	<p>授業形態：対面 仕事、子離れ、離婚、家族の変化、ワーク・ライフ・バランス 危機（更年期障害、バーンアウト、自殺） DVD視聴：ビジュアル生涯発達心理学入門Vol.9中年期～人生の折り返し点からの発達～、ペア・ワーク</p> <p>予習：①子離れとは？なぜ必要か考える、②自殺について調べる、資料を持参（ペア・ワーク） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第III部 第11章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第13回	円熟期（老年期）の発達	<p>授業形態：対面 職後の人間関係の変化と悩み、生きがい 健康、介護・価値観、死をいかにとらえるか、DVD視聴、ペア・ワーク</p> <p>予習：高齢者問題を調べる、資料や新聞記事を持参（ペア・ワーク） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第III部 第12章など）を熟読</p>	丸山 愛子
第14回	虐待 いじめ ひきこもり	<p>授業形態：オンデマンド（視聴期間は1週間） 虐待と社会、いじめ、ひきこもり</p> <p>予習：虐待について調べてGCに記載 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第II部 第4,7, 第III部13章）を熟読</p>	丸山 愛子
第15回	発達と環境・文化 多文化教育 発達障害	<p>社会・文化・発達の関係、多文化教育と共生 発達障害、発達を援助するために、ペア・ワーク</p> <p>予習：多文化・共生・時代と発達について考える（ペア・ワークの材料） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲（第III部 13章）を熟読 ●【中間課題3】 「私たちの文化ならではのものは何か？」「海外からはじめて日本を訪れたひとが、日本に来て戸惑いそうなこと・困りそうなことはどんなことか？」これらのことが発達や私たちの特性・関係・環境・文化などとどのように関連しているのかを考えてみよう。※GCに提出</p>	丸山 愛子

年度	2025
科目名	化学概論
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	金曜日
代表時間	3 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L106

担当教員

氏名
◎ 長尾 則男

ディプロマポリシーとの関連性	3-1)
授業の概要	「身近な化学」について講義を展開します。今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるように化学的基礎知識の充実を目的とします。生命の化学、食の化学、暮らしの化学、技術の化学等について学びます。
到達目標	1) 日常生活に密接に関係した化学物質の性質やその利用について、説明できて記述することができる目標とします。 2) 身近な事例について化学的な思考を行い、科学的ニュース報道やトピックスが理解できることを目標とします。
予習・復習	予習 授業内容を参照してください。 復習 各単元（授業3回～4回分ごと）に、講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解してレポートA4紙1枚としてまとめる課題を課します。レポート作成を通じて知識を整理することで理解が進みます。 毎授業、30分の予習、60分の復習を求めます。
アクティブ・ラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	なし。 プリント等を配布し、スライド等を用いて講義します。
参考文献	松田勝彦(2011). 商品から学ぶ化学の基礎. 化学同人. 武田徳司, 平松紘実, 喜多泰夫(2015). 活用品の化学が一番わかる(しくみ図解). 技術評論社.
評価の方法	期末試験 (60%) 、レポート (30%) 、毎回のコメントシート (10%) 。 再試験は実施しません。
課題に対するフィードバック	提出されたレポートに関しては、次回の授業で提出された内容について総合的にコメントします。
受講生へのメッセージ	開講最低人数：1人 講義15コマのうち2コマを対面授業とし、その他は遠隔授業(オンライン動画配信により配信後随時受講可)で行います。高校で化学を詳しく学んでいなくても、基礎の初めから学びます。私たちの日ごろの生活は、化学物質に満ちていることを実感し、私たちの体においても、化学的な見方・考え方が可能であることを知ります。 質問、意見等は随時メール等で受け付け、次回以降の講義で反映させます。授業評価アンケートへの協力をお願いします。 出欠席についてはGoogleフォームで確認します。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	化学概論で取り扱う領域を説明します。	授業形態：対面 化学物質（有機物質・無機物質）の構成、元素、分子、原子について学びます。 身近な化学について取り上げます。シラバスで授業内容を理解しておいてください。	長尾 則男
第2回	化学変化と色変化（1）	授業形態：遠隔 色の見え方と光の吸収、色彩変化と化学反応について学びます。例として色の変わる製品（感熱紙）を取り上げます。	長尾 則男
第3回	化学変化色変（2）	授業形態：遠隔 吸収スペクトル、吸光度、分光光度計やパルスオキシメーター、加速度脈波計について学びます。分析機器を持ち込みます。実際に触れてみてください。 とりあげる内容についてネットや書籍等で原理や工夫点等をさらに深く調べてみてください。	長尾 則男
第4回	化学変化色変（3）	授業形態：遠隔 酸とアルカリ、モル概念、pHについて学びます。アジサイと土壤pHや紫キャベツアントシアニンを例示します。 取り上げる内容について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみて下さい。	長尾 則男
第5回	化学変化色変（4）	授業形態：遠隔 酸塩基平衡について学びます。血中のpHコントロールを例示します。 とりあげる内容について高校等で使用した化学の教科書・参考書等を、あらかじめ読んでおいてください。 関連情報についてネットや書籍等で調べてみて下さい。	長尾 則男
第6回	生活の化学（1）	授業形態：遠隔 染色を取り上げて、酸化・還元について学びます。温泉黒たまご、毛染めについて言及します。 とりあげる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。	長尾 則男
第7回	生活の化学（2）	授業形態：遠隔 緩衝液の例として、血液中、細胞培養液中のpH調整について取り上げます。化学発光について学びます。ホタルやケミカルライトを取り上げます。 とりあげる内容についてネットや書籍等で原理や反応式について調べてみてください。	長尾 則男
第8回	生活の化学（3）	授業形態：遠隔 洗剤、界面活性剤の性質、特性について学びます。 油脂、せっけん、ケン化について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみて下さい。	長尾 則男
第9回	生活の化学（4）	授業形態：遠隔 衣服に利用されている化合物について学びます。 天然高分子、人工高分子について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみて下さい。	長尾 則男
第10回	食品の化学（1）	授業形態：遠隔 味覚、うま味成分について学びます。化学調味料を取り上げます。 とりあげる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。	長尾 則男
第11回	食品の化学（2）	授業形態：遠隔 調理方法の化学的根拠や化学的調理方法について学びます。 とりあげる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。	長尾 則男
第12回	食品の化学（3）	授業形態：遠隔 糖質、糖化について学びます。 とりあげる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。	長尾 則男
第13回	食品の化学（4）	授業形態：遠隔 物質の状態変化、水の性質、凝固点降下について学びます。例としてアイスクリームを示します。 とりあげる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。	長尾 則男
第14回	エネルギーと化学（1）	授業形態：遠隔 物質の状態変化、気体の性質について学びます。エアコンのしくみを示します。 気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。	長尾 則男
第15回	エネルギーと化学（2）	授業形態：対面 電気、電池を化学的視点から学びます。原理やモデルを取り上げます。 歴史や開発過程等の関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。	長尾 則男

年度	2025
科目名	生物学概論
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時間	4 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L107

担当教員

氏名
◎ 斎藤 祐見子

ディプロマポリシーとの関連性	3-1)
授業の概要	生物学概論はヒトを含む生物を理解する上で重要な基礎科目です。生物の構成単位である細胞の構造と機能、遺伝の仕組み、様々な細胞から成る生物個体の生命活動を概説します。
到達目標	1) 細胞の構造や機能に関する基礎的内容を知識として習得する。 2) 生物の生命活動を細胞・分子レベルで理解し、記述できる。 3) ヒトの生命活動で観察される様々な現象を生物学的視点から表現できる。
予習・復習	予習 次回の授業項目に該当する章を一読し、理解が難しい、あるいは疑問が残る点などを事前に把握できるように予習してください。 復習 授業の中で重要であると示した箇所は必ず復習し、理解が及ばなかった点については次の授業などで質問してください。 準備学習に必要な時間 毎授業、30分の予習と、40分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	和田勝(著). 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学(第4版). 羊土社.
参考文献	南雲保(編). やさしい基礎生物学 第2版. 羊土社. ※教科書が難しいと思った方向け B.Alberts他(著), 中村桂子他(監訳). Essential細胞生物学(第4版). 南江堂. ※教科書より詳しく学習したい方向け 池内昌彦, 伊藤元己(監修, 翻訳)(2013). キャンベル生物学(原書11版). 丸善出版. ※生物学全般についてほぼ全て網羅
評価の方法	期末試験 (80%) + 出席票における感想内容 (20%)
課題に対するフィードバック	課題はありませんが、複数回分まとめた復習用練習問題を出します。講義内で適宜、その解説を行います。
受講生へのメッセージ	最低開講人数：2人 (1) 講義15コマのうち7コマを遠隔授業とし、その他は対面で行う予定です。もし遠隔講義では学生の理解度が追いつかない場合、対面回数を増やす措置を行います。 (2) 教科書は生命科学を学ぶ上で定評があるものを選びました。患者さんにガンなどの病状を説明する際にも役立つはずです。 * 高校で専門科目「生物」を履修された方には、理解しやすい内容です。 * 「生物基礎」のみを履修した方でも、予習をしていれば十分理解できます。 (3) 第10-11回（第6章：シグナル伝達）は高校生物では習っていない内容がかなり多く、事前の用語理解が必要です。不明点があれば躊躇せずに質問してください。 (4) [アクティブラーニング型授業]および[双方向型授業のためのICT活用]は特に実行する予定はありません。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	ガイダンス イントロダクション	授業形態：対面 授業の概要、学習の仕方、試験について説明します。続いて、病気克服に貢献する画期的発見を挙げながら、生命科学の楽しさ・奥深さや基本的な概念（第1章）を紹介します。	斎藤 祐 見子
第2回	細胞－生命の基本単位 (1)	授業形態：対面 (第2章) 細胞を構成する物質について学びます。	斎藤 祐 見子
第3回	細胞－生命の基本単位 (2)	授業形態：遠隔 (第2章) 細胞内にある様々な細胞小器官について学びます。	斎藤 祐 見子
第4回	遺伝子としてのDNA	授業形態：遠隔 (第3章) DNAの本体とその役割について学びます。	斎藤 祐 見子
第5回	DNAからタンパク質 へ (1) 転写	授業形態：対面 (第3章) DNAがRNAへ転写される仕組みについて学びます。	斎藤 祐 見子
第6回	DNAからタンパク質 へ (2) 翻訳	授業形態：対面 (第3章) 前回の復習後、RNAからタンパク質合成へ進む仕組みについて学びます。	斎藤 祐 見子
第7回	細胞のエネルギー代謝	授業形態：遠隔 (第4章) 前回の復習後、細胞のエネルギー代謝について学びます。	斎藤 祐 見子
第8回	細胞活動とタンパク質 (1)	授業形態：遠隔 (第5章) 前回の復習後、細胞膜に埋め込まれたタンパク質について学びます。	斎藤 祐 見子
第9回	細胞活動とタンパク質 (2)	授業形態：遠隔 (第5章) 前回の復習後、細胞構造を支えるタンパク質について学びます。	斎藤 祐 見子
第10回	細胞間のシグナル伝達 (1)	授業形態：対面 (第6章) 細胞間の情報伝達について学びます。	斎藤 祐 見子
第11回	細胞間のシグナル伝達 (2)	授業形態：対面 (第6章) 前回の復習後、別のタイプの細胞間情報伝達について学びます。	斎藤 祐 見子
第12回	DNAの複製と修復機 構	授業形態：遠隔 (第7章) 前回の復習後、DNA複製と修復の制御機構を学びます。	斎藤 祐 見子
第13回	細胞周期とその調節	授業形態：遠隔 (第7章) 前回の復習後、細胞周期とその調節機構を学びます。	斎藤 祐 見子
第14回	生きること・死ぬこと	授業形態：対面 (第10章) 前回の復習後、細胞の再生と死について学びます。	斎藤 祐 見子
第15回	病気－ガンについて まとめ	授業形態：対面 (第10章) 日本人の死亡率1位であるガンについて学びます。最後に、これまでの講義の重要なポイントをまとめます。	斎藤 祐 見子

年度	2025
科目名	社会の構造と機能
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L108

担当教員

氏名
◎ 西村 太志

ディプロマポリシーとの関連性	3-1)
授業の概要	社会の構造や機能を理解するために、その最小単位である個々人の意識や態度というミクロな視点と、組織・集団の視点というマクロな視点の双方を持つことが必要です。そのため、この授業では、人間の集団、組織、社会など集団内や集団間に働くさまざまな力の作用・動態について検討する社会心理学の一分野である、グループダイナミックス（集団力学）の理論や概念的理解、その応用的理解をできることを目指します。特に社会心理学の諸研究の中でも集団における人間の行動に着目した内容を講義し、集団（組織、社会）で今後主体的・能動的に活動するために必要な知識や技術を身につけます。また、グループディスカッションや意見の交換を学生同士で行うことで、相互の立場や意見の客観的・理解をするスキルも身につけます。このことは、将来医療専門職者として必要とされる多職種連携の際にも必要となるスキルとなります。
到達目標	1) 社会の構造と機能について、ミクロな視点とマクロな視点の双方からとらえることができる 2) グループダイナミックスに関する知見、心理学的実験を知り、その手法や知見について多角的・理解を行なうことができる 3) 講義で扱った社会心理学、グループダイナミックスに関する知見を元に、多職種連携やチームの協働に就いての重要性と理解を深め、実践することができる。
予習・復習	予習 講義配付資料等を読んでくること。また、授業内で講義をしたり体験したりする内容と、現実の社会問題・社会課題との関連性を考察しておくこと。 復習 毎回、前回の授業内容の要約とコメントをレポートとして課す。 毎授業、90分の予習、90分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	なし
参考文献	谷口淳一・西村太志・相馬敏彦・金政祐司（編著）（2020）. 新版 エピソードでわかる社会心理学-恋愛・友人・家族関係から学ぶ- 北樹出版 池田謙一（2013）. 「新版 社会のイメージの心理学-ぼくらのリアリティはどう形成されるか（セレクション社会心理学）」. サイエンス社。 山口裕幸（2008）. 「チームワークの心理学-よりよい集団づくりをめざして」. サイエンス社。 他の参考文献について、講義時間内に適宜紹介する
評価の方法	グループ発表の内容（30%）、ディスカッションとゲームへの参加回数とその参加姿勢（30%）、レポート（40%）。 ※再試験は実施しません。
課題に対するフィードバック	分担発表、ディスカッションとゲームについて、毎回講義時間内に講評を与える。
	開講最低人数：5人 原則対面で行います。ただし、一部授業（第1回）はオンデマンドで実施します。 この授業は教員による講義だけでなく、受講生による分担発表とディスカッション、簡単なゲーミングによって展開します。し

受講生へのメッセージ	<p>たがって、発表やディスカッション、ゲーム参加への積極性が必要です。詳しくは初回授業にて説明します。分担の割り当ても決めますので、受講希望者は初回に必ず出席（オンデマンド視聴と課題提出）してください。</p> <p>オフィスアワー：授業終了後に教室、もしくは電子メールで質問を受け付ける。教員の連絡先は「初回」にお知らせします。</p> <p>実施の順序・詳細は、受講生数等に応じて変更することがあります。また実施形態について変更がある場合、LMSシステム等で周知します。</p> <p>授業内ではグループワークとして情報を共有し、資料を整理する課題を実施します。基本的に毎回タブレットまたはノートPC等の持参を前提に進めます。スマートフォンのみでは作業等が難しいこともあります。授業資料等もLMSシステム（googleクラスルーム）を用いて配布予定です。</p>
-------------------	--

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	ガイダンス	授業形態：オンデマンド 授業のねらい・目的、実施方法のスケジュールの説明 この授業を履修する上で重要な「社会の構造と機能」についての理解を深める。	西村 太志
第2回	集団実体性と集団凝集性（1）	授業形態：対面 「集団」の定義を集団実体性と集団凝集性の視点から理解し、自らが現実生活で属している集団の特徴を客観的に理解し、まとめる。	西村 太志
第3回	集団実体性と集団凝集性（2）	授業形態：対面 前週に実施した内容をまとめ、小グループ内で相互に発表し、グループワークを行いまどることで、集団についての捉え方各自の異同について理解する。	西村 太志
第4回	チーム作りに関するゲーム体験	授業形態：対面 「誰でもリーダーになれる」を実施し、グループとしての目標達成、リーダーシップの発揮について体験的に理解する。	西村 太志
第5回	信頼作り、判断の偏りについてのゲーム体験	授業形態：対面 「ミップウォー」を実施し、グループにおけるコミュニケーションや、思い込み・判断の偏りの影響を体験的に理解する。グループワークを実施する。	西村 太志
第6回	意思決定についてのゲーム体験	授業形態：対面 「サバイバル」を実施し、グループで何かを決める際の意思決定やコンセンサスを取ることの重要性を体験的に理解する。グループワークを実施する。	西村 太志
第7回	ゲーム体験を通した学びの整理	授業形態：対面 3つのゲーム体験を通して学んだリーダーシップやコンセンサス、コミュニケーションの齟齬などについて、医療分野における多職種連携で生じうる課題の可能性について各自整理する。	西村 太志
第8回	集団と人間関係についての理論的理義（1）	授業形態：対面 理論（社会的促進・抑制、集団規範、集団凝集性、同調、リーダーシップ、集団間葛藤、集団内葛藤、傍観者効果など）について、理論的視点から講義を行う。	西村 太志
第9回	集団と人間関係についての理論的理義（2）	授業形態：対面 集団に関する諸理論（社会的促進・抑制、集団規範、集団凝集性、同調、リーダーシップ、集団間葛藤、集団内葛藤、傍観者効果など）について、理論的視点から講義を行う。	西村 太志
第10回	集団と人間関係についてのエピソードの作成と相互理解（1）	授業形態：対面 各自が作成した集団と人間関係に関連する「エピソード」を小グループ内で各自が説明する。その上で、理論的背景を踏まえた発表を一つ選択肢、グループ発表できる素材に仕上げる。グループワークを実施する。	西村 太志
第11回	集団と人間関係についてのエピソードの作成と相互理解（2）	授業形態：対面 各グループで、グループワークを通して作成した集団と人間関係に関連する「エピソード」を、グループごとに受講者および教員に班ごとに説明する。その上で各グループの発表が理論的視座を踏まえて構成されているか、全体で議論する。グループワークを実施する。	西村 太志
第12回	歴史的心理学実験を通して、グループダイナミックスを学ぶ（1）	授業形態：対面 監獄実験の概要説明、英国BBC製作のVTRの視聴、看守役と囚人役に各自の立場を割り当てて、その行動や結果を議論。グループワークを実施する。	西村 太志
第13回	歴史的心理学実験を通して、グループダイナミックスを学ぶ（2）	授業形態：対面 監獄実験の概要説明、英国BBC製作のVTRの視聴、登場人物のいずれかに各自の立場を割り当てて、その行動や結果を議論。グループワークを実施する。	西村 太志
第14回	歴史的心理学実験を通して、グループダイナミックスを学ぶ（3）	授業形態：対面 監獄実験の概要説明、英国BBC製作のVTRの視聴、登場人物のいずれかに各自の立場を割り当てて、その行動や結果を議論。グループワークを実施する。	西村 太志
第15回	歴史的心理学実験を通して、グループダイナミックスを学ぶ（4）	授業形態：対面 監獄実験の概要説明、英国BBC製作のVTRの視聴、登場人物のいずれかに各自の立場を割り当てて、その行動や結果を議論。グループワークを実施する。	西村 太志

年度	2025
科目名	国際社会と平和
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	火曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L109

担当教員

氏名
◎ 片柳 真理
山根 達郎

ディプロマポリシーとの関連性	1-1)
授業の概要	国際社会とその一員である日本が現在直面している、平和に関わる諸問題を、多角的な視点から取り上げます。民族、文化、言語、宗教、生活習慣等の多様性のゆえに摩擦や対立が生じ、武力衝突に至ってしまった事例について、紛争と平和構築の現状を取り上げます。また、日本をとりまく国際社会の平和と安全の問題についても検討していきます。毎回、グループディスカッションを行います。
到達目標	国際社会と日本の現状をふまえ、受講生が自ら 1) なぜ対立や紛争が発生しているのかという原因を考えることができる 2) いかに「平和」を創り出すかという思考を養うことができる 3) 保健・医療従事者の立場で行う平和活動の意義を理解できる 4) 日本や広島が平和の創造に向けて果たすべき役割について考えることができる 5) 世界の問題を自らの問題としてとらえ、自分がどう行動すべきかを考えることができる ことを目標に、思考力を養います。
予習・復習	予習 前の授業で予習すべき内容が指示された場合は、予習して授業にのぞんでください。 復習 講義資料を毎回、配布します。テキストはありませんので、講義で資料に追加して話す内容は必ずノートに取って下さい。授業の内容を題材にレポート課題を出しますので、授業内容は復習しましょう。 毎授業、90分の予習、90分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	なし
参考文献	毎回の講義で適宜、指示します。
評価の方法	期末レポート（70%）、毎回のコメントシートと講義での積極性（30%）で評価する予定です。レポート内容は講義で指示します。科目責任者が評価を行います。
課題に対するフィードバック	提出されたコメントシートに関しては、必要に応じて、次回以降の講義で、傾向や問題点について細かくコメントし、理解の徹底を図ります。
受講生へのメッセージ	開講最低人数：10人 授業形式：原則として対面。オンデマンドもあります。 講義では、その背景や文脈を踏まえて具体的な事例を扱いながら学びます。知識を詰め込み記憶することが目的ではなく、いかに問題意識を磨くかに重点を置きます。講義での私語は慎んで下さい。なお、事情により講義の順番が入れ替わる場合があります。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	ガイダンス 「平和」とは何か？	授業形式：対面 講義の趣旨説明。「平和」とは何かを考える。	片柳 真理
第2回	平和に取り組む国際社会の多様なアクター	授業形式：対面 平和に関わる国際社会の多様なアクターについて学ぶ。	片柳 真理
第3回	紛争解決論の考え方	授業形式：対面 紛争とは何か、紛争解決とはなにかについて、国際紛争と日常生活での対立を対応させながら検討する。	掛江 朋子
第4回	紛争解決論の考え方	授業形式：対面 紛争解決論に基づき、紛争を解決するにはどのような考え方、アプローチが必要なのかを、議論をしながら検討する。	掛江 朋子
第5回	人道支援	授業形式：対面 人道危機とは何か、それに対して国際社会はどのような人道支援を行い、どのような支援システムを構築しているのか、まだどのような問題に直面しているのかを学ぶ。	片柳 真理
第6回	ジェノサイド	授業形式：対面 ルワンダの事例からジェノサイドについて学ぶ。	片柳 真理
第7回	ジェンダーと平和	授業形式：オンデマンド 国際秩序のあり方や日本・他国の社会・人権問題についてジェンダーの視点から学ぶ。	掛江 朋子
第8回	ジェンダーと平和	授業形式：オンデマンド 国際秩序のあり方や日本・他国の社会・人権問題についてジェンダーの視点から学ぶ。	掛江 朋子
第9回	世界の人権問題（1）	授業形式：対面 世界の人権問題と平和の関係を考察する。貧困、難民問題、紛争中の女性に対する性暴力など、様々な例を学ぶ。	片柳 真理
第10回	世界の人権問題（2）	授業形式：対面 世界の人権問題と平和の関係を考察する。貧困、難民問題、紛争中の女性に対する性暴力など、様々な例を学ぶ。	片柳 真理
第11回	紛争を生きる	授業形式：対面 紛争に巻き込まれた人々が抱える問題が紛争後にどう影響し続けるかを学ぶ。	掛江 朋子
第12回	紛争を生きる	授業形式：対面 紛争に巻き込まれた人々が抱える問題が紛争後にどう影響し続けるかを学ぶ。	掛江 朋子
第13回	広島の原爆体験と復興（1）	授業形式：対面 広島の原爆体験と復興について平和構築の観点から学ぶ。	片柳 真理
第14回	広島の原爆体験と復興（2）	授業形式：対面 広島の原爆体験と復興について平和構築の観点から学ぶ。また、以前の授業の内容の一部を振り返る。	片柳 真理
第15回	国際社会の平和と個人	授業形式：対面 国際社会が平和であるためには、個人個人がどのように在り、行動すべきかを考える。	掛江 朋子

年度	2025
科目名	文章表現法F
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L110

担当教員

氏名
◎ 矢野 博史

ディプロマポリシーとの関連性	2-1),5-1)
授業の概要	この授業では、さまざまな演習を通じて文章表現のための基礎的な技術を身につけます。加えて、他者に伝えるために「自分の考え方や思いを表現する」ことを通して、物事をより深く考え、理解しようとする姿勢を身につけることも目標としています。
到達目標	1)人に伝える文章を書くためのポイントについて理解する。 2)文章作成の基本的なルール・形式に従って文章を作成することができる。
予習・復習	時間内に終えた課題も原則として翌日に提出します。家に持ち帰り、授業を振り返りながら読み返して修正を加えて提出してください(所要時間90分)。課題文の作成などが授業時間内に終わらない場合は、その都度、延長した提出期限を設定します。毎時間、次回の内容について事前に詳細をお知らせしますので、配布した資料等を読んでから講義に臨んでください(所要時間90分)。 また、文章表現に関する書籍は以下の欄に参考文献として提示したもの以外にも図書館に多数ありますので、それらを活用して学習を深めるようにこころがけてください。
アクティブラーニング型授業の有無	有(グループワークとその成果発表、ピアレビュー)
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	毎時間、教員がプリント等で準備します。
参考文献	①井下千以子(2013). 思考を鍛えるレポート・論文作成法(第2版). 慶應義塾大学出版会. ②三森ゆりか(2013). 大学生・社会人のための言語技術トレーニング. 大修館書店.
評価の方法	課題作文(40%)、4回目以降の授業で作成し提出した文章(30%)、授業時に行った発表のピアレビュー結果(10%)、発言等を通じた授業への参加(20%)を総合して評価します。
課題に対するフィードバック	各回の授業時に作成する課題はピア・レビューを基本とします。 最終回に提出する課題作文についてはコメントをつけて返却します。
受講生へのメッセージ	この科目的開講最低人数は3名です。 この科目はすべて対面で行います。 この授業は「作文教室」ではありません。情報の収集と整理、アイディアの発想、説明と論証などの、レポートの作成に必要な力をピア・エデュケーション(学生同士の教え合い・学び合い)によって育成することを目指していきます。積極的な授業参加を期待しています。 出欠は毎回の講義時に確認します。 オフィスアワー:授業終了後30分間、講義内容に関する質問等を研究室9で受け付けます。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	文章表現に必要なもの	文章表現に必要なものは何かを考えながら、この授業のアウトラインを把握します。	矢野 博史

第2回	情報整理法トレーニング	「読む」以外の新聞の「使い方」を個人で考えます。 グループでそのアイディアを共有し、整理し、発表します。 整理のポイントは講義時にお伝えします。	矢野 博史
第3回	文章表現演習① 自分史の作成	文章表現の基本的なルールについて学びます。 そのルールにしたがって自分の歴史（自分史）を作成します。 作成した文章の提出は2週間後です。	矢野 博史
第4回	文章表現演習② 説明文の作成	各国の「国旗」の図柄を説明するための文章を作成します。 作成した説明文をパートナーと交換し、それをもとに「国旗」を描きます。 説明文についての評価を相互に行います。	矢野 博史
第5回	文章表現演習③ 再話トレーニング	絵本のストーリーを文字だけに置き換えて表現します。 授業時間内に作成して提出します。	矢野 博史
第6回	文章表現演習④ 物語の作成	一枚の絵からストーリーを作り出し文章で表現します。 ストーリーの作成はグループで行い、発表します。	矢野 博史
第7回	要約力トレーニング① ニュース映像の要約	ニュース映像を見て要約文を作成します。 グループで、要約文の相互評価を行います。 課題：次の時間までにグループで要約文を一つにまとめ、発表用の資料を作成します。	矢野 博史
第8回	要約力トレーニング② 要約文のピアレビュー	作成した資料をもとに要約文をグループで発表します。	矢野 博史
第9回	要約力トレーニング③ 論説文の要約	配布された論説文の要約を作成します。 課題：論説文が扱うテーマに対し、根拠に基づいて自分の意見を加えます。	矢野 博史
第10回	構成力トレーニング① プレゼンテーション演習（作成編）	商品紹介プレゼンテーション（作成編） 人に伝えるための企画・構成について考えながら、100円ショップの商品を紹介するプレゼンテーションをグループで準備します。 事前準備：紹介する商品を100円ショップで探します。	矢野 博史
第11回	構成力トレーニング② プレゼンテーション演習（発表編）	商品紹介プレゼンテーション（発表編） 各グループで準備したプレゼンテーションを行います。	矢野 博史
第12回	論文の作法① 執筆要領の理解	論文執筆のルールを学びます。	矢野 博史
第13回	文章表現演習⑤ パラグラフライティング	課題に関する主題文を作成します。	矢野 博史
第14回	文章表現演習⑥ SCQを使った「序論」の作成	主題文をもとに課題作文を作成します。	矢野 博史
第15回	課題作文の評価	課題作文について、ピア・レビューを行います。	矢野 博史

年度	2025
科目名	文章表現法S
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L110

担当教員

氏名
◎ 丸山 愛子

ディプロマポリシーとの関連性	2-1), 5-1)
授業の概要	<p>様々な種類の文章表現（レポートの書き方、論文の書き方、メール・手紙・挨拶状の書き方、詩・回想文の書き方、看護記録の書き方など）について学びます。</p> <p>それぞれの文章表現に関する基礎的な技術の獲得を目指します。</p> <p>「自分の考えや思いを表現する」ことを通して、物事をより深く観察して把握・理解しようとする姿勢を身につけることを目標とします。</p> <p>多種多様な文章に触れて、それぞれのもつ特性と意義について分析しましょう。</p> <p>「文章で表現する・伝達する」ことによる利点を、多角的に検討します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポートや論文作成の際に不可欠なルールを知り、文章表現の際にそれらの知識を活用する。 2) 口頭表現と文章表現の違いについて理解し、適切な文章を作成する。 3) 自分の文章作成の速度や癖を把握・分析し、適切な対応・見直しを行う。 4) 一般的な文章表現と看護における文章表現の違いを理解する。
予習・復習	<p>毎回の授業のために、予習と復習（合計180分以上）を求めます。</p> <p>授業内容に対応する教科書を事前に読み、疑問等予め調べるなどして参加してください。</p> <p>疑問に関して解決していない場合は、授業内で質問してください。</p>
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	白井利明, 高橋一郎(2013). よくわかる 卒論の書き方 第2版. ミネルヴァ書房.
参考文献	随時紹介します。
評価の方法	<p>中間課題（第8回目を参照）と最終課題（第15回目を参照）（70%）、小テスト（20%）、ペア・ワークやグループワークへの積極的な参加（10%）によって総合的に評価を行います。</p> <p>グループワークへの参加や態度については、机間巡視と議論カード（討議によって学んだことや疑問を記入するカード）、授業で実施した成果物によって、総合的に評価を行います。</p> <p>次回の授業において、前回のコメントカードや課題における特徴的な見解や誤解について可能な限りコメントします。</p>
課題に対するフィードバック	<p>授業内で適宜質疑応答を受けつけ、すぐに回答します。</p> <p>課題、発表、授業へのコメントカード（学生が授業後に毎回提出するもの）に関しては、対応が必要な内容と質問には、内容に応じて以下2つの方法でフィードバックを行います。</p> <p>①個人に直接返答・コメント（Google Classroomあるいはgmailを使用）</p> <p>②課題やコメントカードの動向や重要な質問内容に関しては、次の講義で全体に紹介・解説、情報共有して学びにつなげます。</p> <p>注意点：課題の提出は、必ず期日を厳守しましょう。期日を過ぎると、減点対象です。</p>
	<p>開講最低人数：4名</p> <p>開講授業形態：14コマは対面、1コマはオンデマンド（視聴期間1週間）</p> <p>必要時、遠隔授業変更について迅速にGoogle Classroomから連絡します。</p> <p>授業の欠欠確認：①Google classroomに準備したフォルダに各授業内容の感想・要望・疑問・</p>

受講生へのメッセージ	<p>調べたくなった内容(復習時間としてカウント可能)への期限内の記載</p> <p>②授業内でいろいろな方法で出欠確認を実施</p>	
	授業内容	：アクティブラーニング型授業（課題発表、ペア・ワーク、グループ・ワーク、KJ法、ジグソー学習法等）、双方向型授業のためのICT活用（意見交換等）を実施
オフィスアワー：授業直後の10分間、授業実施日あるいは次の日の12:20～12:50、その他		場所は研究室12にて対応（am11116@jrchn.ac.jpから時間を予約できます）
<p>自分の書いた文章を意識的に分析したことはありますか？文章を書くのが苦手な人向けの授業です。この授業では、様々な文章のルールや文章表現の基礎的知識を学習します。</p> <p>スマールステップによる訓練を通して文章を書くノウハウや社会人マナーを身につけましょう。</p> <p>自分と仲間の表現方法の違いを分析しつつ、互いの文章表現のスキルを高め合いましょう。</p>		
<p>15コマすべての授業が終了したら、「授業評価アンケート」にご回答ください。</p> <p>皆さんのご意見が授業改善につながりますので、ご協力ををお願いいたします。</p>		

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	オリエンテーション 文章表現および伝達の意義 自己紹介	<p>授業形態：対面</p> <p>講義概要の説明</p> <p>文章表現に必要なこととは、伝達の意義</p> <p>自分の文章を書くスキル分析「1分で、5分で何文字書けるでしょうか」</p> <p>自己紹介文の作成と自己紹介の意義、自己紹介文と口頭での自己紹介の違い</p> <p>予習：自己紹介の内容を考えましょう</p>	丸山 愛子
第2回	情報の伝達、他者が理解しやすい文章とは ゲームから学ぶ 「その説明で相手は国旗を正確に描けるかな？」 口頭表現と書き言葉としての文章表現の違い	<p>授業形態：対面</p> <p>伝達方法と情報量の関係、正確な表現と曖昧な表現、口頭表現と文章表現</p> <p>グループワーク（ペアワーク）：国旗の図柄を説明し（口頭と文章とで）、相手に国旗を正確に描いてもらおう</p> <p>予習：「他者に理解してもらいたい文章とは？」について考えましょう</p> <p>復習：授業内容に対応する教科書の範囲（I (p.16～p.22)）を読むを熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第3回	様々な文章表現 メモのとり方、ノートのとり方 パソコンを使いこなすスキル 情報伝達のノウハウ 地図案内	<p>授業形態：対面</p> <p>文章表現の形態とその特徴</p> <p>メモのとり方、ノートのとり方、パソコンを使いこなす</p> <p>グループワーク（ペアワーク）：地図案内、情報を知らない人に正確にどう伝えるか？</p> <p>予習：上手なメモ…ノートのとり方を考えてましょう</p> <p>復習：教科書（IVパソコンの使いこなし方(p.70～p.79)）の熟読</p>	丸山 愛子
第4回	アカデミックライティングとは 情報をまとめる・要約するスキル 本の要約作り 情報伝達のノウハウ 地図案内	<p>授業形態：対面</p> <p>好きな本の要約を作って紹介し合おう、要約する際の注意点</p> <p>グループワーク（ペアワーク）：自分の好きな本の紹介</p> <p>情報の調べ方・整理の仕方</p> <p>意見の出し方、議論の仕方</p> <p>予習：好きな本を可能なら持参しましょう、本の要約の準備</p> <p>復習：授業内容に対応する教科書の範囲（IVパソコンの使いこなし方(p.80～p.86)）を熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第5回	メールや手紙の書き方 敬語の使い方 看護の際の伝え方	<p>授業形態：対面</p> <p>メールや手紙を書くために必要な基礎知識・社会常識を知ろう</p> <p>敬語の使い方、間違った敬語</p> <p>看護におけるコミュニケーション</p> <p>メールと手紙の違い・それぞれの長所と短所</p> <p>予習：メールと手紙の違いを分析しよう</p> <p>復習：教科書（IIIレポーターの仕方(p.36～p.37)）の熟読</p> <p>授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第6回	批判的に読むとは 自分史とは、自分史の歴史 「自分史」を作成してみよう	<p>授業形態：対面</p> <p>II.ゼミでの学び方、批判的に読むとは(p.24～p.34)</p> <p>自分史とは？、「自分史」を書いてみよう、資料の集め方</p> <p>予習：「自分史」作りのための資料収集、想い出に残るエピソードの列挙 「自分史」を書く際に必要不可欠な要素とは？</p> <p>復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子

第7回	<p>研究の進め方 課題解決法、発想法 課題設定、テーマを選択する基準 アカデミックライティング 文献の集め方とその表記(ルールの学習) レポートと論文の違い</p> <p>授業形態：オンデマンド（視聴期間1週間） V 文献の集め方(p.88～p.109) VI 研究の進め方(p.110～p.128) 議論：問題と課題の違い、テーマの選択 グループワーク：発想法を巧みに使ってみよう 課題解決法（発想法）、レポートを作成する前段階</p> <p>予習：レポートを書くならどんなテーマで書きたいか考えてきましょう（理由含む） 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第8回	<p>アカデミックライティング レポートや論文の書き方（ルール、文章構成） 原稿用紙の使い方 研究倫理とは</p> <p>授業形態：対面 レポートや論文の骨格作り、文章の構成を分析しよう I 卒論とは何か（教科書） 研究倫理を知りレポート・論文作成に生かそう（引用文献、資料からの抜粋） 【中間課題の提出】：「自分史」（〆切期限はこの週の金曜日17時）</p> <p>予習：レポートと卒論の違いについて考えてきましょう 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第9回	<p>アカデミックライティング レポートや論文の書き方（ルールの学習、文章構成） 資料から文章を抜粋する</p> <p>授業形態：対面 論文を読んでルールを発見しよう、レポートや論文作成のテクニック III 論文のきまり(p.48～p.59)、文章をどのように抜粋するか、孫引きとは 予習：興味のある論文を最低2つ選んで印刷したものを持参 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第10回	<p>アカデミックライティング 文章をらくに書くための文章構成のスキル</p> <p>授業形態：対面 「だろうか・たし・なよ」・「3W1H」の法則で書いてみましょう 共通課題のテーマを考えましょう グループワーク：わかりやすいいまわしと論理的な表現探し</p> <p>予習：これまで集めた文献の収集方法を分類し、課題のテーマは何がいいか考えてきましょう 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第11回	<p>年賀状の書き方、令状の書き方 レポートのスキルとルール</p> <p>授業形態：対面 年長者に・友だちに年賀状を書いてみましょう VII 卒論の書き進め方（教科書）</p> <p>予習：レポート添削で重要なことを調べてきましょう 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第12回	<p>アカデミックライティング 論理的な文章、事実と意見を書き分けよう 修辞技法(擬人法など)、句読点の重要性</p> <p>授業形態：対面 III 論文のきまり 事実と意見の分け方、論理的に書くには(p.60～p.69) 修辞技法(擬人法など)、句読点の重要性 興味のある論文から論文のルールを探しましょう</p>	丸山 愛子
第13回	<p>レポートと論文の書き方のコツ 話し言葉と書き言葉の違い</p> <p>授業形態：対面 VIII 研究の方法(p.130～p.149) レポートをまとめるまでの手順とスキル</p> <p>予習：話し言葉と書き言葉の違いをみつけ、テーマに関する資料収集と整理・構成を考えましょう 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第14回	<p>看護における文章表現 一般の表現と看護の表現の違いとその理由</p> <p>授業形態：対面 「看護」における「表現」 看護記録での使用を避けたい表現 予習：看護にはどんな表現があり、看護記録で気を付ける表現とはどんな表現かを考えましょう 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、疑問をみつけ調べましょう</p>	丸山 愛子
第15回	<p>看護における文章表現 看護記録を書く際の注意点 総まとめ</p> <p>授業形態：対面 看護における文章表現 総まとめ 復習：授業内容に対応する教科書の範囲を再度熟読し、新たな疑問みつけ調べましょう 最終課題：規定課題（テーマは全員で決める）と自由課題を作成します 最終課題の提出日は授業内で伝達します</p>	丸山 愛子

年度	2025
科目名	瀬戸内の文化と歴史
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	火曜日
代表時間	1 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L113

担当教員

氏名
◎ 秋山 伸隆

ディプロマポリシーとの関連性	2-1)
授業の概要	世界文化遺産「厳島神社」を中心とした宮島に関する研究成果を概観し、地域社会の歴史的特性を学修します。
到達目標	厳島神社を中心とした瀬戸内の文化や歴史について理解し、説明することができる。
予習・復習	<p>予習 各回の講義にあたっては、事前にレジュメを配布するので、その内容をしっかり理解して講義に臨んでください。 (所要時間45分)</p> <p>復習 各回の講義終了後に提出するコメントは、電子掲示板を用いて受講生全員で共有します。他の受講生のコメントを読むとともに、それに対する自分の意見や感想を電子掲示板に付記してください。 (60分)</p> <p>準備学習に必要な時間 上記、「予習」、「復習」欄に記載の通りです。</p>
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	講義時にレジュメを配布します。
参考文献	<p>①河合正治 (1967) .瀬戸内海の歴史.至文堂.</p> <p>②松岡久人 (1986) .安芸厳島社.法藏館.</p> <p>③県立広島大学宮島学センター (2014) .宮島学.渓水社.</p>
評価の方法	期末試験60% 講義時間における課題発表（個人・グループ）10% 毎回のコメントシート10% フィールドワークのレポート20%
課題に対するフィードバック	課題発表の内容に関しては、授業時間内に受講生で共有し、コメントする。
受講生へのメッセージ	<p>開講最低人数:5人</p> <p>全て対面授業で行います。第4回は宮島でのフィールドワーク（土日）を実施します。事前に調査学修し、現地で実際に見て興味・関心をさらに深めたことをレポートにまとめてください。</p> <p>授業中にはペアワークを行うので、その成果を積極的に発表してください。</p>

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	瀬戸内地域の歴史	古代から近代までの瀬戸内地域の歴史的展開について概観します。	秋山 伸隆

第2回	厳島神社の歴史	日本人の信仰の歴史と厳島神社の位置付けについて考察します。宗教儀礼と意識されることなく慣習化している儀礼・行事について、ディスカッションしましょう。	秋山 伸隆
第3回	宮島の発展と廿日市	宮島と対岸の廿日市が、相互補完的な関係を保ちながら発展してきたことを考察します。	秋山 伸隆
第4回	世界文化遺産としての厳島神社と宮島	宮島でのフィールドワーク（日程など詳細については、第1回の授業で説明します）。見たいポイントを事前に調査学修し、実際に見て興味・関心をさらに深めたことをレポートにまとめて提出してください。	秋山 伸隆
第5回	宮島の町の形成と発展	宮島の町がどのように形成され、発展してきたのか、家・仮屋・店などを中心に考察します。	秋山 伸隆
第6回	文化財の保存と継承	世界文化遺産として宮島は、地域の人々によって支えられてきたことを、大鳥居を例として考察します。	秋山 伸隆
第7回	戦争と宮島1－厳島合戦－	毛利元就が陶晴賢を破った厳島合戦はなぜこの島で起こったのか、瀬戸内の歴史との関連で考察します。	秋山 伸隆
第8回	戦争と宮島2－原爆と枕崎台風－	近代以降の戦争と宮島のかかわり、特に原爆と枕崎台風が宮島にもたらした被害と復旧について考察します。	秋山 伸隆

年度	2025
科目名	環境共生論（環境と人間の相互関係）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修／選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L114

担当教員

氏名
◎ 岡 浩平

ディプロマポリシーとの関連性	2-1)
授業の概要	環境を取り巻く諸問題やそれに対応する社会的動向を学修します。
到達目標	これからの生活の中で共生の必要性について理解し、説明することができる。
予習・復習	<p>予習 各回の講義にあたっては、事前にレジュメを配布するので、その内容をしっかり理解して講義に臨んでください。（所要時間45分）</p> <p>復習 各回の講義終了後に提出するコメントは、電子掲示板を用いて受講生全員で共有します。他の受講生のコメントを読むとともに、それに対する自分の意見や感想を電子掲示板に付記してください。（60分）</p>
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	講義時にレジュメを配布します。
参考文献	特になし
評価の方法	レポート100%
課題に対するフィードバック	レポートの内容に関しては、授業時間内に受講生で共有し、コメントします。
受講生へのメッセージ	開講最低人数：5人 全て対面授業で行います。 オフィスアワー：授業終了後、講義室で受け付けます。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	ガイダンス 一環境とは、共生とは	環境とは何か、今なぜ「共生」なのかについて、SDGsと関連付けて基本的な考え方を学びます。	岡 浩平
第2回	人と自然の共生	雑木林や田んぼの事例を通して、人と自然が共生し、自然の恵みを活かしてきた歴史を学びます。	岡 浩平
第3回	生き物どうしの共生	生き物どうしの巧みな共生関係から人間社会への応用を考察します。	岡 浩平
第4回	私たちの暮らす身近な環境を考える	災害やフードロス、ゴミなどの事例を通して、私たちの暮らしに密接にかかわる身近な環境について学びます。	岡 浩平
第5回	私たちの暮らす地球環境を考える	地球温暖化などの事例を通して、私たちの暮らしと地球の環境とどのようにつながっているのか想像します。	岡 浩平

第6回	環境問題と倫理の関係	絶滅危惧種でもあるクマなどの鳥獣被害の事例を通して、野生生物の生命倫理について考えます。	岡 浩平
第7回	環境と共生する地域社会	地域の環境特性を活かした豊かな地域社会の構築について学びます。	岡 浩平
第8回	持続可能な社会の将来像とは	環境共生という考え方から見通す持続可能な社会の未来像（SDGs）について考察します。	岡 浩平

年度	2025
科目名	イギリス語学短期留学(English Study Abroad)
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	60.0
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L116

担当教員

氏名
◎ Simon G.Capper

ディプロマポリシーとの関連性	2-1)
授業の概要	This course prepares students for the English Study Abroad Programme, a two- or three week university-based language learning experience in an English-speaking country. Learners research various aspects of the UK, while planning their visit and developing their communication skills. They also experience a homestay with a local family and cultural excursions. Students must complete the pre-departure course AND the study programme in the UK to obtain credits. (It is not possible to take part in class-based course only).
到達目標	On completion of this course, students should be 1) familiar with various aspects of UK culture, and the city of Canterbury. 2) ready to deal with any linguistic or practical difficulties that may arise in travel, study abroad, homestay or with regard to personal safety. 3) able to explain a wide variety of topics related to Japanese culture and everyday life.
予習・復習	In addition to homework (approximately 1 hour per week) you should spend at least 30 minutes a week revising the vocabulary and information presented in the previous class.
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	Capper S (2021). This Is Japan. National Geographic Learning - Cengage
参考文献	Supplementary materials will be provided by the teacher.
評価の方法	1. Active learning in class (30%) 2. Homework assignments and class preparation (30%) 3. Small tests and quizzes (40%)
課題に対するフィードバック	Visual and oral feedback on the homework tasks will be provided at the beginning of each class or in the course of subsequent classroom activities.
受講生へのメッセージ	All classes will be held face-to-face. Participants will need to engage in active learning to research various topics online. The more you research and prepare for this experience, the more you will benefit from it. Don't waste this once-in-a-lifetime chance. This course will be cancelled if fewer than ten students register for the course. Office hours: I am available any time between 9:00 a.m. and 6:00 p.m. when I don't have classes or meetings.

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	A general orientation to the Canterbury programme and life in England.	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper

第2回	Fluency building, talking about your hometown	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第3回	Application forms and CCCU Campus Orientation. Fluency building, talking about Japanese food	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第4回	Application forms and CCCU Campus Orientation. Fluency building, talking about Japanese houses	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第5回	London and other areas of interest. Fluency building, the Japanese language	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第6回	Explaining your culture and lifestyle (review) Fluency building, explaining Japanese things	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第7回	Explaining your culture and lifestyle (review) Fluency building, Japanese manners and etiquette	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第8回	Practical matters: Planning and preparing for the trip. Fluency building, special days and events	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第9回	UK culture, character and lifestyle. Fluency building, talking about school and university life	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第10回	Secrets of a successful homestay. Fluency building, talking about famous people	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第11回	City of Canterbury, CCCU orientation. Fluency building, talking about temples and shrines	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第12回	Safety awareness and problem solving. Fluency building, talking about invisible culture (values)	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz..	Simon G.Capper
第13回	Classroom culture in England and Japan Fluency building, talking about invisible culture (values)	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第14回	Culture shock: causes and solutions.	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research. After this class, participants are expected to review the materials used, and continue to research aspects of British culture for completion of an extensive UK Quiz.	Simon G.Capper
第15回	Review & Final quiz	This class will be carried out in small group & pairwork conversation and discussion activities, and self-directed research.	Simon G.Capper

年度	2025
科目名	言語学習スキル(Language Learning Skills)
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	木曜日
代表時間	2 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	L117

担当教員

氏名	
◎ Martyn John McGettigan	

ディプロマポリシーとの関連性	2-1)
授業の概要	This course helps students to develop their language learning ability. Students will learn the basic language learning skills necessary to be able to learn language autonomously. This will involve goal setting and self-assessment, vocabulary development, use of technology for language learning, the development of a growth mindset, and reflective language learning. Students taking this course need to have a genuinely positive, motivated attitude towards learning English, and will need to demonstrate active learning, both in and outside the classroom. Unless otherwise instructed, this course will be carried out face-to-face.
到達目標	On completion of the course, students will be able to: • critically reflect on, and make informed decisions about their approach to language learning • plan and carry out realistic, achievable learning goals • source and utilise appropriate materials to better support their independent, autonomous language learning.
予習・復習	In addition to homework, you should spend at least 20 minutes a week familiarizing yourself with the activities of the next class. You should also aim to spend at least 2 hours a week reviewing the previous class and using English outside class (reading English, listening to podcasts, and using apps and language learning websites).
アクティブ・ラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	有
必須文献	No text required.
参考文献	—
評価の方法	Grades will be awarded according to: (i) evidence of learners' active learning outside class (15%) (ii) inclass presentations (20%) (iii) satisfactory completion of 8 homework assignments (40%) (iv) active participation in class (20%) (v) final self-evaluation (10%)
課題に対するフィードバック	Visual and oral feedback on the homework tasks will be provided at the beginning of each class or in the course of subsequent classroom activities.
受講生へのメッセージ	Learning a language takes a lot of time, effort, thought and practice, but you can succeed if you create an English-rich environment and make the effort to actively engage with the language. All classes will be held face-to-face. Active Learning: You will be expected to actively prepare for each class according to guidance given in the previous class. ICT: You will use devices to access online resources in all classes. In addition to your phone, feel free to bring whatever device you prefer to access the internet (tablet, notebook PC, etc.) Office hours: I am only at the university on Thursday mornings, but I will give you my email address in the first class and can be contacted any time.

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	Introduction to the course: autonomous, self-directed and active learning.	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第2回	Extensive listening with podcasts	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第3回	Vocabulary development, pronunciation, speed reading	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第4回	The habits of good (language) learners; goal-setting	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第5回	Extensive listening with podcasts – presentation	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第6回	Responsible use of AI; computer assisted language learning	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第7回	Self-evaluation; computer assisted language learning	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第8回	Learning a language with songs	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第9回	Responsible use of AI; computer assisted language learning - presentation	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第10回	Language learning with apps	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第11回	Vocabulary development, word-building	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第12回	Learning a language with games	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第13回	Language learning with apps – presentation	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第14回	Self-evaluation – reflecting on the course	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment. Preview the activities, vocabulary and listen to/watch the audio for the next topic.	新任教員 (非常勤講師)
第15回	Self-evaluation – presentation	Small group and pair speaking activities. After the class: review this unit and complete the homework assignment.	新任教員 (非常勤講師)

年度	2025
科目名	体育（健康と活動の理論と実践）A
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	2.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
講義開講時期	前期
配当年次	1
配当セメスター	01
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	S103

担当教員

氏名
◎ 森河 亮

ディプロマポリシーとの関連性	3-1
授業の概要	健康の保持・増進、疾病予防のための生涯スポーツの必要性を学習し、実際のスポーツ実践を通じて、自己の健康管理ができる基礎能力を養います。健康の保持・増進、疾病予防のための活動に関する科学的知識を学習し、具体的に日常生活に取り入れる方法を考察します。そこから健康管理に対する理論的根拠に立った態度を養います。ただし、健康は運動の実践のみで保持増進できるものではないことから、生活習慣と理想体重の維持についての学習も行います。
到達目標	1) 本科目で扱う健康に関する用語を理解し、説明できるようになる。 2) 授業計画に示す各回の要点を、他の人に説明できるようになる。
予習・復習	予習 各講義の終わりに、次回の講義内容に関する発問を行います。それを自身で調べておいてください。 復習 講義内容を自身で要約し、それを配布された講義資料を見ずに他者に説明を試みることを通して復習をしてください。 講義内容を復習して、実際の日常生活で健康の保持・増進を実践し、本講義に遅刻・欠席せずに出席してください。 準備学習に必要な時間 第11回～第15回の実習を除き、毎授業、90分の予習、90分の復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	有
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	なし
参考文献	加藤邦彦(1995). スポーツは体にわるい. 光文社. 大野秀樹(2004). 百寿者になろう 運動・栄養・休養のトライアングル. NAP. 周東寛(2001). 生活環境病. 史輝出版.
評価の方法	期末試験90% 運動処方の実践に関するレポート10% 実践の内容は、自身の体を使っての運動実践を通して学習します。そのため、学習への取り組み態度が悪い場合や欠席した場合は減点の対象とします。
課題に対するフィードバック	期末試験およびレポートの内容に関する評価やフィードバックが必要な方は、その旨の連絡をしてください。メールにて対応します。
受講生へのメッセージ	開講最低人数：12人 15回のすべての授業を対面で行います。 講義を中心に授業を展開します。第11回～第15回では、実際に体を動かしますので、運動ができる服装と体育館シューズが必要になります。 なお、第11回～第15回の実践では、学籍番号によって実施する曜日時限が異なります。間違えないように注意してください。 また、実践の回は受講生の人数によって授業内容を変更することがあります。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	(講義) 授業概要の解説	ガイダンス：健康とは何か、健康を維持しにくい社会である日本の現状について学習します。	森河 亮
第2回	(講義) 生活習慣病	日本人の死因の約6割を占める生活習慣病について学習します。	森河 亮
第3回	(講義) 肥満・ダイエットと健康	肥満とは何か？正しいダイエットとは何か？について学習します。	森河 亮
第4回	(講義) スポーツ科学の基礎Ⅰ	運動強度によるエネルギー供給過程の違い、骨格筋の特徴について学習します。	森河 亮
第5回	(講義) スポーツ科学の基礎Ⅱ	スポーツと栄養、老化とスポーツについて学習します。	森河 亮
第6回	(講義) スポーツが体に及ぼす悪・好影響Ⅰ	運動の悪影響について考えます。	森河 亮
第7回	(講義) スポーツが体に及ぼす悪・好影響Ⅱ	活性酸素とは何か、その運動との関係は何か？について学習します。	森河 亮
第8回	(講義) スポーツが体に及ぼす悪・好影響Ⅲ	運動が循環器、骨、呼吸器などにもたらす効用について学習します。	森河 亮
第9回	(講義) スポーツが体に及ぼす悪・好影響Ⅳ	運動が自律神経系、ホルモン系、免疫、抗酸化機構などにもたらす効用について学習します。	森河 亮
第10回	(講義) 運動処方	健康維持・増進のための運動内容について学習します。	森河 亮
第11回	(実習) 運動処方の実践	実践した運動の消費カロリーを計算します。	森河 亮
第12回	(実習) 生涯スポーツを目指した運動実践①	自分に適したスポーツ種目を考えます。のためにネット型スポーツを実践します。	森河 亮
第13回	(実習) 生涯スポーツを目指した運動実践②	自分に適したスポーツ種目を考えます。のためにネット型スポーツを実践します。	森河 亮
第14回	(実習) 生涯スポーツを目指した運動実践③	自分に適したスポーツ種目を考えます。のために混合型スポーツを実践します。	森河 亮
第15回	(実習) 生涯スポーツを目指した運動実践④	自分に適したスポーツ種目を考えます。のために混合型スポーツを実践します。	森河 亮

年度	2025
科目名	情報科学Ⅰ（基礎）
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	30.0
代表曜日	火曜日
代表時間	4 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	S111

担当教員

氏名
◎ 益岡 都萌

ディプロマポリシーとの関連性	2-1),5-1)
授業の概要	データに関連する分野（数理・データサイエンス）を学習する上で基礎となるデータの要約の仕方、不確定な事象の記述、データ生成の仕組み、プログラミングなどについて、主に統計ソフトRを用いながらコンピュータ演習を通して学習します
到達目標	<p>1) データの特性を表現する適切なグラフを描くことができる。</p> <p>2) 記述統計量（平均、標準偏差など）が計算できる。</p> <p>3) 回帰直線を描くことができる。</p> <p>4) 母集団分布・標本分布の性質を理解し、確率計算ができる。</p> <p>5) 期待値と分散の意味が理解できる。</p>
予習・復習	<p>・予習（2回目以降）ために、授業の中に、関連する資料（配布プリント等）や参考文献等について指示しますので読んでください。</p> <p>毎回、復習のために演習問題を出すので、次回までにやっておいてください。</p> <p>毎授業、15分の予習、30分の復習を求めます。</p> <p>積み重ねの学習になるため休まず出席することが重要です。</p>
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	指定なし。 授業内で適宜資料を配布します。
参考文献	①赤間世紀(2013). 「R」ではじめる統計. 工学社. ②小関祐二(2012). 大学生のための基礎情報処理. 共立出版.
評価の方法	参加意欲（授業で作成したファイル）30%、試験 70% 科目責任者が評価を行う。
課題に対するフィードバック	演習問題等で解答例が必要なものは配布・配信します。 試験については総評を配信します。
受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 授業は情報処理室で行います。開講最低人数は10人です。 確率・統計を苦手とする学生は受講することを勧めます。「統計学」（2年必修・講義）を理解する助けになるはずです。 パソコンの操作に慣れる機会になるとと思います。 パソコンをすぐ使える状態に準備しておいてください。 授業評価アンケートへのご協力をお願いします。 オフィスアワー：金曜日の12：20～13：20（研究室）または授業終了後、情報処理室・研究室で30分間受け付けます。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
---	-------	----	------

第1回	データの表現	コンピュータ演習の準備、作業環境の設定、データの読み込みや保存について	益岡 都萌
第2回	アルゴリズムとプログラミング（1）	変数と関数について	益岡 都萌
第3回	アルゴリズムとプログラミング（2）	行列の作成、要素の抽出等について	益岡 都萌
第4回	アルゴリズムとプログラミング（3）	和と平均の求め方	益岡 都萌
第5回	データの視覚的要約（1）	いろいろなグラフ（棒、円、折れ線、ヒストグラム、帯グラフなど）の作成方法について	益岡 都萌
第6回	データの視覚的要約（2）	度数分布表とヒストグラムの作成方法について	益岡 都萌
第7回	データの数値的要約（1）	平均値、中央値、最頻値	益岡 都萌
第8回	データの数値的要約（2）	分散、標準偏差、四分位範囲	益岡 都萌
第9回	2変量のデータのまとめ方	相関、回帰	益岡 都萌
第10回	多変量のデータのまとめ方	クロス集計表、オッズ比とリスク比、レーダーチャートの作成	益岡 都萌
第11回	母集団分布（1）	母集団と標本の関係、連続型確率分布の期待値と分散について	益岡 都萌
第12回	母集団分布（2）	離散型確率分布の期待値と分散について	益岡 都萌
第13回	総合演習（1）	医療・福祉・看護領域に関連するデータセットを用いた演習（記述統計、図表の作成等）	益岡 都萌
第14回	総合演習（2）	医療・福祉・看護領域に関連するデータセットを用いた演習（統計量に基づいた考察等）	益岡 都萌
第15回	総合演習（3）	具体的なデータセットを用いながら1～14回に学習した内容について振り返りを行う	益岡 都萌

年度	2025
科目名	家族と社会
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	15.0
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
講義開講時期	後期後半
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	S112

担当教員

氏名
◎ 河野 弥生

ディプロマポリシーとの関連性	2-2), 3-1)
授業の概要	家族は、私たちにとって最も身近な集団であると同時に、社会にとって重要な機能を果たす集団でもあります。授業では、家族とは何か、どのような役割をもつのか、近代化の過程でどのように変化してきたのか、といった問いに焦点を当てながら、現代社会における家族の特質を浮き彫りにし、個人と家族と社会との望ましい関係について考察します。
到達目標	1) 家族社会学の基本的な用語や概念を理解し、家族を客観的に見る目を養うことができる。 2) 現代日本の家庭変容について、動向を把握する力を身につけることができる。 3) 家族の諸問題を多様な視点からとらえ、自分なりに考察できるようになる。
予習・復習	予習 授業内容に書かれた言葉を手がかりに（例：インターネットで検索する）、学ぶ内容を想像しておいてください。 復習 配布資料（レジュメや新聞記事など）を読み直し、興味をもったテーマについて、さらに調べたり考察を深めたりしてください。 毎回の授業について、合計180分の予習と復習を求めます。
アクティブラーニング型授業の有無	無
双方向型授業のためのICT活用の有無	無
必須文献	なし 授業時にプリント資料を配付します。
参考文献	適宜示します。
評価の方法	期末試験（80%）、小レポート（20%）を目安として、総合的に判定します。 ※毎回「今日の課題」として提示した質問への回答を記入し、提出していただきます。それを「小レポート」に置き換えて評価に加えます。
課題に対するフィードバック	次回の授業において、提出された「今日の課題」（小レポート）の中から特徴的な見解や誤解についてコメントし、質問への解答を提示します。
受講生へのメッセージ	開講最低人数：5人 すべてを対面授業で行います。 授業でお話するように、家族を説明する概念や言葉は、こんなにも豊富です。それらの道具を使って家族を論理的にとらえる、という経験を楽しんではほしいと思っています。 オフィスアワー：授業終了後に教室、もしくは電子メールで質問を受け付けます。教員の連絡先は「初回」にお知らせします。 ※アクティブラーニングおよびICT（双方向型授業）は実施しません。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	家族とは何か (授業ガイドンスを含む)	まず、ガイドンスとして、授業全体の見取り図を示します。続いて、家族の定義や分類についての基本的な概念を学習し、日本の家族形態の変化を統計とともに把握します。	河野 弥生
第2回	近代家族の成立と変容	近代家族論の視点から日本の家族の戦後史をたどる【前編】 「戦後家族モデル」が標準家族のイメージとして定着する過程に焦点を当てます。	河野 弥生
第3回	多様化する家族	近代家族論の視点から日本の家族の戦後史をたどる【後編】 個人化や多様化の進む現代社会において、変化を迫られる家族のありようを捉えます。	河野 弥生
第4回	夫婦関係とジェンダーの問題	ジェンダー論の基礎概念を学び、社会に根を下ろした男女関係の構図が家族に与える影響を理解したうえで、DV（ドメスティック・バイオレンス）の社会的要因を考察します。	河野 弥生
第5回	少子化・親子関係と子育ての問題	親子関係の基礎概念を学び、少子化や児童虐待といった問題の社会的背景について理解を深めながら、現代社会における子育てについて望ましい環境のありかたを考えます。	河野 弥生
第6回	家族の病理（1） —親密圏の変容と共依存型社会	現代の家族を中心に広く見られるようになった「共依存」という問題について、個人や家族を取り巻く社会の変容と現代的特性から理解を試みます。	河野 弥生
第7回	家族の病理（2） —家族システムという視点	家族をシステムとしてとらえる思考法を学び、「ナラティブ・アプローチ」の概念を通して家族の問題に向き合う方法を考えます。	河野 弥生
第8回	まとめ -社会的ネットワークと家族-	授業をふり返り、これまで学んできた内容の理解を深めます。そのうえで、個人と家族と社会との関係について、今後のあり方を展望します。	河野 弥生

年度	2025
科目名	国際救援活動論Ⅰ
学部／大学院	看護学部 看護学科
講義区分	講義・演習
基準単位数	1.0
総開講時間数	45.0
代表曜日	木曜日
代表時限	4 時限
講義開講時期	後期
配当年次	1
配当セメスター	02
必修/選択	選択
カリキュラムナンバリングコード	N107

担当教員

氏名
◎ 高田 洋介
山内 万裕美

ディプロマポリシーとの関連性	1-1),2-2)
授業の概要	日本赤十字社国際部が開催するHealth ERU研修に患者役などで参加し、「Health ERU」を理解し、赤十字の国際活動に様々な形態があることを学びます。また、国際機関などを訪問し、海外で国際保健医療救援活動を経験した多職種の方々の活動報告を聞き、国内外の災害発生時への対応と、国際医療救援看護師に求められる能力について考えます。 ※ERU: Emergency Response Unit
到達目標	1)国内外における様々な救援組織とその活動について理解できる。 2)緊急支援としてのERUの役割・構成・活動内容について理解できる。 3)異文化理解が国際活動に必要であることが理解できる。 4)日本赤十字社の国際医療救援拠点病院の役割や機能について理解できる。 5)国際医療救援看護師に求められる能力について考えることができる。 6)赤十字に対する理解を深め、国内外の救援・救護活動における基本理念を説明することができる。
予習・復習	シナリオに沿って、傷病者役の準備をしていきます。傷病者役で想定されている文化的背景、疾患、症状、治療、家族構成や被災時の状況を事前学習を行い、演習で正確に演じられるよう授業で確認します。（予習として事前課題にします）。 毎時間、授業内容の予習および復習を30分間行い、理解を深めるようにしてください。
アクティブラーニング型授業の有無	有
必須文献	なし
参考文献	①八代京子(2009). 異文化コミュニケーションと国際理解. 三修社. ②デーヴィッド・マツモト(1999)/三木敦雄(訳)(1999). 日本人の国際適応力：新世紀を生き抜く四つの指針. 本の友社.
評価の方法	事前学習: 10%、研修（各役割の遂行）の取り組み: 40%、課題レポート: 50% 科目責任者が評価します。
課題に対するフィードバック	・事前学習した内容については、授業中にコメントをします。 *この授業は、原則として再試験は実施しません。
受講生へのメッセージ	国際救援・開発協力履修プログラムの必修科目です。 現役で活躍されている看護職の方などから、国際活動の実際について直接話を聞く貴重な機会があります。国内外を問わず、国際活動や国際看護、災害看護に興味がある皆さんの積極的な参加をお待ちしています。 兵庫県で開催されるERU研修に模擬患者役などで参加し現役の国際派遣要員の活動を学びます。また人と防災未来センターの見学および長田区での震災まち歩きを行い阪神淡路大震災について理解を深めます。 兵庫県へは別途旅費の自己負担があります。 現地での研修がない場合には、講義20コマのうち5コマを遠隔授業とし、その他を対面とします（スケジュールは変更になります）。 開講最低人数は10名以上となります。 オフィスアワー：授業後30分 講義室
授業計画	事前に課題に対しては個人ワーク、演習後はグループワークで学生が主体的に学ぶアクティブラーニングを行ないます。本科目は学外での演習を集中開講の形で提供します。

授業計画表

回	授業テーマ	内容	担当教員
第1回	コースガイダンス、日本赤十字社の国際救援の実際を理解する	国際赤十字と日本赤十字の誕生について理解する（復習） ・緊急救援（ERUの基礎知識を含む）、開発協力等 ・日本赤十字社の活動の中の国際医療救援活動（緊急人道支援、開発協力、災害救護等） 対面またはオンライン授業 ・ICRCとIFRCの活動の相違	高田 洋介
第2回	EMTイニシアチブに準じたERUの整備について知る	・国際医療救援拠点病院について ・WHO-EMT イニシアチブ ・Health ERUの実際の活動 ・ERUの目的、役割、構成 対面またはオンライン授業	高田 洋介
第3回	被災者の傷病名と症状、心理状態などの共通理解をする（兵庫ERU研修事前準備として）	ERU研修のシナリオを元にして演習事前準備をする ・被災者の文化的背景を理解する ・被災者の健康問題（疾病・症状・治療ケア等）を理解する ・被災者の心理状態を考える 対面またはオンライン授業 ・配役によっては、必要物品を考える 予習：自分が演じる役の疾病、心理状態等について考えてくる（事前課題）	高田 洋介
第4回	被災者の傷病名と症状、心理状態などの共通理解をする（兵庫ERU研修事前準備として）	ERU研修のシナリオを元にして演習事前準備をする ・被災者の文化的背景を理解する ・被災者の健康問題（疾病・症状・治療ケア等）を理解する ・被災者の心理状態を考える ・配役によっては、必要物品を考える 予習：自分が演じる役の疾病、心理状態等について考えてくる（事前課題） 対面またはオンライン授業	高田 洋介
第5回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】 学生 1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島	高田 洋介
第6回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】 学生 1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島	高田 洋介
第7回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】 学生 1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島	高田 洋介
第8回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】 学生 1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島	高田 洋介

第9回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	<p>第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】学生1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島</p>	高田 洋介
第10回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	<p>第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】学生1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島</p>	高田 洋介
第11回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	<p>第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】学生1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島</p>	高田 洋介
第12回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	<p>第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】学生1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島</p>	高田 洋介
第13回	演習（ERU研修、人と防災未来センター等）	<p>第5回から13回までを学外演習で実施する。 仮予定 【料金】学生1人あたり 約55,000円 1日目：広島→新神戸へ 2日目：新神戸→三木（兵庫県総合防災センター）Health ERU研修（患者役で参加）+ERU研修生へのフィードバック 3日目：JICA関西（海外協力隊講話聴講）、人と防災未来センター見学+語り部講話聴講 新神戸→広島</p>	高田 洋介
第14回	演習まとめと学びの共有	<p>演習中の学びについて、お互いに情報を共有する 国際救援看護師に求められる能力についてGWを通して考察する。 安全管理についての講義と演習を行う 対面またはオンライン授業</p>	高田 洋介
第15回	今後に向けた課題の明確化	<p>ICNの災害看護のコアコンピテンシーについて解説します。そのうえで国際救援看護師に必要な能力を身に着けるために、自分たちに必要なことは何かを考える。 ・各自の現時点での課題（目標）を明らかにし、今後の学生生活をいかに過ごすかを考える。 対面またはオンライン授業</p>	高田 洋介